

# 2023 年度事業報告

## ◆ 目 次 ◆

法人本部 .....	p.1
こぐま保育園 .....	p.5
向山保育園 .....	p.18
砧保育園 .....	p.32
上北沢こぐま保育園 .....	p.50
しろくま保育園 .....	p.64
永山小学童クラブ .....	p.68
貝取学童クラブ .....	p.77
永山学童クラブ .....	p.88
貝取小学童クラブ .....	p.99
貝取小放課後子ども教室 .....	p.108



# 2023 年度社会福祉法人多摩福祉会事業報告

## 1. 綱領策定、中期計画、BCP

### ● 綱領策定

2022 年 7 月の第 1 回綱領策定委員会から 16 回（～2024 年 3 月）の委員会の論議を経て、リーフと小冊子を作成することができた。今後はこの綱領（わたしたちのめざすもの）を法人の基本とし、各施設が常に綱領に立ち返って多摩福祉会らしい運営をめざす。

### ● 中期計画

具体的な見直しを行うことはできなかったが、事業計画に掲げたしろくま保育園の開園、貝取小学校放課後子ども教室の開設をおこなうことができた。こぐま保育園修繕計画、向山保育園委託契約の更新、多摩市以外での学童保育事業、人事計画など様々な課題を見通すうえでも中長期計画の具体化が求められる。

### ● BCP

法人本部の BCP（事業継続計画）策定に着手することはできなかった。

## 2. 練馬区谷原地域新保育園建設計画

### ● 新園開設にむけて

新園開設準備委員会を中心に、本部の協力のもと準備を推進した。建設、設計、建設費管理、練馬区との協議、谷原保育園、保護者との懇談、引継ぎ等を実施し、東京都の検査を経て 2024 年 4 月に無事開園することができた。

### ● 人事異動、採用

異動予定者の変更等もあったが異動人事を確定し、必要職員の採用もおこなうことができた。

## 3. 多摩市放課後子ども教室事業受託

2023 年 10 月より貝取小学校内で放課後子ども教室の半年契約での運営をおこなってきた。2024 年度以降も引き続き運営をおこなうことになったが、夏休み中の実施、委託費等の見通しも含めて市との協議を進めていく必要がある。

#### 4. 評議員会、理事会

- **評議員会の開催**

定時評議員会及び臨時評議員会を対面と WEB 併用で 4 回開催。事業計画・事業報告、予算決算書類の承認等について意見交換をおこなってきた。

- **理事会の開催**

理事会を対面と WEB 併用で 11 回開催（うち 3 回は決議の省略）。事業計画・事業報告、予算決算書類の承認、新園関係、諸規程の改廃等について意見交換をおこなってきた。また、法人全体の日常運営、経営及び保育内容に関して定期監査を実施した。

#### 5. 経営会議、各種委員会等

- **経営会議の開催**

- ・ 理事長、常務理事、理事長指名の理事、各拠点代表により構成される経営会議を 23 回おこなった。人事採用・異動、処遇改善、研修事業、各拠点から出される運営課題、研修等の審議執行をおこなった。
- ・ 幹部研修は 8 回実施した。
- ・ 学習と交流を含めて初めての 1 泊研修を実施した。

- **事務局会議の開催**

経営会議前に事務局会議をおこなった。経営会議の議題整理をすることで、議事がスムーズにおこなわれるようになった。

- **施設長会議、課題別会議**

- ・ 月 1 回、経営会議前に施設長会議をおこなった。各自治体の保育政策、各施設が抱える課題等について情報を共有、施設間体制協力、学童クラブと保育園との交流等も意識的にこなわれるようになった。
- ・ 施設長会議の他、人事委員会、リクルート委員会、研修委員会、広報委員会等の課題別各種委員会をおこなった。リクルート委員会は新園開設に伴う職員採用もあり例年にない取り組みをおこない、各拠点希望の職員数を採用した。
- ・ 職種別会議として事務担当者会議、給食部会、保健部会をおこなった。
- ・ 各施設で対応できない困難な課題は当該施設、理事、本部職員によるチームで対応にあたっている。

- **法人本部**

法人本部は、法人業務財務業務統括、総務・リクルート業務統括、労務管理等業務統括と任務を明確にし常勤 3 名体制で運営してきたが、新たに 2 拠点が増えたこと等に伴っての体制強化が課題となる。

## 6. 対外任務・対外交流・社会問題

### ● 対外任務

社会福祉経営全国会議、全国民間保育園経営研究懇話会、全国保育団体連絡会、東京保育経営研究懇話会、日本学童保育学会、全国幼年教育研究協議会でそれぞれ役員として任務を果たした。施設長は、関係自治体施設長会議に出席し地域事業の推進に積極的役割を果たした。

### ● 対外交流

- ・ 愛知の新瑞福祉会、福島のわたり福祉会、当法人の3法人による主任（副園長）交流に4回参加した。
- ・ 2023年12月の第2回社会福祉経営研究交流会の実行委員会に参加し、実行委員長、事務局任務、分科会でのレポート提案等を担ってきた。
- ・ 郡馬の新生会、東京の和光会との交流をおこなった。

## 7. 人事管理・採用・研修

### ● 職員処遇

事務担当者会議を中心に国の人事院勧告分を含め、職員の処遇改善を実施した。

### ● 職員人事データ管理

入退職、法人内職位、辞令交付等、各拠点の事務担当者と連携をとりながら進めてきた。

### ● 職員採用、人事異動

しろくま保育園の開園にむけて、リクルート委員会を中心に、学校訪問、オンライン説明会、リクルートパンフレットの更新、外部就職フェアへの参加、ホームページの開設、リニューアル等の取り組みをおこない、各拠点希望の職種に応じた職員を確保することができた。今後とも不本意な退職者を生まない運営が求められる。

### ● 人事異動

- ・ 予定されていた理事長、施設長交代をおこなった。  
垣内国光理事長退任、安川信一郎理事長就任  
こぐま保育園高橋博子園長退任に伴い針尾政幹副園長を園長に選任  
永山小学童クラブ和田玲子施設長退任に伴い貝取小学童クラブ中村真理子施設長の永山小学童クラブへの施設長異動、及び岡真理子主任を貝取小学童クラブ施設長に選任  
しろくま保育園佐藤博樹園長就任
- ・ しろくま保育園開園に伴う各施設からの異動希望アンケート及び、他施設への異動希望アンケートを実施した。

- ・ 各施設に新人担当のメンターを置き、対応してきた。幹部職員へのメンタルケアは今後の課題となる。
- **職員研修**
  - ・ 新入職員研修、中堅層研修、法人合研は研修委員会、新人交流会はリクルート委員会が責任をもって実施した。
  - ・ 社会福祉経営全国会議主催の管理職養成学校に幹部 1 名を入校させ、幹部育成をおこなった。
  - ・ 全国合研集会、全国学童保育研究集会、全国経営懇研修、東京経営懇主催研修、福祉経営研究交流集会等の外部研修に参加し、レポート提案など積極的に協力した。
  - ・ 各施設が、保育士配置基準、学童保育支援員配置基準改善などの運動に取り組んできた。経営会議にて“こども誰でも通園制度”の学習会を実施した。

## 8. 地域貢献・災害対策

- **地域貢献**

拠点ごとに地域向け支援として“あそぼう会”“子育て広場事業”“一時保育”“こども食堂”“学び場”など、地域状況に応じて必要な事業を実施した。
- **災害対応**

大災害に対応できる各施設危機管理計画策定、大災害時の地域貢献の検討はすすめることができなかった。

## 9. 広報・ICT化

- **法人ニュース**

法人誌「たまふく」17号～19号を発行した。
- **法人ホームページ**

全施設のホームページの定期的な更新をおこなうため、各施設から担当者を選出した。
- **SNS**

リアルタイムな記事の投稿をおこなうため各施設がSNS担当者を選出した。
- **ICT化**

各施設のICT化は開始できなかった。

## こぐま保育園 2023 年度 事業報告

### 1. 実施事業内容

#### 1) 定員・入園状況

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
認可定員	21	35	38	39	39	39	211
利用定員	15	32	35	38	39	39	198
4 月空き	5					1	
運用定員変更 (1 月)	18	32	35	38	39	39	201

(4 月利用定員を 0 歳児 6 名、1 歳児 3 名、2 歳児 3 名、3 歳児 1 名減に変更。)

#### 2) 途中退園児

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
途中退園	2	3	4	4	0	3	16

#### 3) 途中入園児

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
5 月	1						1
6 月	1	1	1				3
7 月	2						2
8 月	2						2
9 月	1	1					2
10 月							0
11 月				1			1
12 月			1				1
1 月	2		1	2			5
2 月	1			1	1	1	4
3 月							0
合計	10	2	3	4	1	1	20

- (1) 保育年齢 産休明け～就学前
- (2) 保育時間 7：00～19：00
- (3) 延長保育事業 18：00～19：00
- (4) 1～5歳児の異年齢保育
- (5) 障がい児保育
- (6) アレルギー食対応
- (7) 地域子育て支援事業
  - 体験保育 7 家庭 14 名
  - 産前産後育児体験 5 家庭 9 名
  - 小中高生の育児体験 11 名
  - 実習生受け入れ 8 名
- (8) 多摩市特別保育事業
  - ① 一時・定期利用保育事業
    - イ) 利用定員及び利用数：定期利用 登録総数 8 名  
延べ人数 438 名
    - 一時利用 登録総数 38 名  
延べ人数 586 名
  - ロ) 保育職員体制：常勤 1 名・非常勤職員 2 名（10 月より非常勤職員 1 名増員）
- (9) 自主地域活動事業
  - ① あそぼうかい：定期開催 火曜日 0～3 歳児利用（延べ利用人数 153 名）
  - ② 育児講座 未実施
  - ③ 世代間交流 収穫祭り 冬まつりにセンター利用者参加

## 2. 児童状況

### (1) 児童状況

#### ① きょうだい関係

	にじ	やま	そら	うみ	かぜ	もり	合計
世帯数	8	9	5	6	8	6	34

- ② 育児困難・配慮家庭 15 家庭 児童数 20 名（関係機関連携）
- ③ 発達観察要配慮児童 9 名（診断ならびに専門機関と連携あり）
- ④ アレルギー食対応児 7 名
- ⑤ 外国人家庭配慮 4 名



宗教食対応児	2名（牛、豚）
児童言語配慮	2名
保護者言語配慮	3家庭

### 3. 職員状況

(1) 正職員（在籍） 46名

<正職員配置状況>

職種	園長	副園長	事務長	主任	チーフ	保育士	看護師	栄養士	調理員	育休	合計
人数	1	3	1	1	1	29	1	5	0	4	46

- ① 新規採用者 1名（栄養士）
- ② 産休・育休取得者 4名
- ③ 病休・休職取得 4名
- ④ 育休復帰者 4名
- ⑤ 育児時間短縮勤務 3名
- ⑥ 短時間正職員制度利用 無
- ⑦ 異動職員 1名（給食砦保育園より）
- ⑧ 退職者 2名（24年3月末日付）

(2) 有期契約職員等

1) 配置状況

- ① 有期契約職員
  - イ) 年度当初配置数 36名（4月入職4名）  
うち有資格長時間勤務者6名、その他有資格者4名、子育て支援員4名
  - ロ) 年度途中入職6名。
  - ハ) 退職11名（うち2名2024年3月末退職）
- ② 派遣職員 3名（年度途中派遣 産休・病休代替え）
- ③ 業務委託 5名（保育実践アドバイザー、事務室補助、駐車場見守り）

<配置状況>

人員数	にじ	やま	そら	うみ	かぜ	もり	給食	ちい くま	環境 衛生	事務 室	業務 委託
4月	5	4	4	4	7	6	6	2	2	4	5
年度末 (派遣数)	4 (1)	4	6 (1)	4	5	7	6	2	2	3 (1)	5

2) 嘱託医 3名

- ① 小児科医 1名 (松本 多絵医師 日本医科大学永山病院小児科医局長)
- ② 産業医 1名 (加藤 真医師 横浜市立大学附属市民総合医療センター)
- ③ 歯科医 1名 (三上 直一郎歯科医 三上歯科医院)

3) 講師等 2名

- ① わらべうた 勝俣希子
- ② 保育実践アドバイザー 谷 まち子

#### 4. 協力関係機関

- (1) 島田療育センター巡回指導 必要回数
- (2) 発達支援室巡回 必要回数
- (3) 市・健康センター、子ども家庭支援センターへの相談と連携 必要回数
- (4) 都保健所保健指導、児童相談所相談等の援助・協力 必要回数
- (5) 産業医との連携 年4回

#### 5. 重点とする取り組みについての報告

コロナ禍となり3年が経過します。昨年度の冬まつりでは3年ぶりに保護者の参加を復活させることができ、子どもたち、保護者、職員にとって大きな喜びとなりました。

2022年度同様子どもたち、職員、保護者の主体性が発揮されるよう取り組み、子どもたちの権利が最大限守られるよう力を合わせていきます。

(1) 地域要求をもとに定員変更計画を実施します。

→ 0歳児の利用定員を15名へ改定して取り組み、23年度4月は5名の空き定員に抑えることができ、8月にはそれを解消することができました。同時に保護者が望む「満1歳の育休明け時期の復帰入所」の要望に応えることができました。

また、家庭事情の変化による年度途中での転園退園が多く、年度途中入所児童も多くなりました。さらに、0歳児定員については、後半期に入所を希望する家庭が多くなっている地域事情を鑑み、1月から0歳児3名の運用定員増にとりくみ、新年度を見通して入所してくる0歳児の異年齢クラスでの受け入れを行いました。その結果0歳児と同時に、そのきょうだいの同時入園希望が3家庭あり、その点に関する地域要求も強いことがわかりました。

多摩市の施策との関連では、桜ヶ丘駅周辺の新築タワーマンションがある地域以外はすべての地域で人口、乳幼児人口とも減少している実態が園長会において報告され、多摩市は25年度に「子育てしたいと思ってもらえる多摩市」をめざして、子

育て支援施策の全般改定を予定しています。改定に向けて、市は保育園施策としては国の施策である「誰でも通園制度」24年度を試行の年と位置付けることとなりました。

このような市の状況、永山諏訪地域の定員割れ状況を踏まえ、法人でも年間を通して中期計画について検討を重ね、今後5年間で120名程度の園規模を目指す定員適正化計画に変更していく次年度見通しを出しました。

また、長年自主事業として取り組んでいる「あそぼうかい」や、「一時保育事業」はコロナ禍と乳幼児人口減により参加者が少なくなっていました。今年度は0歳児から2歳児まで合同で週1回取り組み、参加者が増えてきていました。その結果24年度にその参加者や一時保育利用家庭から9名の入所があったことは、そのような取り組みが求められていることを示す結果となりました。

## (2) 新たな課題による財政問題に取り組む。

- ➔ 取り組みの結果(1)で述べたように次年度以降の中期見通しの修正という結果となりました。定員の適正化を進めていくこと、職員配置についても適正な人件費率にしていきます。

また、修繕については前年度末に実施予定であった南庭人工芝張替工事という中規模修繕は行ったものの、それ以外については、必要最低限の修繕工事のみで財源の低廉化に努めることとしました。一方で、本年度単独補助となった安全対策補助事業を利用して中庭の木部遊具修繕を実施することができました。積極的に補助事業を利用して持ち出しは少なく実効性のある修繕に今後も務めていきます。

## (3) 子どもの主体性、自主性が発揮できるよう保育を目指しました。

- ① 23年度は生活における感染症への制限はなく過ごすことができるようになりました。行事についても3年ぶりに在園児と家族は一同に集めることができようになり、喜びもひとしおとなりました。コロナ禍前を知らない保護者が大半となり、行事参加に関して保護者の関心は様々ですが、子どもたちを真ん中にたくさん考えあえた年度となりました。

しかし、生活面に関しては制限を受けていた環境下で子どもたちの生活行為が自身の喜びとなっていない例も見え、コロナ禍の環境の変化が与えた影響が様々なところに及んでいるのではないかと危惧されます。

- ② 情報に関する事故から、情報管理の方法について事務室で点検できるようなシステムづくりに取り組みました。カメラ管理については検討を重ねつつ課題を残す形となり、保育の課題との兼ね合いで検討を継続していくこととなりました。

**(4) 歴史の上に立って保育内容を検討することにより保育内容を発展させます。**

- ➔ 総括会議、職員会議、責任者会議など、様々な場面で50年誌から引用した資料を利用して学習を行いました。特に総括会議では、園長やベテラン保育士より、実体験に基づいた生の声を聴きながら、振り返ることができたのはとても大きな学びとなりました。
- それと同時に、責任者会議などで運営上の様々な工夫に対する変遷と“なぜ”を振り返りながら、今後の運営を考えていく作業を集団で行うことができました。そのことにより、行事の再編に取り組む、責任者と対になり保育を中長期的に見通す質を高めるための学習機会など、具体的な運営の工夫を実施することができました。

**(5) 保育上の課題を明らかにして取り組めるよう、昨年度途中から継続して保育実践について相談できるアドバイザーを置き、事例検討の実施や研究会の活性化を図るなどして実践を検討していきます。**

- ➔ 各クラスの保育状況をアドバイザーが観察し、個別ケース検討会を実施することで、個別配慮と共に各クラスの保育課題検討の糸口となりました。

**(6) 職員の主体性が発揮できる運営を発展させます。**

**① 幹部体制、事務室体制の構築**

- ➔ 諸事情により副園長が2名体制となる中、引継ぎを目指した体制づくりに努力してきました。事務室から現場の緊急時には応援する体制をとりつつ、0歳児グループ担任として派遣職員を置くなど全園の職員の努力により、運営課題に向かいつつ深めあい、次年度園長交代を含む幹部基盤づくりに取り組みました。

**② 仕事の基本点を深め合いつつ、職員集団づくりに取り組みます。**

- ➔ 「子どもの主体性を引き出す」という点を1年通して深める必要がありました。責任者会議でも深められるよう目指しましたが、さらに重点をおく必要があり、次年度の課題となりました。3か月期の見通しを立てていくことを目的とした研究検討会を置き、多様な視点を持って保育を考える一助となりました。

幹部は現場の課題や職員の悩みによりそいつつ、視点の提供や現場の直接支援に取り組む、保育内容の深めあいに結びつくよう努力しました。

**③ 職員体制、構成の検討再構築をおこないます。**

- ➔ 幹部体制については、副園長3名体制を計画していたが、諸事情により実施することができませんでした。これまでの業務分担を基本にしつつも、業務内容の共有化と相互性を生かした創意工夫の中で引継ぎを行いました。

一方、有期契約職員の働き方については、新たに給食部門で1名長時間契約者を確保することができ、園全体として7名の長時間契約者の力を借りることで、安定的な運営

を実施することができました。

④ 働く環境をととのえ、働きやすい職場づくりを行います。

- ➔ 2024 年度 4 月より、有期契約職員固定給制度を運用できるよう、諸規程の改定を実施することができました。職員会への周知後も、新たな働き方を希望する方、興味を示す方が多くみられ、ニーズをとらえた運用となっていたことを実感することができた。そうした変化から生まれた力を借りながら、育児時短の取得に対する安定度を高めることもでき、子育て世代とそれを支えていく職員双方のサポートへとつながったと考えます。一方で、そのサポート体制も十分ではないことは事実であり、同時に育児短時間勤務制度、短時間正規職員制度など既存の諸制度も変革が必要であるため、引き続きの課題としていきたいと考えます。

⑤ 積極的な人事交流を行います

- ➔ しろくま保育園開園に向けた研修を含め、見学交流を多数行うことができました。学童期を見通した保育や他施設に対する関心が深まり、その結果、職員から異動希望が出されるまでになり、今後の保育内容の深め合いの発展につながりました。

**(7) 保護者と共に子育てを考え、互いに力を出し合う運営を発展させます。**

- ➔ 近年のコロナ禍では日々の生活や行事等を体験的に見ていただく機会がなかなか持てなかった状況から、23 年度は少しずつ改善され、機会が増えてきた一年でした。懇談会も対面で行えるようになり、集まってやり取りすることの心地よさや大切さを改めて感じることができました。

五者協や「誰でも懇談会」での意見交換などを行うことで、各おうちだけでない意見交換の場となり、多様な要望を拾い、園と保護者が互いの理解を深めることにつながりました。

**(8) 地域の人々にとっての福祉環境の発展に貢献します。**

- ① 23 年度は人数制限なく「あそぼうかい」を年齢合同で週 1 回取り組み、離乳食教室も再開しました。年齢合同にしたことにより、異年齢保育と同じように、年齢の小さい児童が大きい児童を模倣する姿や、互いに刺激し合う姿が見られました。継続しての参加や在園児の育休中の家庭の参加があり、また、離乳食教室では参加家庭の要望により調理デモにも取り組むことができました。児童館との連携により、個々の家庭にとって何が必要かを考えあい、必要な支援を検討する場ともなっています。

市では 25 年の子育て施策再編の内容としてひろば事業をいくつか保育園に運営委託することを検討しており、長年の取り組みと要望が評価されることにつながり

ました。

世代間交流では、利用者が世話人会を作って、子育て福祉センターで月に数回土曜日にシニアサークルに取り組んでいます。保育行事とタイアップして交流し、地域のシニア世代との交流という取り組みも実施することができました。

- ② 定期利用 8 名、一時保育登録 38 名が利用しました。

幼稚園で満 3 歳になったら入所できる、「満 3 歳児保育」の取り組みが始まり、2 歳児の利用が少なくなっている現状です。また、年明けから満 1 歳になった児童の利用希望が増大し、受け入れに苦慮する状況が発生しました。

また、園と支援機関との連携により利用時の保育園入所に結びついた例もあり、各家庭状況に合わせて支援に結びつける地域の大切な財産としての役割が果たせるよう制度の充実が求められます。

一方では、本来定期利用保育は通常入所が難しかった家庭の救済措置としての側面がありながらも、「入所が決まっても、利用料の安い定期利用保育を希望する」「第二子無償化対象に切り替わると同時に、第二子の定期利用の希望家庭の増加」などの姿が顕著に表れ、保護者のニーズと通常保育、一時保育の制度や補助金、家庭が保育園にかける財政的な考えや価値観がどんどん変化しているようにも感じており、制度とのギャップが生じている状況です。

- ③ 就学に向け幼児が日常生活の中で遊びに行ける施設としての交流を始め、職員にとっても良い刺激となっています。

- ④ 五者協を年 4 回行い、それぞれ団体の状況交流や意見交換を行いました。また、同窓会は夏祭りはまだコロナ禍の制限があったため、同日の夏祭り終了時に永山小の校庭を借りて花火大会を行い、大盛況でした。

## 6. 職員研修実施状況

2023 年度、研修計画の策定に当たっては大きく以下の点について 5 つの柱を立て進めていく必要性があり、その柱を重点として具体的な実施案の作成を行っていきます。

以下に立てた柱は、これからのこぐま保育園の基礎を改めて固めていくうえで欠かすことのできない柱になると考えます。子どもたちから学び、職員自らが学びあい、専門職としての基礎を培い、その土台の上に「楽しく、豊かな保育の創造」を行っていくことこそが、子どもたちのためでもあり、“職員が働きがいのある民主的な職場”作りへとつながっていくと考えます。

また、昨今のデジタル化が進む社会の中で、さらなる情報管理意識の徹底のために、具

体的な研修計画を立てながら職員全体へとつなげていきます。

- 1) 園内研修・法人研修
- 2) 出張研修（状況に応じてオンラインなどにも参加します。）
- 3) キャリアアップ研修
- 4) 法人の 50 年・こぐまの 50 年から学び発展するために
- 5) 情報管理ならびに個人情報保護に関する研修について

➔ 研修については上記 5 本の柱を中心に具体的実践を行ってきました。特に、他施設への見学研修、各種研修会への発表、2 年目以降の職員を含めた系統的な新人研修およびキャリアアップ研修の積極的な受講に取り組むことができました。鎌倉の保育園への施設見学研修は、第 3 期総括会議にて職員全体にフィードバックすることができ、それを基に「保育の質」「保育を取り巻く制度」など多角的に論議を深めることができました。

## 7. 修繕実施状況

2023 年度は中・長期修繕計画に基づき修繕を行います。法人本部、設計管理業者との意見交換も含め、建て替えの見通しを 2050～55 年頃に置き、躯体部分の維持管理と内装部の軽微修繕計画を立てて進めていく年となります。

躯体部分については、クラックの発生、それに伴う雨漏りの多発、屋根の防水部の劣化など、多岐に渡る修繕が必要な箇所が発生しています。子どもたちを安全・安心に保育をしていくために、必要な修繕について行っていきます。

一方で、修繕にはそれ相応の財政出動が必要となります。工事費が大きな支出になることに加え、物価高騰による工事費高騰が予想されます。補助金等の収入は見込めないため、施設整備積立金の取崩しや福祉医療機構借入金の検討、拠点間繰入等、法人全体で進めていきます。また、自治体格差が大きく財政的裏付けが乏しい特徴があるため、費用の低廉化は精査等については、大変重要な要素となるため、法人本部、設計会社等の専門家らにも力を借りながら進めていく必要があります。

修繕箇所：建具修繕・照明器具修繕・外壁工事・屋根部防水工事等

➔ 外壁工事・屋根部防水工事等の大型修繕については、未実施としました。一方で、建具修繕、照明器具修繕、その他厨房用冷蔵庫等の機器更新については実施することができました。関係業者の協力もあり、どの修繕や機器更新についても当初予定よりも大幅な減額を達成することができました。今後も価格の低廉化に努めていきます。

## 2023年度 こぐま保育園

## 参加研修一覧（出張）

NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名
1	事務室/事務長	しょうがい児保育	保育協議会	リモート	11月17日、11月20日 11月28日	食育・アレルギー
2	事務室/副園長	保護者支援・子育て支援	ウェルフェア	リモート	8月18日	保護者支援・子育て支援
3	事務室/主任	保護者支援・子育て支援	ウェルフェア	リモート	6月4日	保護者支援・子育て支援
4	事務室/主任	幼児保育	ウェルフェア	リモート	6月4日	幼児保育
5	事務室/主任	幼児保育	ウェルフェア	リモート	9月11日	幼児保育
6	事務室/主任	保護者支援・子育て支援	ウェルフェア	リモート	10月6日	保護者支援・子育て支援
7	やま/責任者	食育・アレルギー	保育協議会	リモート	9月25日、9月28日 9月29日	食育・アレルギー
8	やま	幼児保育	経営懇	保育プラザ	5月31日、6月28日 7月26日、9月27日	幼児保育
9	そら	乳児保育	経営懇	保育プラザ	6月14日、7月12日 9月6日、10月11日	乳児保育
10	そら	幼児保育	保育協議会	リモート	12月1日、12月8日 12月15日	幼児保育
11	うみ/責任者	しょうがい児保育	保育協議会	リモート	11月17日、11月20日 11月28日	しょうがい児保育
12	うみ	乳児保育	経営懇	保育プラザ	6月14日、7月12日 9月6日、10月11日	乳児保育
13	かぜ	幼児保育	保育協議会	リモート	12月1日、12月8日 12月15日	幼児保育
14	かぜ	乳児保育	経営懇	保育プラザ	6月14日、7月12日 9月6日、10月11日	乳児保育
15	もり	しょうがい児保育	多摩市保育協議会	リモート	11月17日のみ受講 二回目が体調不良で欠席	しょうがい児保育
16	もり	幼児保育	経営懇	保育プラザ	5月31日、6月28日 7月26日、9月27日	幼児保育
17	もり	保健衛生・安全対策	保育協議会	保育プラザ	10月19日、11月2日 11月9日	保健衛生・安全対策
18	給食	食育・アレルギー	保育協議会	リモート	9月25日、9月28日 9月29日	食育・アレルギー
19	給食	保健衛生・安全対策	保育協議会	リモート	10月19日、11月2日 11月9日	保健衛生・安全対策
20	にじ	乳児保育	保育協議会	リモート	9月12日、10月11日 10月12日、1月25日	乳児保育
21	にじ/責任者	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	オンデマンド	8月15日～9月18日	園の大人同士の関係どうしてる？ どうしたい？
22	にじ	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	オンライン	7月29日～30日	・コロナ禍の経験を土台に考える これからの保育、子育て
23	にじ	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	オンライン	7月29日～31日	0.1.2歳児とつくる心地よい生活 乳児の声を聴くってどういうこ
24	事務室（にじ）/主任	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	オンデマンド	8月15日～9月18日	夢中になって遊びこむ保育を 乳児の声を聴くってどういうこ
25	やま	多様な子どもたちの発達支援	一般社団法人 チャイルドフット・ラボ	Zoom	8月4日	多様な子ども達の発達支援
26	やま	幼児のための絵画指導入門	芸術と遊びラボ	ビジョンセンター 浜松町	8月7日	幼児のための絵画指導入門
27	やま	しろくまツアー	こぐま保育園	しろくま保育園建設現地	8月10日	新園開設にあたり周辺環境や イメージを膨らませるため
28	やま	わらべうた研修	全幼協			わらべうた
29	やま	新人研修	こぐま保育園	こぐま保育園		
30	やま	しろくまツアー	こぐま保育園	しろくま保育園建設現地	8月3日	新園開設にあたり周辺環境や イメージを膨らませるため
31	そら	発達が気になる子どもの遊びと保育	夏の芸術教育学校	ビジョンセンター 浜松町	8月1日	発達が気になる子どもの 遊びと保育
32	そら	しろくまツアー	こぐま保育園	しろくま保育園建設現地	8月3日	新園開設にあたり周辺環境や イメージを膨らませるため
33	そら	気がかかる子どもとともに インクルーシブな保育実践	チャイルド社	Zoom	7月18日～8月1日	インクルーシブな保育実践
34	そら	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	オンデマンド	7月29日～9月18日	気になる子どもの理解のために
35	そら	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	オンデマンド	7月30日	
36	そら/責任者	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	オンデマンド	8月15日～9月18日	



NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名
37	そら/責任者	幼児のための絵画指導入門	芸術と遊びラボ	ビジョンセンター 浜松町	8月7日	子どもの書きたいを応援できる
38	そら/責任者	しろくまツアー	こぐま保育園	しろくま保育園 建設現地	8月3日	新園開設にあたり周辺環境や イメージを膨らませるため
39	うみ/責任者	幼児のための絵画指導入門	芸術と遊びラボ	ビジョンセンター 浜松町	8月4日	
40	うみ/責任者	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	Zoom	7月29日～9月18日	
41	うみ	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	磐梯熱海	7月29日～7月31日	
42	うみ	しろくま研修	しろくま保育園	向山保育園		
43	うみ	わらべうたで遊ぼう	全幼協	南柏幼稚園	4月29日（土）	わらべうた
44	うみ	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	Zoom	8月15日～9月18日	
45	かぜ	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	Zoom		
46	かぜ	幼児のための絵画指導入門	芸術と遊びラボ	ビジョンセンター 浜松町	8月4日	
47	かぜ	ちいなか年間購読	ちいさいなかま	年間購読	通年	
48	もり/責任者	すべての子どもの権利を実現する インクルーシブ保育へ	ひとなる書房	書籍	7月10日	
49	もり/責任者	子どもの文化学校	子どもの文化研究所	オンライン	6月30日～12月1日 までの間	報告書未？
50	もり/責任者	しろくまツアー	こぐま保育園	しろくま保育園現地	8月3日	新園開設にあたり周辺環境や イメージを膨らませるため
51	もり	しろくまツアー	こぐま保育園	しろくま保育園建設現地		新園開設にあたり周辺環境や イメージを膨らませるため
52	もり	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	福島県磐梯熱海	7月29日～7月31日	・0.1.2歳児とつくる心地よい生活 ・乳児の声を聴くってどういうこ
53	給食	給食担当者講習	東社協	リモート	6月14～ 2月7日の期間で	・保育所における食育の在り方 ・災害時の栄養・食生活支援に
54	給食	しろくまツアー	こぐま保育園	しろくま保育園建設現地	8月3日	新園開設にあたり周辺環境や イメージを膨らませるため
55	給食	東北地区民間教育研究団体 合同研究集会	東北地区民間教育研究団体 連絡協議会	浅虫さくら観光ホテル （青森）	8月8日～8月10日	学校の中に人間の息吹を!! 子どもたちに希望を！教育に自由
56	給食	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	磐梯熱海	7月29日～7月31日	・園のおとな同士の関係、 どうしてる？どうしたい？
57	給食	ハンディキャップ	多摩市保育協議会	島田療育センター	6月30日	ST
58	給食	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	磐梯熱海	7月29日～7月30日	夢中になって遊びこむ保育を
59	事務室	しろくまツアー	こぐま保育園	しろくま保育園現地	8月3日	新園開設にあたり周辺環境や イメージを膨らませるため
60	事務室	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	Zoom	8月15日～9月18日	大人も子どももっと甘えて大丈夫
61	事務室	書籍	あすなろ書房	書籍	7月15日	すべての子どもの権利を実現する インクルーシブ保育へ
62	事務室	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	Zoom	9月9日	気になる子どもの理解のために
63	事務室	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	Zoom	8月30日	保育情勢講座
64	事務室	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	Zoom	8月15日～9月18日	保育、子育て講座
65	事務室	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会 実行委員	Zoom	9月14日	4月からスタートした 子ども家庭庁と保育

## 2023年度 こぐま保育園

## 参加研修一覧

園全体の研修他						
NO.	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	備考
1	保育実践辞令検討会		●●保育園	年3回	●●先生	
2	新人研修	多摩福祉会	こぐま保育園	年1回	法人理念と保育園を理解する	
3	職員会議	こぐま保育園	こぐま保育園	4月27日	2024年度職員体制、 2023年度職員体制変更について こぐま保育園定員変更について 不適切保育について	
4	第一期総括会議	こぐま保育園	こぐま保育園	5月13日	不適切保育についての学習 実践報告 分散会	
5	一年生の集い	同窓会	こぐま保育園	5月13日	小学校教員谷脇さんを招いて 小学一年生についての話、懇談	
6	新人研修	こぐま保育園	こぐま保育園	4月4日	異年齢保育についての研修	
7	新人研修	こぐま保育園	こぐま保育園	4月3日	異年齢保育とグループ担当制 についての研修	
8	主任・副園長交流会	法人	リモート	6月21日	・新年度、新体制になって思っ ていることや困っていることの交流 ・第一回交流会を経て	
9	東京経営懇年次総会	東京経営懇	リモート	6月12日		
10	栄養事務研修	多摩福祉会 給食部会	リモート	6月9日	栄養事務の研修	出張研修
11	ドル平研修	こぐま保育園	こぐま保育園	6月27日	ドル平泳法について学ぶ	
12	応急救護研修	こぐま保育園	こぐま保育園ホール	6月22日	消防士の指導による応急救護研修 13:30~14:15 14:15~15:00 二部制で行う	
13	職員会議	こぐま保育園	こぐま保育園ホール	7月14日	メンタルヘルスについて（パワハラとは）の研修	
14	しろくま研修	多摩福祉法人 （しろくま）	向山保育園	9月9日	新園開設前研修 ・石神井公園 遊び場探索 ・0歳児クラス ・異年齢 ・給食	
15	主任・副園長交流会	法人	リモート	9月11日	職員集団作りについて	
16	第2期総括会議 職員会議	こぐま保育園	こぐま保育園ホール	9月16日	・来年度児童定数について ・来年度管理職体制について報告 ・多摩市の保育状況（0歳定員割れについてなど）につ いて学習。	
17	しろくま研修	多摩福祉法人 （しろくま）	向山保育園	10月21日	新園開設前研修 ・給食 ・異年齢の話	
18	職員会議	こぐま保育園	こぐま保育園ホール	10月24日		
19	旭川のびろ保育園見学研修	こぐま保育園	旭川名のびろ育園	10月27日	見学研修	出張研修
20	新人研修	こぐま保育園	こぐま保育園ホール	10月27日	半年たってできたこと できなかったこと ゲームで遊ば 学習	
21	保幼小合同研修会	多摩市立教育センター	多摩市	11月10日	子どもの何を育てる？	出張研修
22	多摩福祉会 法人合研	多摩福祉会	法人内各施設	11月18日	人権、アフターコロナ、関わり 食、あそび、ことば	

23	全国福祉経営研究交流会	社会福祉経営全国会議	Zoom	12月7日	シンポジウム 人を大切にする福祉経営とは何か	出張研修
24	たんぼぼ共同保育園見学研修	こぐま保育園	たんぼぼ共同保育園 見学研修	11月30日	園見学	出張研修
25	職員会議	こぐま保育園	こぐま保育園	12月14日	不審者訓練	
26	栄養士会研修	多摩市栄養士会	多摩市役所	12月15日		出張研修
27	しろくま宿泊研修	多摩福祉会（しろくま）	高尾山（タカオネ）	11月24日 ～25日	浦辺先生と多摩福祉会 保育、給食実践報告 異年齢保育について	
28	ハンディキャップ研修	多摩市保育協議会	島田療育センター	6月12日 7月10日 9月11日 11月13日 12月11日 1月22日 2月19日	気になる子どもの 「姿勢・運動」の育ちを考える	出張研修
29	第三期総括会議	こぐま保育園	こぐま保育園	12月9日	全体会 ・生活行為、習慣 ・他園見学研修報告 分科会 ・子ども理解について ・生活、日課 ・遊び、環境 ・食事	
30	第43回民間保育園 経営研究セミナー	全国民間保育園 経営研究懇話会	Zoom	1月8日～ 1月10日	1月8日 民間保育園を取り巻く情勢と この間の取り組み 1月9日 人と人とのつながりを築く取り組みを、足元から 1月10日 世界で最初に飢えるのは日本？	出張研修
31	主任・副園長交流会	法人	Zoom	2月29日	研修をどうしているか	
32	中堅層研修	多摩福祉法人		2月3日	職員集団作りについて 分散会 5 G	
33	第四期総括	こぐま保育園	こぐま保育園	2月10日	一年を振り返って	
34	全体職員会議	こぐま保育園	こぐま保育園	3月19日	子どもの人権について 保育の中で気を付けたいこと 大切にしたいこと	
35	新規職員研修	こぐま保育園	こぐま保育園	3月28日	初期研修	
36	新規職員研修	こぐま保育園	こぐま保育園	3月29日	文書実務	
37	わらべうた研修	こぐま保育園	こぐま保育園	年間	勝俣 t（講師）による わらべうた研修	
38	荒馬研修	こぐま保育園	こぐま保育園	年間	荒馬座による荒馬研修	

## 2023 年度 練馬区立向山保育園事業報告

### 1. 児童状況

#### (1) 認可定員 120 名

年 齢	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合 計
認可定員	9	18	21	23	24	25	120
運用定員	9	19	22	24	25	25	124
園 児	9	19	22	20	24	21	115

#### (2) 障がい児保育

認定児 3 名

療育等通所児 13 名

#### (3) アレルギー児

1 名

※2024 年 2 月より練馬区立園での使用食材から卵がなくなった。それに伴い、  
2024 年 3 月末現在のアレルギー児は 1 名となった。未使用食材でのアレルギー児  
は 8 名。

#### (4) 延長保育実績

	朝(7:00～7:30)			夕1(18:30～19:30)			夕2(19:30～20:30)		
	継続		スポット	継続		スポット	継続		スポット
	登録 児童	利用数	利用数	登録 児童	利用数	利用数	登録 児童	利用数	利用数
4月	5	56	0	4	56	36	2	35	3
5月	5	103	0	4	50	47	2	35	6
6月	5	75	0	4	50	57	2	35	0
7月	5	70	0	3	41	55	2	26	4
8月	6	78	0	3	34	40	2	30	5
9月	6	95	0	3	41	47	2	33	6
10月	6	93	2	3	44	46	2	37	5
11月	6	94	2	3	47	50	2	38	9
12月	6	96	0	3	48	60	2	38	6
1月	6	87	0	3	33	59	2	33	12
2月	6	80		3	33	51	2	30	8
3月	6	83	1	3	44	53	2	27	19
計		1010	5		521	548		397	83

(5) 休日保育実績

	登録者							利用数
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計	
4月	0	4	4	4	3	3	18	42
5月	0	4	4	4	3	3	18	57
6月	0	4	4	4	3	3	18	31
7月	0	4	4	4	4	3	19	53
8月	0	4	4	4	4	3	19	53
9月	0	4	4	4	4	3	19	59
10月	0	4	4	4	4	3	19	61
11月	0	4	4	4	4	3	19	55
12月	0	4	4	4	4	3	19	38
1月	0	4	4	4	4	3	19	44
2月	0	4	4	4	4	3	19	52
3月	0	4	4	4	4	3	19	52
							合計	597

2. 職員状況

(1) 正職員 2024 年 3 月末時点

職種	園長	副園長	事務長	看護師	保育士	栄養士	調理師	環境衛生	合計
人数	1 名	3 名	1 名	2 名	25 名	5 名	1 名	1 名	39 名

\* 育児短時間職員（保育士 2 名・栄養士 1 名）

\* 短時間正職員（保育士 1 名・環境衛生 1 名）

\* 育休職員（保育士 1 名・栄養士 1 名）

【入職】

2023 年 4 月入職 保育士 3 名・栄養士 1 名

年度途中入職 保育士 1 名・栄養士 1 名・看護師 1 名

【退職】

年度途中退職 栄養士 1 名

2024 年 3 月末退職 保育士 3 名

(2) 有期契約職員

職種	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	給食	環境衛生	土日	合計
人数	2 名	2 名	2 名	2 名	2 名	2 名	2 名	1 名	2 名	17 名

【入職】

保育補助 3 名・環境衛生 1 名

【退職】

保育補助 1 名・給食補助 1 名・環境衛生 1 名

(3) 業務委託職員

環境衛生 2 名 園内清掃・縫製作業

駐輪場警備 2 名(シルバー人材センター所属)

(4) 嘱託医・講師

嘱託医

和田ファミリークリニック 和田万里子医師（小児科）

安藤歯科医院 安藤浩徳医師（歯科）

産業医

田中医院 田中美緒医師（内科・神経内科）

講師

わらべうた 鈴木典子先生

3. 研修

① 園内研修

\* 子どもの権利条約、保育制度、財政学習、年齢にふさわしい遊具研修、救急救命研修  
保健関係研修（嘔吐処理等）、わらべうた等

② 法人内研修

\* 法人合研・新入職員研修・中堅職員研修

③ 出張研修

\* 行政研修・全国経営懇研修・東京経営懇研修・保育プラザ研修・キャリアアップ研修等

研修報告資料参照

#### 4. 2023 年度重点課題

##### (1) 保育実践、運営を継承しさらに深め発展させていきます

- ① 園長交代に伴い、運営委員の編成が一新します。新たな園長、副園長と共に現運営内容を引き継ぐとともに、それぞれの個性を活かし支え合いながら保育の発展を目指していきます。
  - ➔ 園長の交代と、副園長の1名がしろくま保育園への異動が決まっていたため、新たに副園長1名を置き、園長1名、副園長3名、事務長1名運営の体制で始まりました。異動予定の副園長はしろくまの業務の比重が多く、実質は副園長2名の体制で必要な業務の引き継ぎを行いつつ運営してきました。副園長は乳児・幼児の主任を兼任しているため、意思の疎通が難しいこともありました。毎日の昼礼の時間を使い、その点を補いながら運営が滞らないように努力しました。
- ② 各クラス、職域の責任者を、今までの経験していない人を複数任命し新たな運営委員会を組織します。支える人の役割を明確化することや、担当副園長との連携を密にする中で、新たな人が責任者を担っても安定的に運営できるようにしていきます。
  - ➔ 新しくクラスの責任者が3名と給食責任者が入り運営責任者会議を組織しました。新しい責任者はクラス運営の悩みを漏らすことがありましたが、会議の中で現状を共有し面談をしていくなどをして、一人にはせず集団で解決していくことを実施してきました。また、これまで責任者の経験のある職員が、積極的に助言することや、会議での発言の姿など新しい責任者の見本となっていました。今年度新しくなった人が、次の人に同じような役割をしていくことを期待したいです。
- ③ 早番、土曜、日曜専任を継続して配置し、クラス保育とは異なる場面も、丁寧に保育ができるようにしていきます。
  - ➔ 各種専任保育士がいて毎回安定した保育の実践ができました。特に休日保育は他園の子どもも登園するため、継続した保育が課題になる中でその役割を存分に発揮していました。土曜も配慮の必要な子の登園があるため、毎回同じ職員の対応ができ安定していました。
- ④ 様々な就労形態の有期契約職員が多いため、日々の伝えあいをふくめ、保育総括前後に各年齢、職域ごとに会議をおこなって、子どもの姿や関わり方を共有していきます。園としても年1～2回の全体会議を実施していきます。

➔ 有期契約職員会議を実施し、その中で情報伝達だけでなく正職員の総括会議のように小グループで保育の中での実践の様子や悩み等を共有するなどしました。有期契約職員同士だからこその悩みが共有できたり、向山保育園の保育の中で大切にしていることを改めて確認できたりと有意義な討議ができました。クラスによって、有期契約職員の方との引継ぎや、やりとりができていますと所とそうでない所があったので、定期的な引継ぎの実施や意見交換はどの部署であっても行うように気にかけていきます。

⑤ 多摩福祉会の紡いできた歴史をはじめ、向山保育園のこれまでの積み重ね等について、50年誌を中心にみんなで学び合います。法人の理念や歴史の理解から今後の保育園の運営や実践につなげていきます。

➔ 運営会議や運営責任者会議を中心にこれらのことを学んできました。法人として紡いできたことと、向山として積み上げてきたことを振り返ることと学ぶことの大切さを感じました。職員全体の共有まで行かなかったので、24年度の課題として進めていきます。

## (2) 年齢発達を理解し、一人ひとりがその子らしく生活できる保育をめざします

① 新型コロナウイルス感染症(以下コロナ)で滞っていた、異年齢の実践を増やしていきます。その中で、子どもたちの姿から考察と職員研修や学習を行い、幼児異年齢保育の実現を目指していきます。

➔ 3, 4, 5歳を中心とした異年齢保育の実践が豊かにできた1年でした。最初は実践の積み上げが薄れていたことによる、子どもたちが互いの名前がわからなかったことや職員の動き方に戸惑い等がありましたが、回数を重ねる毎に関係性の深まりや、異年齢ならではの素敵な関わりが見られました。普段の生活単位が年齢別であるが故に、異年齢の日が特別になりがちな実情があり、今後は日常の中の自然な異年齢のかかわりができる生活形態が課題となってきます。また、3, 4, 5歳クラスでの異年齢実践を保育園全体で共有、深めていくことまではできていないので、そこを重点的に取り組んでいきます。

② 各年齢の発達の特徴をおさえながら自クラスの子どもの特徴を把握し、豊かな保育が進められるようにしていきます。

➔ 各クラスが年齢発達をおさえ、受け入れから1年間の子どもの姿に添った計画をたてて保育実践をしてきました。園長や副園長が定期的に会議に参加し、客観的な意見等も出しながら、クラスの子どもたちや保護者にとって必要な事を検討してきました。



- ③ 保育をクラス内で完結せず、保育内容会議、総括会議、運営責任者会議等で討論をし、より深め日常の保育に活かしていけるようにします。
- ➔ クラスを越えた話をたくさんしました。保育内容会議では、“計画と実践”というテーマで討議を進めてきました。これまでも思いつきだけで進めてきたわけではないですが、豊かな実践には計画が大事なことに立ち返り、遊具の購入計画や時期による入れ替え等を含めて検討し、クラスごとの状況を共有してきました。計画、実践、振り返り、また次の計画…というサイクルの内容が深まった一年でした。
- ④ コロナの扱いが変更されていくことが予想されるので、今まで制限していた保育内容や行事に関しての扱いを見直し、より子どもたちの育ちにつながるものにしていきます。
- ➔ コロナで保育内容や行事の意味を改めて問い直し、これから必要なことを職員内で討議しました。親子であそぼう会の内容では、これまで年齢別時間を区切って実施して、待ち時間がなくて良いという意見や、もっと年長児の姿が見られるといいのではという意見もあり、職員内でも次年度の実施の仕方に関して意見が分かれています。保育の意味と自分たちが行いたい内容を考え討議することに大きな意味があると思うので、時間をかけつつ今後も討議をしていきます。
- ⑤ 地域の学校や学童との交流や連携を深めて行き、年長児が就学を前向きに見据えることができるようにします。子ども達の姿や就学に不安を抱える家庭とは、保育園と家庭の様子を密に共有し、必要に応じて就学相談や支援シートの活用等を促しながら一緒に向かっていきます。
- ➔ 小学校とは1年生との交流や職員同士の意見交換等を実施しました。保護者に就学支援シート等で発信していくことを提案し、保護者が学校に働きかけていくことを促しました。保育園生活での情報を電話や必要に応じて小学校まで行き直接引継ぎをしました。
- ⑥ 子どもたちのその子らしさを理解し、のびのび保育園生活を送れるようにしていきます。また、子どもの権利条約等も学びなおしながら、子どものとらえ方を再確認していきます。
- ➔ 人権の研修として、子どもの権利条約を学ぶことや職員の声掛けに関する小グループ討議等を職員会議の中で行ってきました。それらの学習や意見交換を通して、日頃の声掛けやかかわりの中での意識や子どもの理解につなげました。

(3) 職員それぞれの個性を活かし、支え合いながら保育を作っていきます

- ① 職員同士で話すことを大切にします。新人・中堅・ベテランみんなの立場から意見し、悩みを共有する中で保育者集団として共に成長していくことができるようにします。

➔ 職員が話す場をたくさんつくってきました。職員会議でもただの報告だけで終わらず、小グループ討議の時間を作りクラス会議とは違った集団での話し合いや意見交換をしてきました。コロナの影響で黙食となり、休憩室でのやりとりが最小限になっていた所から、休憩中に話がたくさんできるようになりました。会議等の作られた話す場から広がる関係性が、日頃の職員同士の関りにも結び付いていっていると感じます。今後も保育の話で深めていくところと、他愛のない話で盛り上がる場所とそれぞれ大切にしながら、職員同士の対話からの関係性の広がりや深まり、互いの成長につなげていきたいです。

- ② 子育て職員をはじめ、一人ひとり個別の事情を抱えつつも、分かち合い、支え合いながら職員みんなが力を発揮できる職場運営を目指します。

➔ 育児、介護、自身の体調など職員それぞれが抱えるものがあり、園長面談等でその個別の状況を把握し、一緒に働き方を考えることをしていただきました。また、“支え合い”の中で「いつも自分ばかり…」「本当はもっとこうしてほしい…」と互いの想いが交じり合わず、不満が出てくることもありました。その際は、運営の職員が間に入り、思いを率直に交わすことをしていただきました。分かり合える場所とそうでない場所もありますが、各々の状況と自分たちがこうしたい気持ちを話し合う中で、同じ方を向きながら進むことができたと思います。

- ③ 初めて向山保育園で働く正職員が増える年度となります。面談や日常の会話、会議等で思いを出す場をつくります。職員同士が学び交流する中で、向山保育園の保育を伝承と新たな保育を考えます。

➔ 新入職員には個別の相談担当をつけながら、悩みや課題を共有してきました。また、面談を多めにするをしながら状況の確認をしてきました。個別には声をかけてきましたが、年度前の新入職員研修後、向山保育園として新入職員集団でのフォローはできなかったのも、定期的に新入職員同士で話をしたり悩みを共有する場をつくることができればなおよかったと思うので、新人がさらに増える24年度はそのような場を作ります。

- ④ 保育内容に関わる領域的な研究会や会議(保育内容会議・総括会議・わらべうた研究会・体育研究会等)を通し、意識的な実践の深め合いをしていきます。

➔ 職員一人ひとりが何かしらの役割を持ち、会議や研究会に参加して学びを深め

てきました。その場での学びや意見交換は密に行われ、有意義な時間となっていますが、それをクラスに持ち帰り共有するところまではできなかったところがいくつかありました。個の学びを集団のものできるように、クラス会議の時間、議題設定を担当者ともに実施していきます。

- ⑤ 不適切な保育が世の中で取りざたされている中、他人事と考えず自分たちの保育を互いに見直していきます。子どもの権利条約等を学びなおすことに加え、日々職員同士で保育の話をたくさんする等、伝えあいを大事にします。

➔ (2)の⑥での報告の通りの内容を実施し、日常その日の保育の振り返りをクラス内ですることで、自分の子どもへのかかわりを振り返ることと、互いの保育感のすり合わせにつながっています。

#### (4) 保護者や地域とのつながりを大切にします

- ① コロナで保護者同士の関係が希薄になることが続いています。ここ数年オンラインで開催してきた懇談会、開催できなかった父母会の夏祭りの内容を検討し、保護者同士の繋がりが持てる機会を作っていきます。

➔ 懇談会は対面での開催を再開し、オンラインと併用の形で行いました。対面参加者がいないクラスと、大勢の方が対面参加のクラスと傾向は様々でした。保護者は「このような場所で話すのが初めてで～」と前置き、はじめは緊張する様子でしたが対面で子どもたちの事や保護者自身のことを話す中で、和気藹々としたとてもいい雰囲気ができていました。クラス担任も保育を伝えることも大切にしましたが、今年度は“保護者同士の語り合い”に時間を割くことを優先し、コロナでつづることができなかった保護者の結びつきに新たな兆しが見えました。その中で、クラスの懇親会や集まりを休みの日に行うことや、父母会の活動が戻ってきました。

- ② 日々の登降園の様子や会話を通して、保護者や子ども変化を感じ取り、必要に応じて面談をしていきます。その中で、保護者の子育ての不安や気持ちに寄り添い、保育園・家庭と一緒に子どもの育ちを考え合います。

➔ 子どもの発達が気になる家庭や就学前の不安が強くなる家庭が多く、日常の中でのやり取りを大切にすることに加え、面談を複数回実施することで、家庭と保育園の子どもの様子をより具体的に共有したり、必要に応じて関係機関につなげたりしていくなどしてきました。

- ③ コロナの影響で、短時間で戸外に限定していた保育参加は時間を延長し園内の活動にも参加できるように見直していきます。

➔ 保育参加の時間が延びることにより参加家庭数が増えました。ふれあい給食の再開は先送りしましたが、24年度から再開し食を通しての姿からより保育の様子を感じていただきたいです。

- ④ 地域に開かれた保育園を目指し、見学者や地域事業により力を入れていきます。コロナの状況を見ながら、地域の保護者同士が繋がりあい、交流ができる内容を充実させていきます。

➔ 年度当初0歳児の定員が充足しないことがありました、コロナの影響や育休延長等の社会状況がありますが、地域への保育の発信に課題があるのではと運営内で考察をしました。より保育園のことを知ってもらうため、地域事業の“おひさまひろば”を保育園に遊びにきたくなる内容を検討してきました。その結果、多いときは6家庭ほどの参加があるなど、実施月は多くの方が保育園に遊びに来てくれました。その中で、育児相談をした家庭が入園につながったり、初めて会った地域の保護者同士が連絡先を交換する姿があったりと地域の拠点として今後も楽しいおひさまひろばを展開していきたいと思います。来てもらう以外の情報発信として、XやインスタグラムといったSNSで様子を伝えてきました。その一方でホームページの更新が滞っているので、SNSと同様に次年度はホームページの更新を頻回にかけていくようにしていきます。

(5) 谷原新園開設へ職員みんなで向かっていきます

- ① 異動予定職員は新入園児面談や諸計画の立案、保育運営等の業務を担い、令和6年の開設に備えていきます。
- ② 向山保育園での実践を基に、新園開設に向けた準備を進めていきます。施設間交流実習を通して、異年齢保育について実践から学びます。
- ③ 新園準備の進捗状況を定期的に園内で共有し、異動予定に関わらず職員みんなで取り組み支え合いながら進んでいきます。
- ④ 開園した後は練馬区内の姉妹園として、保育の実践交流や緊急時の職員応援等ができるように、連携内容を検討していきます。

➔ 異動予定者は法人内の保育園や区立谷原保育園への実習や各種会議・研修に送り出すなどしてきました。年度の後半はしろくまの業務に多くの時間を費やすことができるように、支えあいをしてきた。異動者がいるクラスだけでは補いきれないところは、事務所や他クラスの応援をとりながら、保育を進めてきました。担任を持ちながら新規事業の準備等で抜けることのもどかしさや、実際に準備を始めて気が付く難しさ等があり、異動職員とは頻回に話や面談等を行ってきました。また、職員会議では異動職員がその時期の準備の状況や建物の進捗状況を報告し、みんなの事業であることを確認しつつ進んできました。設

計や開園までの経過や苦労を分かち合った経験を、向山保育園の民営化や建て替え等につなげていきたいと思います。

保護者発信も丁寧に行い、定期的に異動者の事やしろくま保育園の建設状況や上棟式に5歳児が参加した様子などを園だよりに掲載して伝えました。また、意見交換会や運営委員会で口頭での報告に加えて3月に全園児父母懇談会を開催し、本事業の内容を改めて伝えることと異動職員からの挨拶等を行いました。対面とオンライン併用で60家庭程の参加があり、「異動するのはさみしい」「近くに保育園ができるのはいいですね」などと話が出ました。法人として職員採用に尽力した結果、職員は充足したこと、練馬地域での交流を実施して互いにいい保育ができるように高めあっていくこと、これまで以上に向山の保育を丁寧におこなっていくことなどを伝え保護者も受容していました。

(6) 練馬区との協議を進めていきます

- ① 民営化に向けた検討をしていきます。民営化の時期、建て替え、保育内容や定員変更の等に関しての協議を進めていきます。
- ② 休日保育の内容等について引き続き協議を行っていきます。
- ➔ 練馬区との民営化に向けた直接の検討の実施はありませんでした。改めて意見交換がしたい旨を区に伝えているので、24年度は実施できるよう再度要望します。その他保育内容に関しては、度々意見を出したりやり取りをしてきましたが、区としては「区立園なので～」ということで、願いがかなわないことが多いです。同じ立場の委託園とも連携し、情報の交換はできているので集团で様々な意見をあげていきます。

## 2023年度 向山保育園 参加研修一覧

正職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象
1	副園長	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会実行委員	福島県郡山市	7月29日（土） ～31日（月）	保育子育て講座 保育の安全と子どものいのち・権利を守る職員集団作り	×	○
2	副園長	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会実行委員	オンライン	9月3日（日）	乳児の声を聴くってどういうこと？	×	○
3	副園長	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	練馬区立防災センター	7月4日（火）	保育所での防災対策	×	×
4	副園長	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会実行委員	福島県郡山市	7月30日（日）	3，4，5歳あそびと生活	×	○
5	保健	耳鼻科一般 耳鼻咽喉科・統計部外科の疾患	兵庫大病院 耳鼻咽喉科	オンライン	7月13日（木）		×	○
6	0歳クラス	施設実習		砧保育園	5月29日（月）		×	×
7	0歳クラス	施設実習		砧保育園	5月30日（火）		×	×
8	0歳クラス	施設実習		砧保育園	5月31日（水）		×	×
9	0歳クラス	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	6月14日（水）	乳児保育の意義	○	×
10	0歳クラス	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	7月12日（水）	乳児の発達に応じた保育内容	○	×
11	0歳クラス	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	9月6日（水）	乳児への適切な関わり	○	×
12	0歳クラス	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	10月11日（水）	乳児保育の環境	○	×
13	0歳クラス	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	11月8日（水）	指導計画、記録、評価	○	×
14	0歳クラス	施設実習		砧保育園	5月29日（月） ～31（水）		×	×
15	0歳クラス	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会実行委員	オンライン	8月15日（火）	性教育について学びを深める	×	○
16	0歳クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	オンライン	5月10日（水）	調乳と離乳食の基礎と実際	×	×
17	1歳児クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	練馬区立区民産業プラザ ココネリホール	11月9日（木）	保育現場で活かせるコミュニケーション	×	○
18	1歳児クラス		寺町東子	向山保育園	12月9日（土）	保育園における重大事故防止	×	×
19	1歳児クラス	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会実行委員	オンライン	7月29日（土） ～31日（月）	ゼロ・1・2歳児とつくる心地よい生活 乳児の「声」を聴くってどういうこと？ 園の大人同士の関係、どうしてる？どうしたい？	×	○
20	1歳児クラス	乳児保育教室	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	4月21日（金）		×	○
21	1歳児クラス	乳児保育教室	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	7月13日（木）		×	○
22	1歳児クラス	乳児保育教室	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	10月20日（金）		×	○
23	1歳児クラス	乳児保育教室	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	11月17日（金）		×	○
24	1歳児クラス	遊びが学びになる 子ども主体の保育実践	練馬区委託園長会研修	オンライン	11月6日（月）		×	○
25	1歳児クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	オンライン	11月21日（火）	乳幼児の排尿発達と トイレトレーニング	×	×

正職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象
26	1 歳児クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	練馬区立区民産業プラザ ココネリホール	12月18日（月）	保育の専門性を生かした子育て支援	×	×
27	2 歳児クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	練馬消防署	10月19日（木）	普通救命について	×	×
28	3 歳児クラス	美術教室	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	4月25日（火）		×	○
29	3 歳児クラス	美術教室	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	5月23日（火）		×	○
30	3 歳児クラス	美術教室	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	6月27日（火）		×	○
31	3 歳児クラス	美術教室	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	8月6日（日）		×	○
32	3 歳児クラス	美術教室	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	9月26日（火）		×	○
33	3 歳児クラス	美術教室	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	10月24日（火）		×	○
34	3 歳児クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	練馬区立区民産業プラザ ココネリホール	9月29日（金）	保育所でのこどもの人権	×	×
35	3 歳児クラス	体育講座	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	4月19日（水）		×	○
36	3 歳児クラス	体育講座	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	4月26日（水）		×	○
37	3 歳児クラス	体育講座	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	5月17日（水）		×	○
38	3 歳児クラス	体育講座	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	5月31日（水）		×	○
39	3 歳児クラス	わらべうた 1（課業）	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	5月21日（日）		×	○
40	3 歳児クラス	わらべうた 1（課業）	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	6月11日（日）		×	○
41	3 歳児クラス	わらべうた 1（課業）	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	7月9日（日）		×	○
42	3 歳児クラス	わらべうた 1（課業）	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	9月10日（日）		×	○
43	3 歳児クラス	わらべうた 1（課業）	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	10月1日（日）		×	○
44	3 歳児クラス	わらべうた 1（課業）	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	11月12日（日）		×	○
45	4 歳児クラス	幼児保育研究会	東京経営懇	オンライン	5月31日（水）		○	×
46	4 歳児クラス	幼児保育研究会	東京経営懇	オンライン	6月28日（水）		○	×
47	4 歳児クラス	幼児保育研究会	東京経営懇	オンライン	7月26日（水）		○	×
48	4 歳児クラス	幼児保育研究会	東京経営懇	オンライン	9月27日（水）		○	×
49	4 歳児クラス	幼児保育研究会	東京経営懇	オンライン	10月18日（水）		○	×
50	4 歳児クラス	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会実行委員	福島県郡山市	7月30日（日） 31日（月）	3、4、5 歳児のあそびと生活	×	○
51	4 歳児クラス	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会実行委員	オンライン	8月5日（土）	3 歳児保育	×	×

正職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア パス 該当	自主研 修対象
52	4 歳児クラス	特別支援学級実務研修	練馬区	練馬区立南町小	9月20日（水）	ことばの教室	×	○
53	4 歳児クラス	遊びが学びになる 子ども主体の保育実践	練馬区委託園長会研修	オンライン	11月6日（月）		×	○
54	4 歳児クラス	茨城保育ゼミ	茨城保育ゼミ実行委員会	認定こども園 竜ヶ崎みどり	11月23日（木）		×	○
55	4 歳児クラス	幼児保育	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	6月17日（土）		×	○
56	4 歳児クラス	幼児保育	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	7月29日（土）		×	○
57	4 歳児クラス	幼児保育	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	11月18日（土）		×	○
58	4 歳児クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	練馬区立区民 産業プラザ ココネリホール	9月7日（木）	子どもを育てる読み聞かせ	×	×
59	4 歳児クラス	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究 集会実行委員	オンライン	8月5日（土）	3 歳児保育	×	○
60	4 歳児クラス	委託園長会研修	浅村都子	練馬区役所 多目的会議室	11月27日（土）	3 歳児未満児保育で大切に したいこと	×	○
61	4 歳児クラス		食べもの文化研究会	オンライン	6月11日（日）	じょうずにたべる・たべさせる	×	○
62	4 歳児クラス	障害児保育研究会	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	6月20日（火）		○	×
63	4 歳児クラス	障害児保育研究会	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	7月25日（火）		○	×
64	4 歳児クラス	障害児保育研究会	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	9月19日（火）		○	×
65	4 歳児クラス	障害児保育研究会	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	10月17日（火）		○	×
66	4 歳児クラス	障害児保育研究会	コダーイ研究所	コダーイ 芸術教育研究所	11月21日（火）		○	×
67	4 歳児クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	オンライン	11月2日（木）	発達が気になる子の強みに 着目した支援	×	○
68		子どもの生活と遊びが楽 くなる“絵本の世界”	認定NPO法人 芸術と遊び創造協会	オンライン			×	○
69	4 歳児クラス	集団の中での子どもの育ちと 支援の実践	認定NPO法人 芸術と遊び創造協会	オンライン			×	○
70	4 歳児クラス	保育園における重大事故防止	寺町東子	向山保育園	12月9日（土）		×	×
71	5 歳児クラス	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究 集会実行委員	オンライン	8月15日（火）	学童期を見通して幼児期に 大切にしたいこと	×	○
72	5 歳児クラス	遊びが学びになる 子ども主体の保育実践	練馬区委託園長会研修	オンライン	11月6日（月）		×	○
73	5 歳児クラス	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究 集会実行委員	オンライン	9月17日（日）	学童期を見通して幼児期に 大切にしたいこと	×	○
74	フリー	施設実習		砧保育園	5月22日（月） ～24日（水）		×	×
75	フリー	施設実習		上北沢こぐま保育園	6月12日（月） ～14日（水）		×	○
76	フリー	幼児保育		織田学園	6月3日（土） ～4日（日）		○	×
77	フリー	保護者支援・子育て支援	社会福祉法人みんなぎ	ワイム貸会議室神田	6月15日（木） 6月25日（日）		○	×



正職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象
78	給食	施設実習		しろくま保育園	1月18日（木） ～26（金）		×	×
79		法人中堅層研修	2023年度法人研修委員会	砧保育園	6月10日（土）	職員集団作り・実践提案	×	×
i		法人中堅層研修	2023年度法人研修委員会	砧保育園	6月10日（土）	職員集団作り・実践提案	×	×
81		法人中堅層研修	2023年度法人研修委員会	砧保育園	6月10日（土）	職員集団作り・実践提案	×	×
82		法人中堅層研修	2023年度法人研修委員会	砧保育園	6月10日（土）	職員集団作り・実践提案	×	×
83		法人中堅層研修	2023年度法人研修委員会	向山保育園	11月4日（土）	職員集団作り・中堅職員としての役割	×	×
84		法人中堅層研修	2023年度法人研修委員会	向山保育園	11月4日（土）	職員集団作り・中堅職員としての役割	×	×
85		法人中堅層研修	2023年度法人研修委員会	向山保育園	11月4日（土）	職員集団作り・中堅職員としての役割	×	×
86		法人中堅層研修	2023年度法人研修委員会	向山保育園	11月4日（土）	職員集団作り・中堅職員としての役割	×	×
87		法人中堅層研修	2023年度法人研修委員会	向山保育園	11月4日（土）	職員集団作り・中堅職員としての役割	×	×
88		法人中堅層研修	2023年度法人研修委員会	砧保育園	2月3日（土）	職員集団作り・研修のまとめ	×	×
89		法人中堅層研修	2023年度法人研修委員会	砧保育園	2月3日（土）	職員集団作り・研修のまとめ	×	×
90		法人中堅層研修	2023年度法人研修委員会	砧保育園	2月3日（土）	職員集団作り・研修のまとめ	×	×
91		法人中堅層研修	2023年度法人研修委員会	砧保育園	2月3日（土）	職員集団作り・研修のまとめ	×	×
92		法人中堅層研修	2023年度法人研修委員会	砧保育園	2月3日（土）	職員集団作り・研修のまとめ	×	×

## 2023 年度 砧保育園事業報告

### 1. 児童状況

- (1) 認可定員 76 名
- (2) 利用定員 82 名
- (3) 保育年齢 産休明け～就学前
- (4) 保育時間 7:15～22:15
- (5) 年齢別定員・入所状況 (2023 年 4 月 1 日現在)

年齢	0 才	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合計
認可定員	6	12	12	14	16	16	76
利用定員	6	13	15	15	16	17	82
新入園児	6	7	2	0	1	1	17
定員割れ	0	0	0	0	0	0	0

- (6) 新入園児状況 17 名 14 家庭 (2023 年 4 月 1 日現在)

② 認定 全員 標準時間認定

②入園経過 産・育児休業 13 名、認可保育所 1 名、幼稚園 2 名

③きょうだい関係 3 家庭

④延長対象児 2 家庭 (年度当初状況)

⑤困難・配慮家庭 0 家庭

⑥障がい児 0 名

⑦発達要観察配慮児 0 名

⑧アレルギー対応児 3 名 (0 歳児 0 名、1 歳児 2 名、4 歳児 1 名)

⑨健康面配慮児 0 名

- (7) 児童状況 (新入園家庭分を含む)

① 世帯数 65 世帯

② 保育時間認定 全員 標準時間認定

③ きょうだい関係 16 組

④ 延長対象児 1 時間延長 10 人

2 時間延長 5 人

3 時間延長 2 人

- ⑤困難・配慮家庭 2 家庭
- ⑥障がい児 1 名
- ⑦発達要観察配慮児 13 名
- ⑧アレルギー対応児 11 名
- ⑨健康面配慮児 0 名

(8) 休日保育状況

- ① 登録人数 45 名
- ② 利用児数 1 日平均 7 名程度
- ③ 利用時間 7:15~18:15
- ④ 保育体制 常勤 3 名（保育士 2 名、調理 1 名）有期雇用職員 2 名

## 2. 職員状況

(1) 正職員（2023 年 4 月 1 時点）

職種	園長	副園長	事務 チーフ	保育 主任	給食 主任	看護師	保育士	栄養士	調理師	育休	合計
人員	1 名	1 名	1 名	2 名	1 名	1 名	18 名	3 名	1 名	0 名	29 名

(2) 正職員状況

- ① 新規採用者 1 名（7 月 1 日より看護師採用 1 名）
- ② 法人内異動者 3 名
- ③ 産休・育休者 0 名（4 月 28 日より 1 名）
- ④ 育児のための時間短縮勤務 2 名
- ⑤ 育児時間取得 1 名
- ⑥ 短時間正職員 2 名
- ⑦ 退職者 1 名（7 月 31 日 1 名）

(3) 有期契約職員 (2023 年 4 月 1 時点)

	にじ	乳児	幼児	給食	環境 衛生	土日祝	全体	合計
人員	2	2	1	1	1	5	0	12
週 5		1	1		1			3
週 4								0
週 3	1	1		1				3
週 2	1							1
不定期								0
土日祝						5		5

① 新規採用者 0 名 (7 月 1 名、8 月 1 名、3 月 2 名)

② 退職者 3 名 (3 月 31 日 4 名、うち 1 名は正規として採用)

(4) 嘱託医、講師

① 嘱託医 橋本 倫太郎小児科医、三上 直一郎歯科医

② 講師 ウラベイク (造形)、西山 裕子 (わらべうた)

pilchard astrid (異文化交流)、永田 裕美子 (言語聴覚士)

守屋 明德 (公認心理師・臨床心理士)

### 3. 2023 年度 重点課題

(1) 子どもの人権についての学びを深め、最善の保育を追求します。

① 子どもの権利条約について学ぶ機会を設け、子どもの人権について理解を深めます。

➔ 職員会議で「子どもの権利条約」を配布し共有しましたが、それについて深める時間を作り切れず不消化となってしまいました。しかしながら、この間子どもの人権については不適切保育問題を考えあう中で度々論議してきており、職員内では十分に意識が高まっている状況となっているため、最優先課題とならなかったという面もあります。一点解決が容易ではない課題として、世田谷区子どもの人権チェックリストの「同僚の対応が不適切ではないかと感じた際に声をかけられるか？」という問いに対して、一様に自己評価が低い傾向があるということです。その点について職員会議内で論議し、「誰しも大変さを感じるからそのような対応になってしまうのではないか。その対応を責めるのではなく、大丈夫？代ろうか？等、冷静になれるよう周りがフォローしていこう」ということを確認しあいました。また、対応に疑問を感じた際には、主任が中心となって発信し、おうち会議等でその子にとって必要な対応をチームとして考えあうことで、多角的な視点から客観的に対応を捉え直すことも積み重ねてきました。職員とし

ては苦しい場面もあったと思われますが、「子どもにとっての最善」を追求するには必要な時間だと感じています。結果的に「向きあって話あえてよかった」と実感する機会とできるよう、主任の思いにも耳を傾けながら支えていければと考えています。

- ② 子どもにとって真に人権が尊重され、職員もゆとりを持って対応できる職員配置を追求します。

➔ 職員配置を考えあう中で鮮明になってきたことが、砧保育園の3～5歳児クラスは時間帯によって1名のみで保育をすることが生じてしまうことにより、対応しきれない場面が生じてしまうということです。配置基準からするとかなり手厚いのですが、新入職員であっても朝・夕の時間帯は配慮児を含めて1名で見る時間が多少生じてしまいます。そのような状況の中で、対応し切れず保護者を含めてのトラブルにつながってしまったケースがありました。その後は連携してできるだけ1名で対応する時間を少なくするよう工夫はしてきましたが、様々な状況に対応していくためには各おうち基本的に複数名体制を確保していけるよう努めていく必要があると認識しています。今後も個人の責任とせず、組織の責任として改善していきます。

- ③ 卒園児をはじめ、不登校児や祖父母の保育参加を積極的に行います。

➔ ②を具体化する上で、どうしても財源の問題が付きまといます。職員の人員配置も追求しつつ、必ずしも職員でなくても子どもにとって有意義であり園に関われる人財が園外にあるのではないかと考えてきました。具体的に実行してきたこととして、職場体験として不登校児を含む卒園児の受け入れ、祖父母、地域住民の方の保育参加を進めてきました。副園長を中心に各方面へアプローチし、実際に交流の幅が大きく広がった一年となりました。特に卒園児は平日の夕方に来ることが増え、夏休みには延べ28名が帰ってきてくれました。このことを入所見学でお伝えすると好意的に受け止めてくださいます。現場職員にも意義がよく伝わったようで、「小学生もいきいきと過ごしていたし、小学生がいることで子どもたちも甘えられる存在が増えたり、刺激を受けていたので、とても良かった。今後も続けていきたい。こういうことを通して地域の必要な存在になっていけると良いと思う」ということが運営総括にも書かれていました。

一方、祖父母の保育参加についてはなかなか進められませんでした。背景には、呼びかけが進まなかった点や、呼びかけても働いている方がほとんどで難しいという点がありました。引き続き2024年度の課題としていきます。その他、地域との関わりについては(4)で具体的に記載させていただきます。

④ 子どもの人権を保障するためにも、最新の情報を学び直し、認識をアップデートしていきます。

➔ 最新の情報という点では、2023 年度考えさせられたことは、午睡や日課についての考え方です。「睡眠コンサルタント」という職業があり、その方に日課を相談しているご家庭の方針と、園が大切にしてきた日課の考え方が必ずしも一致しないという状況がありました。家庭生活と集団生活とのギャップもあつたりと、目の前の子ども自身にとっての最善とは何かの擦りあわせを丁寧に行ってきた実践がありました。絶対に園の考え方が正しいということではなく、私たちも謙虚に最新の知見を取り入れる必要性があることも感じます。一方で、園で生活する目の前の子どものことを最も理解できるのも保育従事者です。睡眠の「専門家」と切り取られた範囲ではなく、生活や育ち全般を理解し提案する「専門家」としての保育従事者の存在価値があります。それを問われる時代になってきています。引き続き日々学びを止めず、目の前の子どもにとっての最善を保障できるよう努めていきます。

⑤ 異年齢保育を深め発展させます。

➔ 2023 年度はようやくコロナ禍以前のように異年齢交流を進められた 1 年となりました。総括の年間テーマとしても「異年齢保育」を掲げ、常に意識しながら生活してきました。具体的には、まずは乳児・幼児でお互いの保育室に行きたい子を柔軟に受け入れあうところから始め、きょうだい児はもちろん、そうではない子たちも日常的に行き来していました。その中で、乳児は自分の保育室に戻ってくると幼児の遊びを再現する姿が見られたり、幼児は優しく世話をして乳児からも職員からも感謝されて心を満たしていたりする姿も見られました。その関係性を土台に、日常的に一緒に散歩に出かけることも増やしていき、充実した交流を積み重ねてきました。加えて別棟にある 0 歳児も、日常的に園庭へ来ることで本園の子どもたちと豊かに交流し、「一緒に生活している」という雰囲気になっていました。職員が日々コミュニケーションを取りながら、柔軟に子どもの思いを受け止めてできるだけ寄り添えるよう努力してきたからこそ充実できたことだと感じています。

異年齢交流が進級に向けての見通しとなり、そこから安心感につながったことで、2024 年度の進級は例年になく落ち着いた状況となりました。安心が土台となり、意欲が育まれます。そのような生活環境を保障できるのも、異年齢の視点が不可欠ではないかと感じています。

⑥ 近隣園との連携を進めます。

➔ この点については、昨年度同様ぽこころ保育園さんと共に祖師谷小学校への訪問を行

いました。他にも近隣に祖師谷わかば保育園、チャイルドスクエアそしがやさんもあり、連携して学校訪問へと考えましたが、祖師谷小学校から人数配分として2日間に分けてほしいという要望があり、そのような形で実施することとなりました。園内ではその他の活動でも連携できるか検討しましたが、現場職員の声として年長活動が多くなり、上北沢こぐまとの連携もあるため広げすぎるのもどうかという意見もあり、学校訪問のみとしました。その他では、大雪が降った際にぽこころ保育園さんに連絡して応援が必要か確認したところ大丈夫とのことでした。後日、園長会の際に「連絡をいただけて嬉しいし心強いねと職員と話していました」と伝えてくださいました。些細な事ですが、まずは心を寄せあうことから始めていければと考えています。

⑦ 児童定数について、現状の地域ニーズや都市計画を踏まえて検討していきます。

- ➔ 地域ニーズを踏まえ、2024年度に向けて、3歳児を1名増、5歳児を1名減とすることを進めました。結果的には2024年度4月1日時点で3歳児が1名空き状況となってしまうましたが、転園や転居による退園が重なってしまったことが要因となっているため、一時的な空きですぐに埋まる見通しです。

また、近年保育園の大きな課題となっている0歳児定員割れ問題についてです。世田谷区「令和6年4月（一次）入園申込者数（最終集計）」にて、砧保育園0歳児定員6名のところ、第一希望申込数が19名となっています。第一希望に限らなければ57名の方が希望されている状況ということでは、引き続き十分なニーズがあると考えられるため、現時点で0歳児の定員見直しについては検討していません。今後もニーズを踏まえながら慎重に検討していきます。

⑧ 延長保育利用児減少に伴い、遅番専任に有期契約職員を配置し、日中の保育充実を進めます。

- ➔ この点については計画立案時点から状況が変わり、遅番専任の有期契約職員を確保することができませんでした。継続的に募集はかけていましたが、応募はありませんでした。そのため正規職員で遅番をローテーションで分担することとなりましたが、幼児主任を遅番担当として位置付け、月案立案や東京経営懇話会主催の長時間保育研修会に参加する等、延長保育への責任を明確にし、情報共有等しながら子どもたちが安心して生活できるよう努めました。

また、新たな取り組みとして、延長保育時間帯の避難訓練で「暗闇訓練」を実施し、貴重な経験となりました。今後も引き続き充実できるよう検討中です。

⑨ 世田谷区休日保育事業利用者の確保に努めると共に、0歳児受け入れ条件の検討を進めます。

➔ 利用者の確保という点では、副園長中心に休日保育のおたよりを作成したり、ホームページにも写真入りで様子を掲載する等、情報発信に努めてきました。加えて、他園ではすぐに予約が埋まってしまう状況もあるということで、砧は空きがあるという情報を伝えていただくよう協力要請をしました。それらの甲斐あってか、2022年度よりも利用者数が増加し、2024年度は補助金が1ランクアップすることとなりました。また、コロナ禍で利用が減少していたところから、再びニーズが高まってきていることも感じています。保護者の働き方の変化にもアンテナを張る必要があると考えています。

また、0歳児の受け入れ条件としては、1歳の誕生日を迎えてからという条件としていましたが、体制を充実することで1歳未満児も受け入れることに挑戦しました。対象児が上北沢こぐま在園児ということもあり、ありがたいことに応援体制を組んでいただいたり情報共有を密にさせていただいたりする中で、無事受け入れることができました。ありがとうございました。

蛇足ですが、制度としては「休日保育」となっていますが、そこに預ける方にとっては休日ではないということで、園内では「日祝保育」と位置付けることとしました。

(2) 職員一人ひとりが尊重し合えているという実感を持てることで、ここで働き続けたいと感じられる職場作りを、職員と共に考え合っていきます。

① 職員が安心して自分の思いを語れて、尊重されているという実感が持てるような会議運営に努めます。

➔ 日常的なやり取りや運営総括の内容からも、一定職員全体が安心し、尊重しあいながら働けていると感じています。このような面については数値化が難しく、成果を可視化することも困難ではありますが、退職者数や第三者評価に現れてくる数値を指標にしながら客観的に分析していく必要があると考えています。2024年度は第三者評価受審の機会もあるので、結果に真摯に向きあい、改善すべき点はしていきたいです。また、職員会議が報告の場になってしまっているという点からは脱却しきれいていません。何回か少人数グループに分かれて論議し共有するという機会は作りましたが、いずれも短時間で慌ただしいもので十分とは言えません。2024年度は朝礼を実施することで、職員会議で十分議論する時間を捻出するよう努めます。

② 会議の持ち方を検討し、本当に必要な話し合いが大切にできるように努めます。

➔ 全員出勤日の午前中に入れられる会議は入れたり、まとめられる会議はまとめる等の努力はしつつも、抜本的な改善には程遠いということが現実です。抜本的に解決するに



は行事自体を見直す等、大きな変化を検討しないことにはなかなか難しいと感じています。何を大切にするか？という自分たちへの問いに直結することなので、引き続き課題意識を持ちながら職員と共に考えあっていきたいです。

③ 保育者同士の繋がりを意識することで、園全体により活気生まれるよう努めます。

→ コロナ禍で職員の休憩場所を各セクションで分けていたことでそのまま定着していましたが、ようやく以前のように休憩室で乳児・幼児職員が共に過ごすようになりました。その中で子どもや保育の話、雑談をしながら過ごしている雰囲気があり、嬉しく感じています。この時間が会議だけでは埋まらない子ども理解や情報共有を補完してくれているはずです。異年齢交流を進めるにもこの時間が果たす役割は大きいのではないのでしょうか。会議とは違い、お互いにリラックスしながら、楽しみながら子どもの姿を共有する中で「やってみようか？」というアイデアも生まれることもあるのではないかと想像しています。

また、夏季期間に職員給食がお休みになる機会を利用して、ホットプレートでお好み焼きを焼いて食べたり、児童館からグッズを借りてきて流しそうめんをしたりと、楽しみながら交流しました。一部園長面談よりこのような機会です方が有意義という意見もあり、今後も大切に位置付けたいと考えています。その他、歓送迎会や忘年会等も行い、職員からも引き続き行っていきたいという声が上がっています。改めてこのような交流の機会を職員自身が求めていたことにも気づかされました。

④ 得手不得手を尊重し合い、一人ひとりが輝き、その結果園全体として高まっていけるよう努めます。

→ それぞれが自分の役割を認識し、責任を果たすことで成立していると改めて感じています。立場や働き方に関わらず、一人ひとりが本当にがんばってくれています。もちろんその中でも、時にぶつかりあい求めあうこともありつつ、擦りあわせてバランスを取って組織が成立しています。立場が変わったり、組む職員構成が変われば当然求められることも変化します。それが成長の機会となります。困難なことに挑戦しつつも、それを理解しあい支えあいながら、チームで成長していける組織運営を継続していきます。

⑤ 職員同士が支え合えるためにも、余白のある日常を生み出せるよう努めます。

→ 2022年度まではおうち別保育や突発的な勤務調整等で負担が過重となってしまうていましたが、基本的にはそのようなこともなくなり、比較的安定した働きあいのできた一年でした。余白のある日常となったかということ、あまりその実感はありませんが、確

実に職員全体の様子は落ち着きを取り戻してきたように思います。しらくま保育園異動者へのフォローを含め、各種研修へも積極的に参加できたため、必要なところに必要な力を割けたと共に、全体的に充実した一年となりました。

- ⑥ 多様な価値観を踏まえてより発展的な保育実践を模索していきつつ、法人他施設をより意識できるよう努めます。

➔ しらくま保育園開設に向けては、毎月の職員会議で異動者から進捗状況を発信してもらい、仲間として共に向かっていく意識を持ちあえるよう努めました。また、異動者が法人他施設の職員と関わりあうことで「砦でもこうできるといい」ということを持ち帰ってきて提案してくれたり、視野が広がる有意義な場となっていました。異動する職員も支える職員もお互いに大変さはあったと思いますが、尊重しあいながら働きあえたと感じています。

また、2023 年度は法人他施設への見学交流を各おうち 1 名を目標にして積極的に行いました。セクションによって目標達成にバラつきはあったものの、多くの職員が行けて学び多き機会となりました。法人他施設の受け入れに感謝しています。

そして、他施設から異動してくる職員もいたことで、客観的な視点から保育環境の見直しが進んだり、経験を伝えてくれたりと良い刺激となりました。一方で当然のことながら保育観の擦りあわせが必要な場面もありました。その都度思いを伝えあい、子どもを真ん中に分かりあおうとする努力を続けてきました。異動してきた職員の施設に見学に行ったことで理解できることもあり、改めてお互いを知りあうことの大切さを感じる一年となりました。今後も異動が多くなる中では同様の状況が生じることが予想されますが、当然のこととして違いから学びあうことを大切にしたいです。

- ⑦ 保育園運営を推進する幹部の担い手の経験積み上げに長期的な視野で取り組みます。

➔ 2024 年度に向けて、新たに副園長 1 名、幼児主任の交替を行いました。「立場が人をつくる」と言われますが、それは確実にあります。私たち管理者の役割の一つとして、適切に役割を与えることがあります。それが職員の成長支援への大きな手立てだと考えています。その立場でどう成長するかは当事者次第ということもありますが、それを見極めることも人事を考える立場としては必要なことです。幹部も一定入れ替わりながら、立場が変わることで個人としても、また組織としても成長の機会とする必要があると考えています。経験を大切にしながらも固定化し過ぎず、基本的なことは共通認識としながらも、組織として多様な在り方があっていいということも職員が体験しながら作りあっていければと思います。

⑧ 職員定着を強く意識した労働環境作りを皆で検討し実践していきます。

- ➔ 2023年度は正規職員では年度途中で看護師の入れ替わりがありましたが、2022年度より「新しい人が見つかるまで」ということで残っていただいていた経過もあり、実質は2023年度の退職は0名と言えます。職員集団づくりに重点を置いて、職員と共に様々な取り組みをしてきた成果だと認識しています。これを何年継続できるかが組織として問われることだと考えています。ただ職員定着の基本条件となる「安心」や「労働環境」等だけでなく、今後求められるのはやはり成長欲求を満たす「自己実現」等を構造化できるかという点ではないかと考えています。近年退職していった職員も「砧が嫌なわけではなく、もっと違う経験がしたい」ということを理由に挙げていました。それは自分の人生を豊かにするためのポジティブな理由なので応援したいのですが、それを砧の中で満たせなかったことに対してどう向きあうかという運営課題は感じています。どうしようもないこともあるのですが、少しでも砧が職員一人ひとりにとって成長できる場であり続けるためにも、努力していきたいと考えています。

また、法人として「メンター制度」を導入しました。悩んだ時に気兼ねなく頼れる存在がいることは心強いと思われるので、引き続き位置付けていきます。

(3) 園が大切にしている思いを積極的に発信すると共に、砧保育園の良さを実感できる様々な取り組みを通して、保護者自身が園に対して多少のことでは揺るがない信頼を抱けるよう努めます。

① 不適切保育問題についてを含め、保育にまつわる課題を保護者と共に考え合っていきます。

- ➔ 報道の頻度として、不適切保育問題は鳴りを潜めている状況となってきました。しかしながら、世田谷区園長会でも度々そのような通告が入っていることや、無認可保育所の0歳児死亡事故の件等について発信されています。世の中の関心が薄まったとは言え、引き続き課題が大きいことは事実としてあります。このような保育問題への危機意識は園だより等でも発信することで、まずは知っていただくことから考える土台となるよう努めました。

また、2023年度の大きな出来事として、4月中旬にあった散歩時園児見失い事故があります。この件について、どこまで周知するかを法人内でも施設長間で検討した結果、全園に周知する必要があるという結論となりました。年度初めでまだ新入園家庭とは信頼関係ができていない時期と言うこともあり、正直かなり葛藤したのを覚えています。しかし、コロナ禍で徹底して透明性を持って情報共有をすることで信頼を築いてきた経験もあり、真摯に向きあえば必ず信頼につながるという確信もありました。そして、全園説明会を行ったところ、否定的な意見は全く出されず、むしろ励ましの言葉を多々

いただきました。また、今後の再発防止に向けて発展的な意見を寄せていただいた家庭もあり、それらを反映した「散歩マニュアル」も作成することができました。ピンチはチャンスと言いますが、今回の件を受けて、職員としても成長の機会となり、保護者の方とも信頼を強める機会となったと感じています。

- ② 子どもを真ん中にして、保護者と園が共に子育ての主体として力を発揮できる運営を目指します。

➔ 念願だった、保護者と共に剪定作業やプール清掃等の園環境を整える機会を持つことができました。在園児家庭 19 名に加えて、卒園児家庭 1 名も来て下さいました。うち 10 名がお父さんの参加となり、その意義も大きいと感じました。1 時間の作業時間であつという間にきれいになり、職員としても保護者の方の力に驚いている様子も見られました。作業後のお疲れ様会では、「保育園への恩返しと思って参加しました」「きれいになるのですっきりしました！子どものためにもなるし、すごくいい取り組みだと思います！」という嬉しい声があったり、帰りがけにも「またこういう機会があれば声かけてください」等の反応がありました。作業中も職員と保護者の方、また保護者の方同士も会話している姿も見られ、つながるきっかけとしても意義が大きかったと感じています。一般的にはモンスターペアレンツという言葉もありますが、保護者は共に子どもを育てるパートナーであり、味方です。信頼を込めた対応をすることで、保護者も信頼を還してくれるのだと思います。信頼して頼ることで、保護者としても「頼ってもらえて、役に立てて嬉しい」という思いを持ってくださる方も多いのではないのでしょうか。今後もこのような機会を大切に位置付けながら、園を支えてくれる保護者の方が増えてくれるといいなと期待しています。それが職員や保育自体への信頼に繋がり、職員も守られ、子どもも守られることにも繋がっていけばと願っています。

- ③ 保護者同士が繋がれるよう、意識的に働きかけていきます。

➔ ②とも関連しますが、保護者の方同士がつながる瞬間が感じられて嬉しかったエピソードがあります。冬祭りの餅つきや火の番の手伝いにお誘いし、お父さん中心に複数名の方が参加して下さいました。その中には 2022 年度卒園児のお父さんもおり、在園時代も毎年のように手伝ってくださり、餅つきの名物お父さんという存在になっています。「呼んでもらえれば、もうしばらくは来ますよ」と仰ってくださっていました。その話を聞いていた 2023 年度卒園児のお父さんが、帰りがけに「こういうのを引き継いでいかないとですね。私も卒園しますが、来年度も来るんで呼んでください」と仰って下さいました。このように園の行事によって、保護者の方同士の横のつながりはもちろん、縦のつながりも生まれつつあります。

また、懇談会の締めの話として、「折角出会った縁なので、飲み会等もしながら保護者の方同士でつながっていただけたら嬉しいです」ということをさせていただくことがあります。もちろんつながり方としてそれが全てではありませんが、そのような機会を持っている保護者の方々は、子育てを楽しまれている方が多いように感じます。孤独な子育てにならないよう、人と人がつながりあい支えあう中で安心して子育てしていけるよう、今後も保護者の方同士の橋渡しをしていきたいです。

(4) 地域に必要とされ、地域になくはない存在となるよう努めます。

① 地域ニーズに応えられる活動や内容検討を行います。

➔ 離乳食講座や赤ちゃん広場など0歳児家庭向けの地域活動への参加者が多い年となり、特に父親の育休取得が可能になったこともあってか、両親で地域活動に参加される方が増えました。

2023年度より児童館が中心となり、子育て家庭が安心して子育てできる環境を築けるよう子育て支援者が集まる懇談会が開かれました。その中で祖師谷地区の課題として、「核家族化」や「子育てに不安や悩みを抱えているけれども近場（ベビーカーや子どもが歩いて15分（500m））に気軽に相談できる場がない」ということがあげられ、各支援団体が連携し安心して子育てすることができるまちづくりを目指すことを確認しました。世田谷区は子育て支援に関する社会的資源が多くあるので、それぞれの役割の中で必要な家庭に必要な支援が受けられるよう努めていきたいと思います。

② 地域住民の方にも子どものために力を発揮してもらう中で、「子どもは宝」という実感を地域の中に広められるよう努めます。

➔ 1つ目は、「再現遊びをより豊かに」という思いから、商店街の中にある卒園児保護者の美容室へ見学へ行かせていただきました。当日は理事長の安川先生のカットの様子を間近で見せていただき、様々な道具の種類を教えてもらったり、触らせてもらったりと良い経験となりました。今後も商店街の中にある保育園の強みとして、様々なお店ともつながっていきたいです。

2つ目は在園児保護者が経営するデイサービス施設との交流を年長児を中心に重ねてきました。利用者の方々のあたたかい眼差しや大らかに受け止めて下さる雰囲気年長児も安心し甘える姿があり、また利用者の方々も生き生きと子どもたちと交流する姿があり互いにとても良い時間となりました。今後も日常的に交流を重ねていきたいと考えています。

3つ目は長年計画していた保育園裏にお住いの環境に詳しい方に来ていただき、植物や昆虫、生き物についてお話していただきました。大人の関わり方によって子ども

の生き物に対しての興味の持ち方に関わってくるというお話があり、保育士としてどのように向き合っていくべきか考えさせられるお話でした。今後も園庭環境について相談させていただきながら、子どもたちにとってよりよい環境づくりをめざしていきます。

③ 園の良さが伝わるよう積極的に発信していくよう努めます。

- ➔ 園のホームページや法人のInstagramの担当をおき、日々の保育の様子や行事、地域活動の様子などを意識的に発信してきました。子どもたちのいきいきとした表情をみて園見学に来る方もいらっしゃったり、在園児保護者から砧の良さが語られて入園につながったという方もいらっしゃいました。これも日々丁寧に保育し、子どもの思いを受け止めて保育しているからこそだと思っています。

また法人全体でホームページをリニューアルすることとなり、どのような内容にするか話しあう中で、法人で大切にしていること、砧で大切にしてきたことを再確認することができました。今後も園の魅力、良さを感じてもらえるよう積極的に発信していきたいと思います。

(5) 施設整備を計画的に行っていきます。

① 財政が一定安定してきている状況を受け、この間見合わせてきた修繕に着手していきます。

- ➔ 2023年度は安全対策に特化した補助金が出されることとなり、対象となる修繕を中心に実施しました。具体的には、園庭に設置している「ロープジャングル」の補修と見守りカメラの設置です。見守りカメラの設置に向けては、職員間や施設長会議でも意見交換し、慎重に検討しました。意見として「生活の場にカメラがあることは違和感がある」「監視されているように感じる」という否定的なものが多かったです。一方で、「把握しきれない怪我や事故を映像を確認することで把握でき、保護者にも正確に説明できるので自分たちを守ることにもなる」という意見も出され、賛否両論ありました。結果的に保育室は保育士が責任を持って見るので設置しないが、階段部分や園庭の死角となる部分については把握しきれない状況も生じる可能性があるため設置することとしました。今後も時代の流れと共に求められる機器の導入について、職員と慎重に検討を進めていきたいと考えています。

また、計画していた修繕については、担当である園長の対外的な業務が増えたことにより滞ってしまう状況となりました。2024年度は担当補佐職員を立てることで滞らず実施していくよう努めます。照明器具補修については、世田谷区主導で2024年度に実施することとなりました。

② 保育補助者の力を活かし、園環境や労働環境を整えていきます。

- ➔ 芝生の整備について、保育補助者の業務として位置付けることで、事務室業務の軽減を図りました。事務室負担は軽減されましたが、保育補助者にとっても重労働であるため軽減を求める声が上がっています。しかしながら、天然の芝生は砵のシンボルでもあり、入所を希望される方からも「芝生で裸足で過ごせることが魅力で希望しました」という声も多々聞かれます。このような魅力的な環境を守っていけるよう、業務のシェアや子どもと共に行動すること等を検討しながら、それぞれの負担が大きくなり過ぎないように配慮していきます。

(6) 危機管理についての計画を具体化します。

① 業務継続計画（BCP）を策定します。

- ➔ 世田谷区私立園長会の危機管理研修にて講師を招き、BCPを作成する機会が設けられました。専門家の視点を踏まえながら、自施設に適用する内容となるよう、防災担当が中心となり作成することができました。有意義に活用できるよう、職員に浸透していくことや、地域の特性を踏まえて計画を見直し、より意義のあるものにブラッシュアップしていきます。

#### 4. 職員研修計画

異年齢保育を深めるというテーマを元に、法人他施設の見学を計画的に進めました。そこで得た学びを職員会議で報告する場を持ち、園全体での学びとなるよう努めました。特にしろくま保育園への異動者は複数施設を経験したため、大変有意義な学びがあったことが感じられました。直接的に50年誌を用いて学ぶ機会は持てませんでしたが、法人の土台であるこぐま保育園への研修に複数名参加したことで、法人の保育への理解が深まりました。

また、講師を招いての園内研修を積極的に実施しました。具体的には、近隣住民であり生物や環境への知識が深い田中氏による虫についての研修、こどものとも社の平井氏による絵本についての研修、木のおもちゃ屋トナカイさんによる木製遊具についての研修等です。特に田中氏の研修については、職員から「自分では選ばない内容の学習をする機会となった。その分野に長けている方の話はとても興味深く聞くことが出来た。地域の方との交流にもなると思うので、今後機会があれば、園内で生き物をみせてもらえたら子どもたちにも貴重な経験になるか」という感想も出され、2024年度は更に発展した学びにつなげていきたいと考えています。

そして、長年ご尽力いただいた三上先生にも最終講座をしていただきました。保護者の方も複数名参加されており、関心の高さが感じられました。今後はこのような研修を計画できていませんが、三上先生からの学びを職員間で共有しながら引き続き子どもや保護者の方

にも還していきたいです。

加えて、運営メンバー中心ではありましたが、地域支援コーディネーターや発達支援コーディネーターを招いて、地域子育て家庭のニーズや発達支援についての地域資源について学びを深めました。地域支援コーディネーターの方には、地域子育て支援「きぬたん」の活動である「赤ちゃん広場」にも参加していただき、連携を進めました。発達支援コーディネーターの方は多岐に渡る世田谷区の子育て地域資源について解説していただき、今後連携していくことの意義を確認しあいました。

自主学習会については、園内研修が充実したこともあり1回の実施となりました。ただ、これまで運営主体で企画していましたが、職員主体で企画されたもので、より参加しやすい雰囲気もあってかこれまでにない参加者数となりました。内容としても明確にテーマを決めず、日々の保育を語りあうというものであったため、現場職員の率直な悩みが出されて有意義なものとなりました。

#### (1) 園内研修

- ① 全員研修－応急救護、防災、不審者対応、保育総括、荒馬
- ② 講師による研修－わらべうた、陶芸、歯科医の講座、ドル平
- ③ 新人研修－申請事務、保健研修、乳児研修、離乳食、法人や園の歴史他
- ④ ケース検討－配慮児を含む保育について公認心理士と共に具体的な対応検討
- ⑤ 必要に応じて運営会議で検討し、講師による講座で研修を行います。

➔ 虫、絵本、木製遊具、地域支援コーディネーター、発達支援コーディネーター

#### (2) 専門機関の巡回指導など

世田谷区発達支援センター（げんき）、総合福祉センターの巡回指導を受け、支援が必要な児童の保育について深め、保護者への働きかけも検討します。

➔ 2023年度はげんきの研修は実施せず、公認心理士による研修を重点としました。

#### (3) 出張研修

世田谷区、経営懇、東社協の研修に参加します。キャリアアップ研修に対応する世田谷区の研修、保育団体連絡会の研修などに参加を検討します。

処遇改善Ⅱの支給対象者については、必須項目を網羅できるよう積極的に位置付けます。

➔ 各団体の研修について、積極的に参加しました。また、社会福祉経営全国会議主催の管理職養成学校や研修にも参加しました。キャリアアップ研修についても必要な分野について計画的に受講し、積極的に進めることができました。



(4) 見学研修

異年齢保育実践をより深めるため、法人内施設の保育を見学し、研修を行います。

➔ 上記参照。

(5) 法人研修

法人合研、新人研修、中堅層研修、保健部会、給食部会等に取り組みます。

➔ 各自担当を中心に積極的に取り組みました。

(6) 自主研修

① 職員一人ひとりに支給される研修費を積極的に活かし、個人目標に沿って個人研修計画をたて、目標をもって主体的に研修を行っていただけるようにします。

② 個人研修計画の成果について、年3回の園長面談で随時振り返ることで、より意識が持続すると共に、自身の成長が実感できるよう援助していきます。

③ 主体的に学ぶ風土の醸成を促すよう、自主学習会を促していきます。

➔ ①、②については計画通りに取り組みました。しかしながら、②については年度途中で計画とは異なる学びの意欲が芽生えることで嚙みあいづらさも感じるため、面談内容を検討したいと考えています。③については上記参照。

地域活動事業

	実施状況
出産を迎える親の体験学習	11回実施 34名
保育所体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤ちゃん広場 5回実施5家庭27名参加</li> <li>・園庭遊び 10回実施20家庭40名参加</li> <li>・行事（夕涼み会：5家庭8名参加、石狩鍋：2家庭5名参加、芋ほり遠足：5家庭13名参加、冬まつり：3家庭6名参加、新春の集い：1家庭2名参加）</li> </ul>
学習会	歯の学習会2家庭、絵本1家庭、遊具2家庭
わらべうた講座	3回実施 10家庭19名参加
離乳食講座	4回実施15家庭17名参加
職場体験ボランティア	卒園児：小学生42名、中学生17名、高校生1名 千歳中学校 3日間 3名 砧中学校 3日間 2名 保育の仕事職場体験事業 2日間ずつ 8名 ナツボラ（高校生）2日間ずつ 5名
実習生	4名（白梅学園大学1名・大原学園1名・帝京大学1名・こども教育宝仙大学1名）

※参加人数は延べ人数で記載

2023年度 砧保育園 参加研修一覧

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア アパス 該当	自主研 修対象	備考
1	給食	食と健康を考えるシンポジウム実行委員会第一回企画	食べもの文化研究会	ZOOM	6月11日	「じょうずに食べる・食べさせる」「食育で子どもの声は聴こえていますか」	×	○	
2	事務所	労働基準法に関する研修	東社協	ZOOM	7月3日	福祉事業所経営に求められる労務管理	×	○	
3	幼児	紙芝居アカデミー	童心社	ZOOM	8月13日	なし	×	○	
4	りす	合研	合研実行委員会	ZOOM	8月5日	2歳児の保育	×	○	
5	ひよこ	こども家庭庁発足後の保育を 考える	フレイベル館	ZOOM	7月27日	なし	×	○	
6	乳児フリー	合研	合研実行委員会	ZOOM	8月5日	子どもの生活と異年齢保育A	×	○	
7	事務所	会計実務研修	東京都社会福祉協議会	ZOOM	8月30日	活用月次報告・インボイス電子帳簿保存法	×	○	
8	0歳児フリー	合研	合研実行委員会	ZOOM	7月29日	0.1.2歳児とつくる心地よい生活	×	○	
9	事務所	合研	合研実行委員会	ZOOM	8月15日	園でのおとな同士の関係どうしてる？どう したい？・学童期を見通して幼児期に大切 にしたいこと	×	○	
10	保健	キャリアアップ研修	チャイルドフットラボ	府中プラッツ第三 会議室	8月22日・25 日・30日	障害児保育	○	×	
11	ひよこ	合研	合研実行委員会	ZOOM	7月29日	0.1.2歳児とつくる心地よい生活	×	○	
12	星	合研	合研実行委員会	ホテル華の湯	7月29日	園でのおとな同士の関係どうしてる？どう したい？・学童期を見通して幼児期に大切 にしたいこと	×	○	
13	りす	合研	合研実行委員会	ホテル華の湯	7月29日	園の大人同士の関係どうしてる？	×	○	
14	給食	キャリアアップ研修	ドライブワン	ZOOM	9月7日・9月21 日	マネジメント	○	×	
15	事務所	キャリアアップ研修	公益財団法人総合健康推 進財団	ZOOM	8月28日～10月 21日	障がい児保育	○	×	
16	保健	キャリアアップ研修	公益財団法人社会教育協 会ひの社会教育センター	ひの社会教育セン ター	11月6日・7日	保健衛生・安全対策	○	×	
17	太陽	世田谷区認可外保育施設・居 宅訪問型保育事業合同研修	中内麻美	北沢タウンホール	11月9日	一人一人を大切にする保育のために～保育 者のセルフケア～	×	×	
18	給食	食育・栄養・保健研修（後 期）	世田谷区	成城ホール	10月5日	「からだの動きから食を考える～作業療法 士の視点から～」	×	×	
19	太陽	コダーイ芸術教育研究会	中本琢也	三多摩労働会館第 一会議室	5月16日・6月 6日・7月4日・ 9月12日・10 月12日	立川体育	×	○	
20	太陽	キャリアアップ研修	BOON子ども教育心理研 究所	八重洲ビル	10月28日・10月29 日	幼児教育	○	×	
21	給食	合研	合研実行委員会	ホテル華の湯	7月29日・7月30日	子どもの発達と給食	×	○	
22	0歳児フリー	キャリアアップ研修	一般社団法人日本ウェル フェアサービス協会	ZOOM	11月6日	食育・アレルギー対応	○	×	
23	りす	キャリアアップ研修	障害児保育研修会	ZOOM	6月20日～11月21 日	障害児保育	○	×	
24	事務所	合研	合研実行委員会	ZOOM	7月29日～7月31日	語りあおう子どものいのちと育ち広げよう 子育ての輪つくりだそう平和な世界	×	○	
25	乳児フリー	どの子も輝ける保育を目指し て	東社協保育部会	飯田橋レインボー ビル7F大会議室	1月12日	一人ひとりの理解を深めるために	×	○	
26	星	キャリアアップ研修	東京経営懇話会	保育プラザ	5月31日～10月18 日	あそびを深める	○	×	
27	りす	キャリアアップ研修	東京経営懇話会事務局	保育プラザ	6月14日～11月8日	乳児保育研究会	○	×	
28	給食	キャリアアップ研修	一般社団法人日本educ 食育総合研究所	国立オリンピック 記念青少年総合セ ンター	12月5日～12月22 日	食育・アレルギー対応	○	×	
29	太陽	キャリアアップ研修	チャイルドフットラボ	ZOOM	2月5日、2月17 日、2月26日	障害児保育	○	×	
30	保健	上級救命講習	公益財団法人東京防災救 急協会	立川防災館	3月11日	なし	×	○	

## 上北沢こぐま保育園 2023 年度 事業報告

### 1. 事業内容

(1) 認可定員 90 名

年齢	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合計
認可定員	10	16	16	16	16	16	90

(2) 保育年齢 産休明け～就学前

(3) 開園時間 7 時 15 分～20 時 15 分

(4) 延長保育 18 時 15 分～20 時 15 分（児童状況報告参照）

(5) 1 歳児～5 歳児の異年齢保育

(6) 障がい児保育（児童状況報告参照）

(7) アレルギー食対応（児童状況報告参照）

(8) 地域活動事業（地域食堂、体験保育、産前産後体験、ボランティア及び実習生の受け入れ等）

	実施状況
体験保育	3 回実施、18 家庭が参加
産前産後体験	6 回実施、14 名が参加
職場体験	11 回実施、52 名が参加
実習生	2 大学より3 名受け入れ
インターン	受け入れなし
地域食堂	4 月～2 月に10 回実施。都度50 食を園前にて配布し年間118 家庭の利用があった。近隣施設、東社協、児童館、清和学園と連携

### 2. 児童状況報告

月	在籍児童数	新入園児	管外児童	退園児	配慮児	アレルギー児	外国人家庭	育児困難家庭	延長保育 30 分延べ	延長保育 1H 以上延べ
4	86	20	1		10	5	3	2	65	52
5	87	2	1	1	10	5	3	2	53	36
6	87		1		10	5	3	2	60	37
7	87		1		10	5	3	2	49	34
8	87		1		10	5	3	4	38	29
9	87		1		10	5	3	4	27	20
10	87		1		10	5	3	4	26	17
11	87		1		10	4	3	5	27	20

月	在籍児童数	新入園児	管外児童	退園児	配慮児	アレルギー児	外国人家庭	育児困難家庭	延長保育 30分延べ	延長保育 1H以上延べ
12	87		1		10	4	3	3	32	26
1	87		1		10	4	3	3	32	26
2	87		1		10	3	3	3	39	27
3	87		1		10	4	3	3	39	30

### 3. 職員状況

#### (1) 正職員 \*主任 4名(保育士)

職種	園長	副園長	事務長	看護師	保育士	栄養士	調理師	合計
人数	1名	1名	1名	1名	23名	3名	1名	31名

#### (2) 正職員状況

- \*新規採用者 保育士5名・栄養士1名(新卒6名)
- \*法人内異動者 事務長1名(8月よりしろくま保育園準備の為、本部へ)  
保育士2名(しろくま保育園へ)
- \*育児時短取得者 保育士1名(4月～1月まで)
- \*短時間正職員 看護師1名
- \*産休育児休業取得者 保育士1名(7月20日より産休)  
保育士1名(10月16日より産休)  
保育士1名(1年間育休)  
調理師1名(7月18日復帰)
- \*派遣職員 保育士1名(4月4日～1月31日)  
調理員1名(5月1日～3月31日)
- \*退職者 保育士2名
- \*職種異動職員 調理師1名(8月より事務長へ)

#### (3) 有期雇用職員

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	9	9	8	9	11	11	11	11	12	12	12	13

- ・有期雇用職員の充足が困難で、派遣職員で補ってきました。求人を積極的に出し、掲示板を見た方からの応募、就職向けの見学者からつながる傾向にあります。
- ・保育士スカウトへ登録し無資格者への求人も積極的に行い、採用につなげてきました。

#### (4) 嘱託医

- \*小児科医 山角聡美医師 (三宅小児科)
- \*歯科医 三上直一郎歯科医師 (ミカミ歯科医院)

(5) 業務委託

- \* 保育システム 株式会社コドモン  
株式会社 hugmo (呼吸観察)
- \* 写真撮影 黒田雄一
- \* ゴミ処理 藤ビルメンテナンス
- \* セキュリティ 株式会社ザ・トーカイ

(6) 講師

- \* 言語聴覚士 永田裕美子
- \* 保育アドバイザー 谷まち子

#### 4. 特別保育事業

(1) 一時預かり事業 定員—最大7名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実人数	23	21	17	28	25	23	20	24	28	26	24	27	286
延べ	95	106	97	112	124	121	126	128	124	117	124	112	1386

- ・実際に子どもの姿を見ながら面談を行い、子どもの状況を把握しました。ひろば利用者からの相談も受け、一時預かり保育へと繋がっていく事も多かったです。家庭状況を考慮し、受け入れ保育を行い、保育園での一日の生活を知る中で安心して保育を利用開始できるように努めてきました。
- ・子ども達の状況や保育の中で大切にしている事を丁寧に保護者に伝えていきました。保護者と協力して子どもの状況を考える中で、子どもたち一人ひとりに即した生活や遊びを考え保育をつくってきました。
- ・送迎の際に、保護者との対話から一時預かり保育のニーズを理解し、地域ニーズに対応する形態を模索しました。世田谷区とも確認を取りながら、0歳児の受け入れや幼稚園利用者との併用についても検討を行ってきました。
- ・昨年度と比較して、利用者が増えました。地域の方々からの評判を聞いての利用、きょうだい関係の利用と初年度から実施してきた事が地域に広く周知されています。お子さん3人を預けていたご家庭から、「こぐまが無ければ育てることができませんでした。」と、感謝の言葉も頂いています。社会全体が少子化の道をたどりつつある昨今、保育園の在り方を利用者の方々から改めて教えて頂いていると感じます。

(2) 定期利用保育 (定員: 1歳児2名・2歳児3名・3歳児3名)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1歳児	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
2歳児	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
3歳児	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	18

- ・今年度の低月齢児の需要は、継続した定期的利用の方や措置されなかったご家庭からの申し込みとなり、年間を通して継続の利用となりました。又、11時間以上の保育を希望されるご家庭が多く、延長利用も数回受け入れてきました。
- ・3歳児の需要もあり、例年に比べて定員を増やしました。充足することはありませんでしたが、保護者の就労保障の為3歳児枠の必要性を感じました。しかし、3歳児は年度途中で措置が決まる傾向にあり年度末で空きができました。
- ・昨年度から継続して利用されるご家庭や一時保育を利用されていたご家庭からの申し込みもあり、慣れてきた園に通いたいご家庭の希望がある事を感じました。
- ・配慮を必要とする児を受け入れ、日々面談を行ってきました。在園児と同じように他機関へと繋げていくことが出来たことは社会福祉事業としての使命を全う出来たと感じています。また、食事や睡眠時の配慮も要し丁寧に関わってきました。保護者との関係も同様、日々のやり取りの積み重ねで信頼関係を築いていくことが出来ました。
- ・10月より一部保育料の補助対象となりました。保育料が高額な制度の為、行政へ利用家庭の現状を相談してきた甲斐がありました。先払いの大変さもあるため今後も利用者の現状を把握し、行政へ相談していきます。
- ・行政や園への提出書類の声かけは事務室、クラス両方から丁寧に行ってきました。

(3) おでかけひろば事業 週3日(火・水・金) 5時間(10時～15時)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ	74	33	72	52	55	94	76	55	44	110	106	113	884

- ・担当を常勤職員で分担することにより、園全体でひろばのことを気につけ、地域の人とコミュニケーションをとることやニーズを知ることができました。定期的に利用している家庭も増え、在園児とのかかわりも増えている状況です。
- ・離乳食相談では、相談件数は少ないものの、食事に悩んでいる家庭は多くいる印象でした。園の離乳食試食会を実施し、離乳食が始まっていく方にとってはイメージが付きやすいと好評でした。発達に関わる相談に関しては発達相談という名称から健康相談に変え、事前予約制を廃止し利用しやすくしました。しかし、当日予約の相談については少なく相談しやすい雰囲気作りなどを課題としていきます。
- ・他団体と連携し、出張ひろばを実施しました。イベントを企画し情報提供することで、ニーズを知るきっかけとなりました。
- ・入園見学後ひろばを利用する方が増えました。また、入園内定した家庭の利用が増える傾向にあります。
- ・6月くらいまではHPの更新回数があまりできませんでしたが、その後HPの更新期間や担当を決めたことで、間が空くことなく定期的に更新し、広く情報提供を行ってきました。

#### (4) 緊急保育 定員1名～2名

- ・利用対象となる可能性がある問い合わせは定期的にありましたが、基本的に一時保育の範囲で保育を受けることができたので利用者はおりませんでした。

### 5. 研修計画

- ・若い職員が多い為、園内研修の内容を具体的に細かく計画し、職員会議内での研修はほぼ計画通りに網羅してきました。また、会議内で自身の実践を通して多角的に語り合う時間を重ね、職員個人としても各おうちや係会議のチームとしても互いに認め合うことが出来るようになってきています。子ども、保護者理解、事故防止への理解や行動力の不足と、思うように全てを伝えあえない面もありますが、職員ひとりひとりが一歩前進したと感じとれる場面もみられている点では人材育成の成果と感じています。今後も互いに語り合い、子どもと関わる仕事に意欲を持って向きあって欲しいと思っています。
- ・キャリアアップ研修、園内での経験年数の短い職員が集う研修、自主研修等での学び日々の実践を各おうちや会議では実施できましたが、報告会を計画したように行うことが難しく毎月実施とはいきませんでした。1月に主任による研修報告を全体に行い、討論する時間となり充実していました。次年度はより全体への発信の機会を計画的に取り組み、学びを開示する過程での振り返りにより理解が深まり、発表をすることで表現力を培っていきたいです。
- ・各会議や研修の中でともに語り合う時間を多く確保し、理解した事を保護者に発信してきました。発信した情報から保護者との会話が増え、学んだ内容をもとに伝えるよう努力してきました。また、個々の認識を共通認識へとしていく中で互いへの理解が深まりました。
- ・定期的に保育情勢を学び、不適切保育とは何か、大切にしたい人権とは何か、この観点から「子どもたちへもう1人保育士を！」の運動をともに学び、理解した内容を力に、自分たちの保育と重ね合わせて考える事ができました。
- ・常勤職員研修は職員のニーズとの融合も課題でした。その時々の子どもたちの姿や職員状況、社会状況に合わせた研修内容の設定は、職員の経験年数の差も大きい内容を探求してきたように感じます。今年度5歳の姿や活動の持ち方を課題と感じ運営会議等で語りあう時間があつたことは有意義な時間となりました。
- ・個人研修はコロナ禍が落ち着き昨年に比べ活発に参加してきました。しかし、参加する職員の偏りもあるため、外部研修へ積極的に参加出来るよう、希望研修を整理し参加を促していきたいです。また、職員と一緒に参加出来るよう声をかけ、参加への意欲を引き出していきたいです。

### 6. 2023年度重点課題

#### (1) 職員集団の関係性から広がっていく、園運営を目指していきます。

- ・運営していくにあたり、職員それぞれの考えや思いを思考し、話し合いを行うようにし



てきました。基本的にはクラス運営、会議担当に任せながら問題があれば各機構で話し合いを行ってきました。意識しながら運営してきましたが、言葉の足りなさ、話し合った結果のとらえ違い等があり、すれ違ってしまった職員も一部いました。しかし、「子どもたちにとってどうなのか？」を柱に様々な場所で話すことで、いろんな視点があることをお互いに知る機会となりました。子どもたちの姿から考え合う事を土台に、自分らしく働きあう中にも集団でどう考え合って行けるかを、職員と一緒に作り合いながら検討していきたいです。

- ・若い職員が増え、クラス集団を主とし園全体で認め合い助けあい、個々の思いを聞き取り、職場内外でコミュニケーションの機会を増やしてきました。そのような機会を設けることで、お互いを理解し保育集団を作り合ってきました。又、メンターを園内で配置し面談を実施してきました。保育現場と近い関係性ということが一番大きく、また、多方面から話を聞いてくれる場が職場にあることが働き続けることへとつながっているように感じます。
- ・事務室の体制を変え保育現場に経験層を増やすとともに、現場に近い世代の異なる主任体制を作ってきました。現場の大変さや保育内容を具体的に感じ、どう支え合っていくのかを運営会議の中で前向きに議論した点、事務室の1年間の動きをともに行う仲間が増え、個々の特性を活かしながら、一緒に悩み思考しながら運営していく事ができました。事業が多い点、日々多様な業務を担うとなるとマイナス思考に陥ることもありますが、体制を変えたことで理念や様々な意図を再確認する場面も増え、風通しの良い園運営を作ってきました。
- ・保護者代表者会議や月1回の園便りで、保育園が置かれている状況や保育情勢を保護者へ伝えるようにしてきました。継続していく事で、保護者からの反響が増えてきました。また、実際に保育参加をし、配置基準や保育の大変さを言葉にしてくださるようになりました。今後も、子どもたちの為に問題がどこにあるのかを保護者と一致させながら運動していきたいです。
- ・保育アドバイザーには月1回から2回、1年間を通し継続的に同じ異年齢クラスへ入って頂きました。職員と話し合いを行いながらより良い保育へとつながっています。職員が対応に迷う事象などがあつた際に、的確なアドバイスがあり、保護者面談の中で活かされてきました。今後も異年齢保育経験者として、人生の先輩として園の課題と一緒に寄り添って頂きたいと思っています。

## **(2) 職員が他の職員とともに保育を作り合い、子どもを真ん中に集団で考えられるようになります。**

- ・今年度は会議数の削減を実行し、主に内容が重複している会議を合併し職員の業務軽減につながるようにしてきました。内容や役割の変更があり模索しながらの一年でしたが活発に活動してきました。必要に応じて、担当の行事前には自主的に時間を作り、会

議を行う姿がありました。

- ・各クラスの話し合いは月一回勤務表に組み込み実施してきました。職員からの要望でクラスの話し合う時間の確保を求められ、月3時間までの残業時間を認めることで、会議時間を捻出してきました。話し合うことを積み重ねてきているため、保護者からの意見や子どもたちの怪我、関わりで問題等があった際にも自然と時間を作り語り合う姿勢が育まれてきています。職員の状況やクラス状況により、活用に差が見られた点もあるため、来年度の課題としていきます。
- ・保護者への発信は各クラスから声掛けや連絡帳で丁寧に取り組み充実してきています。また、各行事の際にも意識して取り組んでこられたと感じています。それでも、保護者への連絡や連携に要する時間が足りないという意見は出ているのが現状です。子どもたちの様子、保育の中で大切にしたいことを子どもの姿や保護者の声から考え語り合う時間の確保に注力しています。
- ・子どもたちは前年度の様子を思い出し「自分たちも」と考える事、日々の姿を互いに見て遊びや生活の仕方が自然と伝承されている姿が見られました。5歳児は話し合いの中で昨年度の5歳児の姿を思い出し、「〇〇していたね。」と、次々話題に上がります。また、土曜保育時は5歳児がリードしてくれることで小さい子が安心して過ごす姿もみられます。こうした子どもの姿から保育計画を作っていけるよう、主任が会議で一緒に話し合いながら立案してきました。
- ・各クラスの5歳担当職員を中心に子どもの声を元に保育が展開されてきました。散歩先の決定や活動内容も子どもたちに聞いて展開しようとする取り組みも各クラスで見られています。時に大人の思いや小さい子に合わせた生活時間に追われ、5歳児が「疲れた。」「何もしたくない。」と、訴える姿や遊びに満足いかず入室ができない姿もありました。そういった場合にも子どもの姿を園全体で共有し考え合う時間を取るようになってきました。子どもたちの声に耳を傾けることで、主体的に活動する意識が育っています。
- ・保護者対応は充実している面も多くありますが、後手になる時もありました。保護者からの意見には迅速に対応できるよう意識するようになってきています。各家庭の状況や保護者の特性から繰り返し面談を必要とする場合がありますが、クラスと事務室で連携して対応してきました。各行事への参加や、保護者から保育園を使いたいと発信があるなど信頼感が増していると感じます。保育参加も自由度をあげて展開したことで、実施家庭数が増え親子ともに安心して登園する姿が増えたと感じています。

### **(3) 乳児から異年齢での生活を通して、子どもたち一人ひとりが生き生きと育ちあう保育を目指します。**

- ・生活行為に重点を置くため、各おうちに着替え台を設置し、着脱に意欲的に向かえるよう工夫してきました。0歳児は1対1で丁寧に生活行為を行うところから始め、個々の

状況を把握しながら進めてきました。担任が生活行為をする中で、その子自身が見通しを持って生活できるように努めました。

- ・大きい子は小さい子の手本となる気持ちが育ち、優しい声掛けとともに困っている子に対し自然に手を差し伸べるなど、お世話をする姿がありました。小さい子たちは憧れを持って興味深く大きい子たちの姿を間近で見て感じ、やってみたい、やりたい、という気持ちを表現しています。日々の関わりの中で自然に、年齢問わずやり取りを重ねています。
- ・異年齢はクラスごとに米とぎを毎日行い、小さい子が遊びに取り入れる等米とぎが浸透している様子が見られます。乳児も身近な野菜に触れる経験を積み、食への興味が広がっています。また、盛り付けられたものを食べるだけではなく「これはなに？」と食材に興味を持ってやり取りする姿が多くみられ、具体的な食材名がわかるようになってきています。どの子も食の時間が好きになるような工夫を、園全体の課題としていきます。
- ・子どもたちと週案や日案を確認していくことで、見通しをもって生活し、期待をもって過ごしている姿が多くありました。また、子どもたち発信の活動も取り入れてきました。クラスごとに話し合いや気持ちを話す機会を持つことを土台とし、大きい集団での話し合いでも、試行錯誤しながら話し合いややり取りを重ねました。様々な想いに触れながら気持ちに折り合いを付ける事も経験してきました。
- ・保護者や卒園児祖母に協力してもらい、手作り遊具製作を進めています。また、現在ある遊具を使いながら、子どもたちが経験したことを見立て、再現し遊んでいます。今後も季節や子どもの状況に合わせ、遊具の入れ替えを行っていきます。
- ・少人数での歩き散歩から始め、少しずつ距離をのばし散歩先を拡大してきました。歩くことで体力が付き、下半身が安定してきています。体幹を鍛えることで危険を察知した際によけたり、止まったりが出来るようになってきています。
- ・配慮のあるお子さんやご家庭については、月毎、期毎など定期的な面談や保護者との会話を日々丁寧に重ねてきました。子どもが通う関係機関との連携も行い、子どもの育ちを多方面から考えられる機会が増えていきます。

#### **(4) 子どもの豊かな育ちを真ん中にし、保護者と連携しあっていく関係を目指します。**

- ・子どもの姿や園での様子についての不安が数名の保護者に見られましたが、時間を作り面談を実施したことで、保護者の思いを伝えてもらい、悩みを聞く時間となりました。面談では、子どもを真ん中に一緒に考え合えるように努力してきました。保護者から、意見や思いを出してもらってからの対応となってしまったこともありましたので、日々の声掛けや子どもの姿を保護者と園とで共有していくことは引き続き行なっていきたいです。
- ・送迎時の会話やお便りで子どもの姿を伝えることができました。配信だけではなく、掲

示をすることで、より園での様子を知ってもらえるように努力してきました。しかし、周知が完全に行き届くことは難しく、大事な事項に関しては直接のやりとりをクラスや事務室で補っていく必要性を感じています。

- ・新しい家庭が多く、担任やクラス、園全体で声掛けを意識的に行ってきました。些細なことでも質問や相談をして頂き、安心して話をしてもらえような関係性を作ってきました。引き続き、日々のコミュニケーションを大切にしていきたいです。
- ・秋の行事では、保護者が主体となり1つのブースをお願いし、一緒に子どもたちのことを考えながら作り合ってきました。その中で、保護者としての思いを聞きながらも、園が大事にしていることも伝えていく機会となりました。
- ・園舎清掃や環境整備にも積極的に参加して頂き、保護者とともに子どもたちの日々の保育を保証していくことができました。また、保護者の要望から保育参加を午前のみではなく、午後も実施してほしい、参加後保育を行って欲しい等の要望があり実現してきました。実現した事で多くの保護者が参加し、懇談会やお便りから感じる異年齢保育の育ちだけではなく、実際に体験することで理解して頂く機会となりました。今後も、交流や保育参加を活発に行い、相互理解へとつなげていきたいです。
- ・個別配慮児等、園の姿と家庭や他機関での姿を共有した方が良い家庭に対しては、日頃からのやりとりと同時に面談を実施することでより具体的に話をする時間を設けてきました。関わりを子どもの姿から家庭と共に考え合えるようになってきています。

#### **(5) 地域との関わりを大事にし、地域に必要とされる保育園を目指します。**

- ・園の情報提供源として、HPの活用をしてきました。担当制を構築し、定期的に更新をしてきています。見やすく、更新しやすいHPの改変に向け2年目の職員を中心にHP担当者会議を実施してきました。
- ・地域食堂として展開してきた「こぐましょくどう」は月1回実施してきました。会食制には今年度もできませんでしたが、一定数認知がされ地域の方が定期的に訪問してくれています。他園の取り組みを見学させていただくなど新たな方向性の模索もしてきました。
- ・地域の他園との交流も活発に行い、園舎見学や他園への行事参加を互いに行ってきました。5歳児は姉妹園との交流も実施し、小学校入学前に大きな集団活動の経験を互に行う事ができました。
- ・おでかけひろば「ぐみの木ひろば」は担当者を交代制にしてきた結果、どの職員もひろばの利用者と顔を合わせれば挨拶出来る仲となったことが、風通しの良い運営へと繋がっていきました。今以上にひろばと保育との交流を深めることで生まれる繋がりに期待していきたいです。
- ・小学生対象の子どもの学び場「こぐまのまなびば」では、4月から月1回の開催で卒園児中心に新しく加わった地域の子どもたち15名程度が宿題や興味のある活動を行い

ながら安定して参加しています。異年齢のクラスに行って過ごしたいという児童もあり、慣れ親しんだ場を求める姿もみられます。家庭の状況に合わせ学校から直接来所も可能とし、ニーズに合わせ対応してきました。

- ・同法人の貝取小学童クラブとの交流を小学校の長期休暇期間を利用して4回実施しました。年齢の幅があることでの肯定的な姿がお互いの子どもたちに見られ、大人が教えられた場面も数多くみられました。こういった機会を設けたことで、1歳～5歳の異年齢という年齢の幅だけではなく子どもたちが育ちあえる事、卒園児や地域の子どもたちが安心して通える施設が求められているのではないかと感じました。

**(6) 保護者が安心して預ける事ができ、職員も働きやすい環境を整えていきます。**

- ・園のセキュリティ面においては、保護者間でも視覚的に気にかけていけるようネックストラップの着用をお願いしてきました。在園家庭に関しては徹底ができてきましたが、一時保育家庭の徹底が困難でした。その為、一時保育は個人でカードフォルダーを準備して頂いていましたが、園で準備することで徹底できるようにしていきたいと思っております。又、より一層周知していく為にも、日々声掛けを行い、保護者とともに安全を守れるようにしていきます。
- ・園自体も7年の月日が経ち園児の安全対策強化の為、補助金を利用し木製遊具等の修繕を行ってきました。しかし、使用頻度が高い箇所は都度修繕が必要になっているので、日々気が付いたときに職員と共有する力を持ち、園全体で大事に使用していけるよう心掛けていきます。
- ・地域向けの事業が増え、園に関わる対象年齢の幅も広がってきました。地域に根差しながら、子育ての輪を広げていくことで地域の方や保護者の安心へと繋げていけるよう、実施回数を増やし運営していきたいです。

2023年度 上北沢こぐま保育園 参加研修一覧

正職員						
NO.	自主研修対象	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者	場所
1	○	6月11日（日）	食べもの文化研究会	「上手に食べる、食べさせる」 「食育で子どもの声は聴こえていますか？」	食べもの文化研究会 食と健康を考えるシンポジウム実行委員会	浅草橋ヒューリックホール＆カンファレンス
2	×	6月14日（水）	ひろばリーダー研修		区・こども若者部子ども家庭課	砧区民会館
3	×	9月8日（金）	ひろばリーダー研修	事例検討等	区・こども若者部子ども家庭課	
4	×	12月15日（金）	ひろばリーダー研修		区・こども若者部子ども家庭課	
5	×	6月1日（木）～7月31日（月）	区キャリアアップ研修	保護者支援・子育て支援	区・こども若者部保育課	eラーニング
6	×	9月6日（水）	区キャリアアップ研修	保護者支援・子育て支援	区・こども若者部保育課	教育センターたいよう
7	○	7月22日（土）、23日（日）	第61回全国研究集会	いのちはぐくみいのちかがやき 保幼少のつながりとゆたかな「学び」	全国幼児教育研究協議会	江東区総合区民センター
8	○	7月22日（土）、23日（日）	第61回全国研究集会	いのちはぐくみいのちかがやき 保幼少のつながりとゆたかな「学び」	全国幼児教育研究協議会	江東区総合区民センター
9	○	7月22日（土）23日（日）	第40回夏期東京保育セミナー2023	わらべうた	NPO法人コダギー芸術研究所	東京外語専門学校
10	×	5月23日（火）	区キャリアアップ研修	幼児教育研修	区・こども若者部保育課	zoom開催
11	×	6月27日（火）	区キャリアアップ研修	幼児教育研修	区・こども若者部保育課	zoom開催
12	×	7月28日（金）	区キャリアアップ研修	幼児教育研修	区・こども若者部保育課	zoom開催
13	×	9月1日（金）	区キャリアアップ研修	幼児教育研修	区・こども若者部保育課	zoom開催
14	×	10月13日（金）	区キャリアアップ研修	幼児教育研修	区・こども若者部保育課	三茶しゃれなあどホールオリオン
15	×	6月1日（木）～7月31日（月）	区キャリアアップ研修	障害児保育研修	区・こども若者部保育課	eラーニング
16	×	9月26日（火）	区キャリアアップ研修	障害児保育研修	区・こども若者部保育課	三茶しゃれなあどホールオリオン
17	×	6月1日（木）～7月31日（月）	区キャリアアップ研修	乳児保育研修	区・こども若者部保育課	eラーニング
18	×	8月31日（木）	区キャリアアップ研修	乳児保育研修	区・こども若者部保育課	三茶しゃれなあどホールオリオン
19	×	6月14日（水）	東京経営懇談会キャリアアップ研修	乳児保育研究会	東京経営懇談会	zoom
20	×	7月12日（水）	東京経営懇談会キャリアアップ研修	乳児保育研究会	東京経営懇談会	zoom
21	×	9月6日（水）	東京経営懇談会キャリアアップ研修	乳児保育研究会	東京経営懇談会	zoom
22	×	10月11日（水）	東京経営懇談会キャリアアップ研修	乳児保育研究会	東京経営懇談会	zoom
23	×	11月8日（水）	東京経営懇談会キャリアアップ研修	乳児保育研究会	東京経営懇談会	zoom
24	×	5月31日（水）	東京経営懇談会キャリアアップ研修	幼児保育研究会	東京経営懇談会	zoom
25	×	6月28日（水）	東京経営懇談会キャリアアップ研修	幼児保育研究会	東京経営懇談会	zoom
26	×	7月26日（水）	東京経営懇談会キャリアアップ研修	幼児保育研究会	東京経営懇談会	zoom
27	×	9月27日（水）	東京経営懇談会キャリアアップ研修	幼児保育研究会	東京経営懇談会	zoom
28	×	10月18日（水）	東京経営懇談会キャリアアップ研修	幼児保育研究会	東京経営懇談会	zoom
29	×	6月20日（火）	東京経営懇談会キャリアアップ研修	障がい児保育研究会	東京経営懇談会	zoom
30	×	7月25日（火）	東京経営懇談会キャリアアップ研修	障がい児保育研究会	東京経営懇談会	zoom
31	×	9月19日（火）	東京経営懇談会キャリアアップ研修	障がい児保育研究会	東京経営懇談会	zoom
32	×	10月17日（火）	東京経営懇談会キャリアアップ研修	障がい児保育研究会	東京経営懇談会	zoom
33	×	11月21日（火）	東京経営懇談会キャリアアップ研修	障がい児保育研究会	東京経営懇談会	zoom
34	○	8月8日（火）～10日（木）	東北民教健		東北民教健	浅虫さくら観光ホテル
35	○	8月8日（火）～10日（木）	東北民教健		東北民教健	浅虫さくら観光ホテル
36	○	8月8日（火）～10日（木）	東北民教健		東北民教健	浅虫さくら観光ホテル
37	○	7月29日（土）～31日（月）	全国保育団体合同研究集会		第55回全国保育団体合同研究集会実行委員会	郡山ユラックス熱海 他
38	○	7月29日（土）～31日（月）	全国保育団体合同研究集会		第55回全国保育団体合同研究集会実行委員会	郡山ユラックス熱海 他
39	○	7月29日（土）～31日（月）	全国保育団体合同研究集会		第55回全国保育団体合同研究集会実行委員会	郡山ユラックス熱海 他
40	○	7月29日（土）～31日（月）	全国保育団体合同研究集会		第55回全国保育団体合同研究集会実行委員会	郡山ユラックス熱海 他
41	○	7月29日（土）～31日（月）	全国保育団体合同研究集会		第55回全国保育団体合同研究集会実行委員会	zoom
42	○	7月29日（土）～32日（月）	全国保育団体合同研究集会	012歳児の遊びと生活	第55回全国保育団体合同研究集会実行委員会	郡山ユラックス熱海 他
43	○	7月29日（土）～32日（月）	全国保育団体合同研究集会	乳児期の生活	第55回全国保育団体合同研究集会実行委員会	郡山ユラックス熱海 他
44	×	6月22日（木）～23日（金）	谷原保育園事前施設間交流実習		多摩福祉会	
45	○	8月11日（金） 17日（木）、18日（金）	荒馬座	荒馬踊りの笛	荒馬座	荒馬座民族芸能センター
46	○	8月17日（木）、18日（金）	荒馬座	荒馬踊りの笛	荒馬座	荒馬座民族芸能センター
47	○	8月17日（木）、18日（金）	荒馬座	荒馬踊り	荒馬座	荒馬座民族芸能センター
48	×		世田谷区保育課研修	食品衛生管理研修	世田谷区保育課	動画視聴
49	×		世田谷区保育課研修	保健衛生管理講習会	世田谷区保育課	動画視聴
50	○	9月14日（木）	学校法人はなのわ学園はなのわ幼稚園公開保育研修		学校法人はなのわ学園はなのわ幼稚園	はなのわ幼稚園

正職員						
NO.	自主研修対象	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者	場所
51	×	9月9日（土）	谷原保育園事前施設間交流実習		多摩福祉会	向山保育園
52	×	9月9日（土）	谷原保育園事前施設間交流実習		多摩福祉会	石神井公園・向山保育園
53	○	10月22日（日）	荒馬座	篠笛一日体験教室	荒馬座	荒馬座民族芸能センター
54	○	11月12日（日）	第35回食と健康を考えるシンポジウム	乳幼児の命を守る	食べもの文化研究所	zoom参加
55	×	11月16（木）17日（金）	第19回経営懇主任セミナー	みんなで育ちあいたい	全国民間保育園経営研究懇話会 第19回主任セミナー実行委員会	
56	×	11月16（木）17日（金）	第19回経営懇主任セミナー	みんなで育ちあいたい	全国民間保育園経営研究懇話会 第19回主任セミナー実行委員会	
57	×	11月16（木）17日（金）	第19回経営懇主任セミナー	みんなで育ちあいたい	全国民間保育園経営研究懇話会 第19回主任セミナー実行委員会	
58	○	11月16（木）17日（金）	第19回経営懇主任セミナー	みんなで育ちあいたい	全国民間保育園経営研究懇話会 第19回主任セミナー実行委員会	
59	○	11月19日（日）	全国幼児教育研究協議会情報学習会	「めざすはすべての子どもが享受すべき権利としての保育」	全国幼児教育研究協議会	東大島文化センター
60	○	11月19日（日）	秋の研修会		東京保育士会	国立オリンピック記念青少年総合センター
61	○	11月19日（日）	秋の研修会		東京保育士会	国立オリンピック記念青少年総合センター
62	○	11月19日（日）	秋の研修会		東京保育士会	国立オリンピック記念青少年総合センター
63	○	11月19日（日）	秋の研修会		東京保育士会	国立オリンピック記念青少年総合センター
64	×	12月10日（日）11日（月）	東京経営懇宿泊研修		東京経営懇事務局	マホロバマインズ三浦
65	×	12月10日（日）11日（月）	東京経営懇宿泊研修		東京経営懇事務局	マホロバマインズ三浦
66	○	12月10日（日）	全国幼児教育研究協議会実技講座	身体を使って遊ぼう	全国幼児教育研究協議会	フラット永福
67	×	12月7日（木）～8日（金）	全国福祉経営研究交流会		全国福祉経営研究会	ワークピア横浜
68	×	12月7日（木）～8日（金）	全国福祉経営研究交流会		全国福祉経営研究会	ワークピア横浜
69	×	11月24日（金）25日（土）	しろくま保育園開園前研修	宿泊研修	多摩福祉会	タカオネ
70	○	1月28日（日）	冬の研修会「気にしすぎずにたのしいほうへー旅する 保育者の物語ー」		全国幼児教育研究協議会	こぐま保育園
71	○	1月28日（日）	冬の研修会「気にしすぎずにたのしいほうへー旅する 保育者の物語ー」		全国幼児教育研究協議会	こぐま保育園

## 2023年度 上北沢こぐま保育園

## 参加研修一覧

園全体の研修他					
NO.	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者	場所
1	2023年2月25日（土）	2023年度新入職員研修		法人研修委員会新人研修部会	上北沢こぐま保育園
2	2023年3月24日（金）	有期職員会議	法人で大切にしていること 個人情報保護、人権保護、不適切な保育について	さくら	ももの木のおうち
3	2023年3月25日（土）	職員会議内 職員全員研修	事業計画 全体的な計画 保健研修（衛生管理、下痢・嘔吐処理の仕方） 保育の質のガイドライン 法人で大切にしていること 個人情報保護、人権保護、不適切な保育について	さくら	ホール
4	2023年4月1日（土）	職員会議内 職員全員研修	事業計画 BCPについて 安全計画について（園庭の使い方、午睡観察、散歩の行き方と散歩先での注意点） 保健マニュアル学習（怪我、受診時の対応について、緊急搬送対応について）	さくら	ホール
5	2023年5月27日（土）	職員会議内 職員全員研修	環境設定について（園内での過ごし方） 50年誌学習P59～P75（遊びの内容。生活再現遊び、伝承遊び）	さくら	zoom
6	2023年6月22日（木） ～23日（金）	施設間実習		谷原保育園準備委員会	砧保育園
7	2023年6月9日（土）	中堅層研修		法人中堅層研修部会	砧保育園
8	2023年6月24日（土）	職員会議内 職員全員研修	救命救急講習	さくら	ホール
9	2023年6月26日（月）	職員全員研修	プールの安全管理について ドル平	さくら（責任者）	2階テラス
10	2023年6月30日（金）	新人交流会		法人リクルート委員会	上北沢こぐま保育園
11	2023年7月8日（土）	職員全員研修	水遊びについて考える（保育ウェブを使って）	さくら	りんご
12	8月26日（土）	職員全員研修	引き取り訓練について 水害訓練について	さくら	
13	9月16日（土）	職員全員研修	5歳児の姿を共有しよう 小児性愛障害について	さくら	
14	10月28日（土）	職員全員研修	50年誌学習（食） 嘔吐処理実技	さくら	ホール
15	11月18日（土）	第9回法人合研		法人研修部会	
16	11月22日（金）	職員全員研修	子どもだれでも通園制度について 虐待について		りんご前
17	11月27日（月）	新人研修予定だったが未経験者を対象にした研修	広域避難経路確認研修	さくら	明大グラウンドまでの路上
18	11月28日（火）	痙攣について	無熱性痙攣について 痙攣時の対応について	もも	ホール
19	12月16日（土）	職員全員研修	憲法と私たちの保育の仕事について	さくら	ホール
20	1月6日（土）	職員全員研修	主任セミナー報告から ・保育制度について ・性教育について ・他園見学に学ぶ環境構成、職場の人間	さくら	ホール
21	2月17日（土）	職員全員研修	午睡時の呼吸等の観察について	さくら	ホール





## 2023 年度 しろくま保育園事業報告

### 1. 新設園開設準備会議

- (1) 準備委員会 (2022 年 2 月～2023 年 9 月・全 27 回)
- (2) 異動者会議 (2023 年 4 月～2024 年 1 月・全 31 回)
- (3) 建設総合定例会議 (2023 年 7 月～2024 年 1 月・全 7 回)
- (4) 建設定例会議 (2023 年 7 月～2024 年 2 月・全 30 回)
- (5) 交流検討会議 (2023 年 4 月～2023 年 12 月・全 8 回)

### 2. 開園時職員配置計画と配置人数

- (1) 職員体制 27 名

職種	園長	副園長	事務長	看護師	保育士	栄養士	調理師	合計
計画	1 名	2 名	1 名	1 名	18 名	3 名	1 名	27 名
配置	1 名	2 名	1 名	1 名	16 名	4 名	0 名	25 名

- (2) 異動

拠点	異動予定人数	異動人数
こぐま保育園	1～2 名	2 名
向山保育園	6～7 名	5 名
砧保育園	2～3 名	2 名
上北沢こぐま保育園	2～3 名	3 名
学童	1～2 名	0 名
合計	12～14 名程度	12 名

### 3. 新設園職員採用計画と採用数

職種	採用予定人数	採用人数
保育士	9～11 名程度	8 名
栄養士	1 名	3 名 (内 1 名は 12 月向山配属)
調理師	1 名	0 名
看護師	1 名	1 名 (1 月向山配属)
事務員	0 名	1 名
合計	12～14 名程度	13 名

#### 4. 研修

(1) 各拠点実習 5月～8月

異動職員が各拠点で実習し、それぞれの保育の特徴や実践を学びました。

(2) 開園前研修 9月～2月

異動職員、中途採用職員、新卒採用職員が新設園運営方針や保育方針を共有し、配置予定クラスや給食の業務内容をイメージできる開設前研修を複数回行いました。講師を招致して、異年齢保育、保育事故防止、ドル平泳法（水泳）、遊具、わらべうた、応急救護を学習しました。

月	研修内容
9月	石神井公園探索、保育実践交流
10月	保育園給食・食具・離乳食 向山保育園見学 異年齢保育
11月	宿泊研修
12月	保育事故防止、産休明け保育、子どもの人権 ドル平（座学・実技）、保護者支援、保健（SIDS）
1月	個人情報の取り扱い、保護者対応（発熱・怪我） 連絡帳の書き方・表現、上北沢こぐま保育園見学 遊具、散歩地図づくり（コース、避難経路、ヒヤリハット） わらべうた
3月	応急救護（心肺蘇生、異物除去、AED）

(3) 宿泊研修 11月

異動職員、採用職員とが長い時間をともに過ごす中で親睦を深め、新設園開園に向けて士気が高まりました。垣内理事による法人 50 年の歩みのお話を聴き、浦辺先生が大切にしてきた子どもへの愛と信念が今の私たちの保育実践にもつながっていることを実感しました。

#### 5. 施設整備

宅地開発工事の手続きに時間がかかり、6月に予定していたしろくま保育園建設工事の着工は7月に入ってからとなりました。土地提供者様への工事説明や住民説明会を開催し、十分に理解していただけるよう努めました。また、建設地の向かい側のマンション管理組合様（ダイアパレス石神井公園フォレストマンション管理組合）とは練馬区を介してマンションのフェンスを保育園側から使用させていただきたい旨を伝え、覚書をもって確認していただきました。

7月に地鎮祭を行い安全を祈願しました。酷暑の夏に基礎工事がぶつかり、日々大変な中工事を進めていただきました。9月に計画していた上棟式は11月に実施となりました。法人内の向山保育園、上北沢こぐま保育園の年長児が参加してくれて、谷原地域の子どもたちや住民の皆さんのための保育園を作っていることを紹介しました。

工事開始の遅れから酷暑による遅れが重なり、2週間ほどの遅れが後半期になっても取り返すことができずにいました。練馬区、守谷商会(施工者)、象地域設計(監理者)、法人の4者が建設総合定例会議等で検討し、練馬区が工期短縮に係る費用を補助金として負担してくださることになりました。補助金を使用して職人さんを増員することができ、手を付けられる箇所から進めていったことで、2月末の練馬区事前検査、3月4日の東京都の検査を無事に受けることができました。いくつかの工事未済を3月中に仕上げ、無事にしろくま保育園の建設を終えることができました。

## 6. 区立谷原保育園園児、保護者との関係づくり、交流保育検討

谷原保育園から転園してくる子ども、保護者が抱く不安に対して、法人としてできる限りの対応を行ってきました。2022年11月1回、12月1回、2023年7月3回、8月1回、12月2回個別説明会や集団説明会を行いました。谷原保育園の先生方への信頼感、練馬区への思い、多摩福祉会への不安や要望、期待の声を聴くことができました。また私たちは転園する家庭や検討している家庭と関わる機会を積極的に設けるため、法人内保育園見学会(6月～11月・全14回)、しろくまひろば(交流会)を9月～12月に月1回開催しました。多数の家庭にご参加いただき、しろくま保育園の保育や職員のことを知っていただくことができました。

2023年9月に園長予定者、副園長予定者が谷原保育園の保育に入らせていただき、子どもや保育の様子を学ばせていただきました。その後、保護者からの要望をいただき、2024年1月から3月までの間、週1日～3日程度担任予定者を中心に谷原保育園の保育に参加させていただきました。子どもや保護者との関係づくりを進めることができました。保育参加のまとめや話し合いのためにしろくま保育園近隣に1月～2月の間、事務所を借り、頻繁に打ち合わせを行うことができました。

2024年度から行う谷原保育園との交流保育について、練馬区、谷原保育園、法人の3者で月に1～2回検討会議を行ってきました。子どもたちの生活や気持ちの安定を大切にしていくことを確認し、2024年6月以降に自然な交流から始めていきま

す。谷原保育園とともに、この地域の保育や子育てを支援していけたらと思っています。

## 7. 入園希望者への対応

- ・法人内保育園見学会（6月～11月・全14回）
- ・建設地見学会
- ・しろくまひろば
- ・ホームページで建設状況や保育で大切にしていくこと、持ち物等の発信

## 8. 開園に向けて

- ・新入園児面談、健康診断

2月に1次内定児童が決定し、谷原保育園から転園する家庭、新たに入園する家庭の面談、健康診断を行いました。園舎がまだ利用できない時期だったため、練馬区にご協力いただき区施設と向山保育園を活用して実施しました。

3月に2次内定児童、1歳児1年保育内定児童の面談、健康診断をしろくま保育園園舎で行いました。

- ・お披露目会、あそぼう会（保護者説明会）

3月20日午前に入園家庭を招待し園舎のお披露目会を行いました。4月から過ごす場所に少しでも慣れてもらえたらと思い、遊ぶ時間や園舎案内ツアーを行いました。また職員紹介や重要事項説明を行い、しろくま保育園を知っていただくことができました。

3月20日午後にはしろくま保育園建設や法人に携わってくださっている関係者を招待して、新園舎のお披露目会を行いました。練馬に多摩福祉会が新たな保育園を始めることに期待の言葉をいただきました。

- ・プレ保育

3月24日に4月からの保育に備えてプレ保育を実施しました。招待した子どもがあそぶ姿を通して職員の立ち位置やヒヤリハット箇所等を検討することができました。

## 2023 年度 永山小学童クラブ事業報告

### 1. 児童状況

- (1) 定員：70 名
- (2) 育成年齢：6 歳～12 歳（小学校 1 年生～6 年生）
- (3) 育成時間：学校下校時～19：00、学校休業時 8：00～19：00
- (4) 学年別状況：(2023 年 4 月 1 日現在)

学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	合計
人数	25 名	18 名	25 名	1 名	0 名	1 名	70 名

### 2. 職員状況

- (1) 正職員（2023 年 4 月 1 日現在）

職種	施設長	放課後児童支援員	合計
人数	1 名	3 名	4 名

- (2) 正職員状況

\* 1 名 4 月 24 日から育休から復帰

- (3) 有期契約職員

勤務時間	4 h × 週 4 日	4.5 h × 週 5 日	5.5 h × 週 3 日	5 h × 週 5 日	6 h × 週 5 日	不定期 (学生)	計
人数	3 名	1 名	1 名	1 名	1 名	5 名	12 名

- (4) 有期契約職員状況

\* 無期転換職員 4 名

- (5) \* 事務職員（4 h × 週 2 日） 3 学童クラブ分の事務処理担当（賃金は案分）

- (6) 資格取得状況

保有資格	放課後児童支援員	保育士	教員免許
人数	11 名	5 名	7 名 (中・高 3、養護 1、幼 3)

### 3. 2023 年度に取り組んだこと

#### (1) グループ担当制

育休職員の復帰もあり、3 グループがそれぞれ常勤職員が中心となりグループの運営にあたった。月ごとに行う職員会議の日には全職員が揃うので隙間の時間を使ってグループミーティングができることもあったが、それ以外の日のグループミーティングとして毎月確実に行うのは、体制的に難しかった。揃わない中記録による引継ぎなどで周知するようグループごとに工夫した。帰りの会やおやつの進行、班の席替えなどはグループごとに時期に応じて子どもたちとやり取りしながら作ることが、定着していて子どもたちの方から「そろそろ席替えしたほうがいいのでは」と提案してくることもあった。各グループの報告は最後に掲載している。

#### (2) 子どもの権利や人権

##### 〈子ども会議〉

前年度流行った「鬼滅の刃」の剣作りが再流行し、遊び方でトラブルが増えてきたため子どもたちで話し合いをしてルールを決めた。会議を始める前に自分たちで記録する子や進行する子、調整役に回る子など自発的に役割を決めて話し合った。紆余曲折はあったが、大人からの押し付けではなく自分たちで考えて決めた遊びのルールとして、子ども同士で折り合いをつけながら遊ぶことへの1歩となった。

##### 〈性教育〉

6月に父母会と共催で助産師さんを講師に招き「親子で話そう、カラダとココロのたいせつなおはなし」を開催した。22年度は施設で「いいタッチ、わるいタッチ」などの絵本の読み聞かせをしたが、専門家の話しを子どもだけでなく職員も保護者も一緒に学ぶことが大事ではないかと、模索していたなかで父母会の協力、賛同を得て実現できた。参加した保護者からも好評で次年度も実施してほしいとの声が複数あった。

##### 〈不適切保育等についての周知と対応〉

配慮が必要な児童の対応や不適切行動への対処にあたり、職員会議や打ち合わせで、何度も検討したり巡回相談でも対応についてのアドバイスをもらった。安全と人権をどこまで両立するかなど、その時々難しい判断が求められることもある。職員一人で抱え込まないように、施設全体で事例共有と確認をすることで、すべての職員が以前よりも「こどもの人権」を意識しながら対応していくことが定着してきているが、まだまだ個別の事案では課題もあり、引き続き施設全体のこととして検討していきたい。

#### (3) アレルギー対応と食育

小麦、卵、乳、大豆のアレルゲンを全除去対応で23年度も実施した。生協などで

新しい素材も増え、その都度保護者と確認しながらバリエーションを増やしてきた。子どもたちとのクッキングとしては、夏休みにキビ麺を使って、こぐま保育園のレシピでジャージャー麺を作った。子どもたちから希望者を募って、いっしょにクッキングをした。キビ麺は大量にゆでた場合麺の処理が難しく時間がかかったりしたが、おかわりも多く好評だった。食材によっては扱いが難しいものもあり、いつも手作りというわけにはいかないが、これも経験として次に生かしていきたい。完全除去の食材では、どうしても値段の割には量が少なくなり、2月3月になると皆体格も大きくなり、メニューによっては量的に満たされない様子が見られるときもあり、手作りなど取り入れて量的にも満足できるように工夫していきたい。

プランター栽培の活用では、きゅうりや大葉味噌など夏休みの昼食時に提供して好評だった。ペットボトルの大根は味噌汁で提供した。

#### (4) 永山学童クラブとの協力

永山学童クラブの職員体制のフォローは、法人学童クラブ4施設でというより、永山エリアで解決すると経営会議で方向が決まったことを受け、土曜日の育成を合同で行うことにした。永山学童クラブの平日の職員体制の確保については、一定の効果があつたと思われる。また、利用者が少ない土曜日に遊び相手が増えたことで、子ども同士の遊びが展開しやすかったことや、有期職員同士の交流ができ育成に良い刺激を得ることができたことも副産物としてあつた。

## 4. 保護者との連携

### 〈保護者会〉

コロナが5類になったのを受け、保護者会は基本対面とした。春は40世帯、夏、秋は20数世帯の参加だった。3年生保護者会は25世帯中15世帯の参加だった。時期や内容によってはzoom併用も参加率を上げるのではないかなと思われるので、今後は対面とリモートの併用で実施していきたい。

### 〈個人面談〉

春は、1年生と2年以上の希望者、秋は2年生以上と1年生の希望者で行った。春は50世帯、秋は55世帯の参加だった。学童クラブの様子や家庭での様子をお互いに共有したり、個別の相談もあり家庭と学童クラブでの共通認識が図れた。

### 〈父母会〉

前述の親子学習会（助産師さんによる親子で学ぶ性教育）は、年度が替わってすぐ



の行事であったが、保護者の方々も協力的で参加率も高かった。秋の親子交流会は、インフルエンザの流行で学校行事の運動会が延期開催となり、日程変更もできず残念ながら、予定通りの親子交流にはならず、制作活動だけ冬休みに実施した。

## 5. 行事

前述の親子交流会以外は、予定通り実施できたが、防災クッキングは、日程的に厳しくなり実施できなかった。その他は、別紙月ごとの様子参照。

## 6. 環境

- ・ 上着や、週末の学校の荷物がロッカーに収まりきらないので、コンテナやハンガーラックを準備した。子どもたちにわかりやすいように学年によって使う場所を決めた。
- ・ 体育館履きを各自の靴と同じ場所になるように、靴の棚に突っ張り棒で置けるようにした。以前と比べわかりやすく管理もしやすくなった。
- ・ お迎えとか集団帰宅かなどを子どもたちが登所した時の流れとして、自分のマグネットの名札を帆祝いとボードに貼るようにした。前年度の3月から実施したので継続児も混乱なくスムーズにできた。

## 7. 職員について

- ・ 非常勤職員との意思疎通については、グループミーティングという形はとりにくかったが、日々の仕事前の打ち合わせはもれなく行えた。月案会議でも有期職員の発言が増え育成にも反映できた。
- ・ 外部研修の情報も有期職員にも確実に伝わるよう、掲示だけでなく回覧もして情報共有した。

## 8. 感染症対応

コロナは散発的に罹患する児童や職員がいたが、大きな流行にはならなかった。インフルエンザは、この3年間全くなかったのが、23年度は3回流行した。夏休みと、秋と年末に流行り、複数回罹患した児童や職員がいた。秋は常勤職員や有期職員も多数罹患し、施設の運営にも支障をきたすような状況になったが、閉所はできず、他施設の応援でなんとか凌いだ。

## 9. 地域との連携

- ・ 青少協の行事もコロナが 5 類になったのを受けコロナ前のものが復活し、地域清掃や、地域運動会、どんど焼きなど参加できた。
- ・ こぐま保育園との園児と児童との交流は、事前準備が結果的にできず、今後実現に向けていきたい。

## 10. 研修

別紙参照。

## 11. グループごとの様子

### こぐまグループ

1 年生：8 名 2 年生：5 名 3 年生：8 名 4 年生：1 名 計 22 名

- ・ 5 月からグループ担当の常勤職員が変更になったが、大きな混乱なく過ごせた。宿題でフォローが必要な子が数人いたため、グループ職員で見守りをしてきた。
- ・ 集団登所の人数が多く、並ぶのに時間がかかっていたので、16 時 55 分には外に並ぶようにしてきた。それでも、外に出てから時間がかかることが多かった。また、集団帰りのリーダーがその日のお迎えの子もやっていたため、リーダーとは何をするのか何度か話をし、集団帰りをする子がリーダーをするように変更した。
- ・ 席替えでは、主に 3 年生が配置を考えてきた。自分たちで他学年の子にどのような席が良いのかアンケートを取り、意見を反映させた座席を組んでいた。
- ・ 2 月から来年度は 3 年生が 3 人になるため、1 年生も来年度に向けてリーダーや進行に取り組む。

### パークグループ 2023 年度報告

1 年生：7 名 2 年生：7 名 3 年生：12 名 4 年生：1 名 6 年生：1 名 計 28 名

- ・ 1 つのテーブルにつき最大で 6 名の座席間隔にする。
- ・ 帰りの会でグループオリジナルの「時間当てゲーム」が流行る。進行係が 10～30 秒内の時間を決めて、ストップウォッチで測り、ぴったりの子を伝えるというゲームをほぼ毎日行う。その際に、職員が当たっている子の特徴（服装やランドセル、名前の字数等）を伝え、答え合わせをした。
- ・ グループの進行は主に 2・3 年生が担当。降所のリーダーは 3 年生が担当。

- ・席替えでは、主に3年生が配置を考えられるように提案する。その際に、子ども達同士で「○○と○○は一緒になると騒がしくなる」等考えつつ、座席を考えた当人たちが快適になるように考えていた。※席替えは、3回実施。
- ・集団降所の人数が多かった。1グループでの降所をしていたが、出発が遅くなることや人数が多くリーダーの負担が大きいこと等があったため、「パークA・パークB」の2班に分ける。A・Bについては、分散させることが目的だったため、特に誰がとは固定していない。偏りすぎないようなメンバー編成になるようにと3年生達に伝える。また、きょうだい関係は離れてしまうと家に入れないといったことが発生してしまうため、同じ班になるような並び順にしてほしい旨を伝え、守ってくれていた。
- ・降所時にマンション内でトラブルがいくつかあったと保護者からの報告があった。マンション内に職員は立ち入らない為、帰りの会でグループ内に話をする機会が何回かあった。
- ・門を出てすぐにマンションになるため、走って行ってしまう子がいた。
- ・2月ごろから1年生が進行を2年生はリーダーを担当するようになる。

#### **永1・さくら・永2グループ**

1年生：9名 2年生：4名 3年生：6名 4年生：1名 計21名

- ・帰りの会やおやつの集合時の子どもの進行係を2名にし、その時間の過ごし方をていねいに子どもたちとやりとりしながら目的や理由を確認していった。昨年度は、進行役が前に立っても静かにできないこともあったのが、誰が進行役になってもその人に注目し、静かに聞けるようになった。特に帰りの会は、集団降所の前のクールダウンの目的もあるが、担当の大人が休みでも子どもたちだけで落ち着いた帰りの会が実施できた。

2023年度 月ごとの様子

	あそびや育成の概要	行事	特記事項
4月	<p>春休みの前半は、室内遊びと玄関前での遊びを中心に過ごす。また、第一公園にも行き、鬼ごっこやブランコ、段ボールを使って滑る滑り台で遊んだ。公園に行き、おやつを食べた後は、2年生以上は校庭へ、1年生は室内でゆっくりと過ごした。室内遊びでは盤ゲームやカードゲーム、紙や段ボール工作で上級生の子たちが1年生に優しくおもちゃの遊び方を教えたり、1年生がやりたいことを聞き、一緒に遊んでいる姿がたのしくもほほえましい。</p> <p>また「鬼滅の刃」の刀作りが再び流行り始め、遊び方でトラブルになることもあったが、子どもどうして遊びのルールを決め、楽しく安全に遊べる工夫をしていた。</p>	<p><b>12日（水）新入所歓迎会</b> 3年生たちが春休みの間に話し合いを行い、プレゼント作りや、ゲームを考えた。</p> <p><b>17日（月）～コマ作り</b> 新しいコマを作成する。</p> <p><b>28日（金）保護者会</b> 対面形式で実施。64世帯中40世帯参加。</p>	
5月	<p>晴れの日が比較的多く、外遊びをすることが出来た。ドッジボール・野球・砂場が多かった。永山小学童クラブの外遊びの主流だったサッカーは、以前よりも規模が小さくなり、今まで遠慮していた子たちが主になって遊んでいる。</p> <p>4月からの流れで刀づくりが流行るが、みんなで決めたルールが定着せず、トラブルが増える。子ども会議を開催し、こどもたちで改めてルールの見直しをし、会議に参加していない子たちにも共有してもらうため帰りの会で発表し、掲示もした。</p> <p>テラス・プランター係の活動を開始する。4名の児童と苗の買い出しと植え付けをする。（きゅうり・トマト・バジル・花）</p>	<p><b>5/10（水）引き渡し訓練</b></p> <p><b>5/24（水）お留守番教室</b> 「たまおくんのお帰りの道」の紙芝居を使用してグループ毎に話をする。</p> <p><b>5/31（水）刀作り教室</b> 4年生男子発案の「鬼滅の刃」の刀の基本的な作り方講座を実施する。</p>	
6月	<p>雨の日が多く、永山小学校の体育館を借りて遊んだ。ドッジボールをしたり、ボール遊びをして遊ぶ。普段からドッジボールをしているためか、ボールを投げる速さが速くなっているように感じる。</p> <p>以前より、折り紙の使い方や紙の使い方が雑だったり、折り紙を切ったら切りっぱなしになってしまっていること等があったため、子どもたちに再度使い方について考えてもらうように声掛けをした。</p> <p>火曜日と木曜日が3年生が6時間で登所が遅いのでおやつをレストラン方式にする。</p>	<p><b>安全マップ作り 5日～</b> 降所路の安全マップ作り</p> <p><b>避難訓練 13日</b> 地震発生時の避難訓練を行う。</p> <p><b>永山・永山小学童クラブ父母会共催親子学習会 17日</b></p> <p><b>歯磨き教室 21日</b> 1年生：第一大臼歯について 2年以上：かみ合わせ。</p> <p><b>ポンドシール工作 26日～</b></p>	
7月	<p>7月になってから、気温が高い日が非常に多く、雨が降らない日が多かった。熱中症指数が危険を示す事もあり終日室内で過ごすこともあった。その為、DVDを流したり、雨の日や土曜日に出しているカプラやプラレールをして遊んだ。また、熱中症指数計を持って校庭の外周の木陰で実際の指数を計測をして虫取りなら可能というように遊びを限定して過ごした。中には、虫取りはしないけど、外の空気を吸いたいということで、散歩をしに校庭へ行く子もいた。何度か光化学スモッグも発生した。</p> <p>月末になるにつれて体調不良で欠席する子が増えてきた。登所している子の中にも咳をしている子が複数人見られた。</p>	<p><b>七夕工作（～7/6）</b></p> <p><b>夏の保護者会（7/10）</b> 夏休みについて説明。弁当のデリバリーサービスの案内もする。</p> <p><b>永山合同ドッジボール大会（7/14）</b> 永山学童クラブ、永山小学童クラブ合わせて4チームで総当たり戦。</p> <p><b>クッキング・映画会（7/20）</b> ぶんぶんおにぎりを自分たちで作った。</p>	
8月	<p>引き続き体調不良の子が多い。中旬ごろからインフルエンザも流行し7名の罹患があった。育成中に発熱でお迎えを要請することも数件あった。猛暑が続く室内で過ごすことが多かった。バスボムづくりやアイロンビーズやビーズ手芸、空き箱工作など1日育成ならではの工作や手芸などの選択肢を増やした。外遊びも厳重警戒のときは虫取りや固定遊具のみで外遊びをした。後半には、虫捕り大会を実施した。水遊びはペットボトルシャワーでびしょ濡れになって遊ぶ。毎年着替え場所で悩んでいたが、図書室を男女で時間差をつけて着替えスペースとし大きな混乱なくできた。食休みの時間を持て余す子が増え、時間が長すぎるのではないかと意見があり、14時までから13時半に中旬ごろに短縮した。DVDの時間帯にできる遊びも増やした。</p>	<p><b>8/1(火)～4(金) 水遊び</b> ペットボトルでシャワーを作る。</p> <p><b>8/23（水）すいかわり</b> 室内にレジャーシートを敷いて紙製の棒ですいか割りの雰囲気を楽しんだ</p> <p><b>8/31(木)井の日</b> 父母会共催。レトルトをご飯にかけて昼食会。</p>	
9月	<p>1日から給食が始まり、普段通りの登所時間に戻る。青陵中学校の生徒2名が職場体験に3日間来る。</p> <p>9月中も熱中症指数が高い日もあり外遊びの時間に出来る事を制限することもあった。</p> <p>夏休みの間に導入した小さいコースのプラレールが連日人気。レストランおやつが3年生の6時間授業の日に復活したが、先に遊ぶ1年生の遊ぶ場所と後から登所の2.3年生の宿題の場所の確保について検討する。</p>	<p><b>27日 おみせやさん</b> 8月末より3年生会議を実施（おばけやしき・ゲーム屋さん・わたあめ屋さん・スライム屋さん）当日69名の参加。</p> <p><b>25日～ 個人面談開始</b> 2年生・3年生は、全員。その他の学年は希望者。</p>	

	あそびや育成の概要	行事	特記事項
10月	<p>小学校の運動会に向けて練習しているダンスを学童クラブでも時折練習する姿がある。</p> <p>外遊びでは、野球・バスケットボール・サッカー・登り棒等の遊具など体を使って遊んでいる子が多く、室内に残る子がほとんどいないことが多く元気に過ごしていたが、中旬頃から発熱等で体調不良になる子が増えてきた。学校でも発熱やインフルエンザ等が増え、18、19日に1年生が10/24～3年生・4年生が学年閉鎖になった。そのため、運動会も翌週に延期になった。また、職員間でもインフルエンザが流行り職員の半数以上が欠席となり他施設から応援にきてもらう。</p>	<p><b>4日 交通安全教室</b>…交通公園の出前講座。自転車の乗り方や道路の危険箇所での対応について</p> <p><b>5日 3年生保護者会</b> 15世帯参加。お留守番の心配事や失敗談を共有。</p> <p><b>18日 お留守番教室</b> 鍵の持ち方</p> <p><b>27日 映画会</b></p> <p><b>4日～個人面談</b></p>	<p>10/23 学校振休（1日育成）17名登所。 職員もインフルエンザ多数罹患の為他施設からの応援</p>
11月	<p>学校の「ながおんフェス」が近づくにつれ、全体的にテンションが高く落ち着きがない様子が見られた。テラスでは学校ごっこをする子や本を読むのを楽しんでいる子がいた。一方でテラスから出てしまったり、ベンチの上に立つ子、動きが激しくなっていくなどがみられるようになり、使い方について大人がルールを決めるのではなく、どのようにしたら良いのかをテラス委員の子どもと大人で会議をし使い方を検討していく。</p> <p>コマ遊びでは今まで参加していなかった子が参加する姿が見られた。検定合格に向けて練習をしている。</p>	<p><b>14日～ 感謝カード制作</b>家族に「ありがとう」の気持ちを伝えるカード作り。お手伝い券をいれる</p> <p><b>25日 3年生遠足（多摩動物公園）</b> 毎週水曜日に3年生会議を開き遠足に向けて準備をしてきた。25名中24名参加</p>	
12月	<p>中旬から感染症の流行で体調不良による欠席や学級閉鎖などため、20日に予定していた「おたのしみ会」は1月に延期となった。20日は元々予定していたおかしすくいと校庭での全体遊びは練習として行った。26日に予定していた豚汁づくりも中止となった。</p> <p>外遊びでは野球が流行っていた。大人数で試合形式で遊んでいる。サッカーゴール付近まで使用し野球をしているため、サッカーをやりたい子の場所の確保が今後の課題である。</p> <p>サンタプレゼントの新しい遊具が冬休みの人気の遊びとなる。マンカラ、モノポリー、ツイスターゲームなど。</p>	<p><b>5～14 クリスマスキャンドル作り</b></p> <p><b>25日 大掃除</b></p> <p><b>26日 アート制作</b> 親子交流会で予定していたシート作り</p> <p><b>27日 法人4学童サッカー交流会</b></p>	<p>アート集団 「こねるて」の協力</p>
1月	<p>外遊びでは、ティースタンドを使用した野球が流行っている。ただ、校庭を大きく使うのでサッカーをしたい子や鬼ごっこをしたい子たちと場所が重なってしまう。普段は、野球の場所を変更し、共存できるようにした。</p> <p>休みの日に友だちの家での遊ぶ時のマナーや家庭によって違うルールなどについて、本来は各家庭で指導することではあるが、学童クラブでもお互いが気持ちよく過ごせるよう話し合いをした。</p> <p>流行とまではいかないが感染症による体調不良で学校や学童クラブを休む子が年明け多かった。</p>	<p><b>17日 避難訓練</b> 永山学童クラブと合同で校庭遊びの設定で実施。</p> <p><b>24日お楽しみ会</b> 12月に延期となった行事</p> <p><b>1月中 お留守番のおまもり作成</b></p>	
2月	<p>進級お祝い会に向けての準備を始める。出し物の練習や、文集の準備をすすめた。当日の司会進行には、2年生も参加しどの子も前向きに熱心に取り組めた。この1年の日常生活や行事の積み重ねが来ていていると感じる。</p> <p>雪が降った日の翌日に学童クラブでも玄関前で雪遊びを行った。子どもたちは雪だるまやかまくらを作ったりと思い思いに雪に触れ、楽しんでいた。</p>	<p><b>2日 節分</b></p> <p><b>26日 避難訓練</b>(永山学童クラブとの合同避難訓練) 1月に行った時の反省をふまえて校庭で実施。やってみないとわからないこともあり、今回わかった課題を次に生かしていきたい。</p>	
3月	<p>天気の良い日が多く、外遊びに行く機会が多かった。外遊びでは、野球やサッカー、ドッジボールをして遊ぶことが多かった。風が非常に強い日もあり、校庭で遊ぶ際に砂に気を付けるように声掛けをした。</p> <p>室内では、レゴやLaQをして遊ぶことが多かった。春休みに入ると天気が悪い日が多く、カプラを広げて遊んでいた。</p> <p>新年度に向けての準備もあり、全体的にそわそわしている様子があった。</p>	<p><b>6日（水）進級お祝い会</b></p> <p><b>22日（金）昼食会</b> 3年生児童のリクエストで豚汁を提供する。</p>	

## 2023年度 永山小学童クラブ 参加研修一覧

NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア パス 該当	自主研修 対象
1	正職員	中堅層研修	多摩福祉会	砧、向山	年3回	職員集団作りにあたって中堅層の役割		×
2	正職員	中級学担	多摩市児童青少年課	市内学童クラブ	月1回	基礎学担でいざれ講師として話せることを前提に、「1日の流れ」の資料を基に話し合いと見直し		×
3	正職員	中級学担	多摩市児童青少年課	市内学童クラブ	月1回	基礎学担でいざれ講師として話せることを前提に、「保護者対応」の資料を基に話し合いと見直し		×
4	正職員	学担1	多摩市児童青少年課	市役所西会議室	6月20日（火）	防災		×
5	正職員	学担2	多摩市児童青少年課	市役所西会議室	7月5日（水）	応急対応		×
6	正職員	学担3	多摩市児童青少年課	WEB	9月21日（水）	子ども家庭支援センター		×
7	正職員	学担4	多摩市児童青少年課	WEB	11月17日（金）	発達支援室 発達の見立て		×
8	正職員	学担5	多摩市児童青少年課	永山小学童クラブ (zoom)	12月8日	災害時対応		×
9	正職員	課内研修1	多摩市児童青少年課	ベルブ永山ホール	12月1日（金）	マルトリートメント		
10	正職員	課内研修2	多摩市児童青少年課	ベルブ永山ホール	3月5日（火）	アンガーマネジメント		×
11	正職員	学担6	多摩市児童青少年課	WEB	2月2日（金）	OT心と体のリハビリ		×
12	正職員	たま研	たま研委員	各学童クラブ施設	7月5日・12月 13日・2月14日	施設見学を通して他施設を知り、自施設の育成に活かせるようにする。行事と育成の2つの分科会に分かれて行う。		×
13	正職員	課内研修1	多摩市児童青少年課	ベルブ永山ホール	12月8日（金）	マルトリートメント		×
14	正職員	課内研修2	多摩市児童青少年課	ベルブ永山ホール	3月5日（火）	アンガーマネジメント		×
15	正職員	連協全国研 2日目分科会	全国学童保育連絡協議会	桜美林大学淵野辺 キャンパス zoom参加	11月5日（日）	14-② 発達障害のある子どもの理解と支援		○
16	施設長	連協全国研 2日目分科会	全国学童保育連絡協議会	桜美林大学淵野辺 キャンパス zoom参加	11月5日（日）	特設（A） 学童保育の「安全」を考える		○
17	施設長	全国福祉経営研究交流会	社会福祉経営全国会議	ワークピア横浜 zoom併用	12月7日（木）～ 12月8日（金）	テーマ：人を大切にする福祉とは何か 第4分科会：すべての人を大切にするしあわせ		

### 有期職員

NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア パス 該当	自主研修 対象
1	有期契約職員	島田療育センターティーチャートレーニング	島田療育センター 発達支援室（セブンクローバー）	島田療育センター	7/31～8/1	ロールプレイやグループワークで特別なニーズのあるこどもの機能アセスメントや構造化を事例検討を通して学ぶ		○
2	有期契約職員	島田療育センターティーチャートレーニング	島田療育センター 発達支援室（セブンクローバー）	島田療育センター	7/31～8/2	ロールプレイやグループワークで特別なニーズのあるこどもの機能アセスメントや構造化を事例検討を通して学ぶ		○

### 園全体の研修他

NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア パス 該当	対象者
1		法人合研	多摩福祉会					常勤全員 有期職員 希望者
2		島田巡回相談	多摩市・島田療育センター	永山小学童クラブ	10月13日(金)	定員一杯の在籍数と個別に配慮が必要な児童が多い中で、徘徊や他害、不適切行動への支援と環境整備等への対応について		常勤・ 有期職員 全員

## 貝取学童クラブ 2023 年度 事業報告

1. 定員 70 名
2. 育成年齢 6 歳～10 歳（小学 1 年生～4 年生）  
8 月一時入所は 6 年生まで  
特別支援学校、特別支援学級に通う 5, 6 年生は申請可
3. 育成時間 学校下校時～19:00、学校休業日 8:00～19:00

### 4. 児童状況（2023 年 4 月 1 日在籍数）

	計
1 年生	20 名
2 年生	15 名
3 年生	22 名
4 年生	7 名
計	64 名

- ・途中入所児童  
7 月：1 名、 1 月：1 名
- ・途中退所児童  
4 月：1 名、 5 月：2 名、 12 月：1 名
- ・8 月一時入所 3 名

### 5. 職員体制

- ・正職員 4 名  
うち育児短時間取得職員 1 名が 12 月より短時間正職員となる
- ・有期契約職員 7 名  
（途中退職者 1 名、途中採用者 1 名）  
〈おやつ担当〉 4.5 時間×週 4 日：1 名  
〈要配慮児対応〉 4.5 時間×週 4 日：1 名 5.5 時間×土曜日含む週 3 日：1 名  
4 時間×週 4 日：2 名 4 時間×週 3 日及び土曜日担当：1 名  
〈事務員〉 5 時間×週 3 日：1 名

## 6. 2023 年度取り組んだこと

### (1) 職員集団作りと連携について

①2023 年度は、異動初年度の施設長と新人職員を加えた新しいメンバーで運営をおこなってきた。互いに仕事を教え合い分担してきたが、以前から施設運営に携わってきた職員 2 名も子育ての最中であること、職員やその家族が体調を崩したり感染症に罹患したりしたこと等で、常勤職員の残業が多くなってしまった。そのため、年度末に職員間で話し合い、全体で取り組むべき業務と、それぞれの職員が担当して取り組んでいる業務をホワイトボードに記し、手の空いた職員が終わっていない職員の仕事をサポートする取り組みを始めた。

引き続き、今後も残業をしない工夫を講じていくことが課題となる。

②職員全体が児童のことなどを共有する工夫をおこなった。

子どものことや施設管理上のことなどを共有できるように毎日の打ち合わせの時間を取ることや月一回の職員会議をおこなった。また、その日の出来事や子どもや家庭の様子などを書いておくノートを用意した。それを読めば長期に渡って休んでも情報を共有できるようにした。これは総括の際に定休のある有期契約職員からもよかったと評価された。しかし、毎日の職員配置を記録しているファイル、日常の記録のノートからそれぞれ各児童の育成記録に転記することが課題となった。これも全職員で話し合い、打ち合わせ用のノートを一つにまとめ、転記しやすい様式に変え、有期契約職員の中で担当を決めて定期的に転記できるようにした。

2024 年度もさらに工夫を重ね、職員全体が情報を共有し同じ内容で育成や運営に携われるようにしていく。

③施設長による面談を全職員におこない、職員の仕事に対する希望や意見、また、家庭等の状況や悩みなどを聞き取り、どの職員も活き活きと働ける職場作りや新年度の運営を考える機会をもった。また、次年度の事業計画を立てる前に常勤職員間で仕事や育成、行事の取り組みについて振り返りをおこなった。

### (2) グループ育成について

①2つのグループで担当する常勤職員が変わった。1つはベテラン職員から新人職員が担当することもあり、当初、子どもたちは落ち着かない様子をみせていた。グループに以前から関わる有期契約職員が新入職員とともに丁寧に子どもたちと接する中で、子どもたちは徐々に落ち着きをみせていた。また、以前から施設運営に携わっていた常勤職員が、しばしばそれらのグループのサポートに入りグループを越えて子どもたちの育成に関わったこともよかったのではないかと考えられる。一方、他のグループや全体をみることにより自分のグループの子ど



もたちを有期契約職員に任せることが多く、例年に比べてひとりひとりを丁寧に見ることが難しかった。2024 年度は、施設長を含めてグループ育成における連携を考えていく。

②グループ内での子どもの関係について考慮することがあった。

小学校が単学級、学童クラブのグループや住んでいる地域でも一緒という関係の中でトラブルが続いていた。遊びや考え方の違いを受け入れることが互いに出来ないにもかかわらず、異学年や他学校の子がいる学童クラブの環境下でも 3、4 人という狭い人間関係の中でしか友だち関係を持てないと思い込み、日々トラブルがあっても特定の仲間から離れることができずにいた。トラブルのあるたびに職員が間に入って話し合うことを繰り返していた。そこで、グループによって学年や男女のバランスが悪かったこともあり、本児たちとその保護者にも相談しながら、特性に合わせてグループ替えをおこなった。初めは、グループが変わることで友だちとの関係が壊れて遊べなくなるのではと泣くこともあった。次第にグループに関係なく遊べることを理解し、また、グループ内で下級生と遊ぶようになるなど友だちの幅も広がった。

環境を変えてそれぞれが新しい友だちを作り始めたが、まだ友だちとのコミュニケーションに課題があるので引き続き見守り支援していく必要がある。

(3) 育成全体について

①卒クラブ後の子どもたちの居場所を考えた取り組みをおこなった。

貝取学童クラブに通う子どもたちは、在籍中に地区の公園を利用して友だち同士で遊ぶ機会が少ないまま卒クラブすること多い。また、おとなに見守られながら安心して過ごせる児童館から遠い地区に住んでいる子が多く、近隣に自由に遊べる公園も少なく、卒クラブ後の居場所がわからないでいる状況だった。また、施設の側にある子ども食堂に大勢の地域の子どもたちが集まり、道路上の駐輪や団地や路上で走り回る姿、ゴミのポイ捨て等の問題が見られた。

この状況を児童館や小学校と共有し、児童館と共催して「のびのびドッチボール大会」を貝取学童クラブの庭で行う企画をたてた。この企画を通じて子どもたちに卒クラブした後も児童館とつながり地域に頼れる場所があることを伝えた。

当日は、同じ中学校区にある、貝取小学童クラブと貝取小放課後子ども教室にも参加を呼びかけ、貝取学童クラブの 2 チームを含めて計 6 チーム 72 名で熱戦を繰り広げた。

これを機会に卒クラブ生と在籍児童とのつながりや他校生との交流、児童館利用の子どもたちが増えるきっかけができた。2024 年度においてもこのような企画を児童館と共催していかれるように働きかけている。

また、2023 年度は地域の公園に遊びに行くことも考えていたが、育成時間や職員体制の関係でなかなか出かけられなかった。次年度は、貝取学童クラブで出来ないサッカーをはじめ遊びの充実を図り、子どもたちが卒クラブ後に過ごせる場所を確認できるよう、近隣の公園の利用も考えたい。

②「心と体の講座」をおこなった。

子どもたちの関係において、互いの体や職員の体を触ったり 3 年女子が下着を見せ合ったりすることが起こりその度に注意をしたが繰り返された。そのため職員間で検討し、『境界と同意』についての講座をおこなうことにした。自分の体の大切なところは他人の体も同様に同意のないまま勝手に見せたり触ったりしてはいけないことと、同意があってもそれを見ている人が不快に思うこともあることについて学年別に講座をおこなった。1 年生には、「同意についての絵本」と「自分の体の大切な部分についての絵本」を読み聞かせ、2 年生には、読み聞かせ後にアンケートを取り、それをもとに自分がされて嫌だったことなどについて話し合った。3 年生には、もう少し踏み込んで、境界と同意について学んだあとに実際にあったことを取り上げて「自分の体を守ることにについて」と「他人が見ていてどう思うか」を考えた。

講座後に同様なことが子どもたちの間で起きた時にこの内容を振り返るようにした。次年度もこの講座は繰り返していくことを考えている。

③コロナ前のような行事を実施した。

秋の親子交流行事として、コロナ禍前のような飲食を伴う「おみせやさん」を父母会と共催でおこなった。当日は、3 年生の子どもたちが中心となって考えた、お化け屋敷、射的屋、ポップコーン屋、スーパー縁日の各店舗と父母会のチョコバナナ屋を親子で回りながら楽しく過ごしていた。学校の先生方や異動した職員なども招待し、総勢 200 名近くの参加があった。3 年生の子どもたちは、準備から当日の大勢のお客さん相手の店の切り盛りまでしっかりと取り組んでいた。4 年生はその 3 年生のサポートをしてお店を手伝っていた。1 年生や 2 年生がそうした上級生の活躍する姿を見ることが出来たことは次の年に子どもたちの活動が繋がるよい機会だったと考えられる。

④その他

- ・卒クラブ後に自立した生活が出来るようにと考えて調理体験の取り組みを計画していたが、庭のかまどの修理ができておらず、またその時期にコロナウイルスの罹患者も職員や子どもたちの中にいたため行わなかった。
- ・工作活動について、雨の日に室内で走り回って遊んでしまう子どもが楽しみつつ落ち着いて過ごせるようにプラバン制作を採り入れた。また、年度に 2 回工作週間を設けるだけでなく、普段も自由に工作が出来るように空き箱やチラシを用意しておいたところ、工作の得意な子どもが他の子に影響を与え、みんなで刀な

どを作って庭で戦いごっこをする姿がみられた。

#### (4) 環境整備について

①子どもたちが落ちついて過ごせるよう、各グループの空間だけでなく、遊具の点検をするなどの取り組みは随時おこなっていた。また、危険個所や子どもの怪我の状況については職員間で共有し注意するようにした。

②片付けについて子どもたちに働きかけた。

遊びを変える場面や活動の切り替え時におもちゃや使っていた物を片付けないまま次の行動をする子どもや、落ちていたおもちゃをおとなに持ってきて片づけを頼む子どもが多くいたので、一時、子どもたちと話をし片付けないで放置されていたおもちゃは事務室で預かることにし、子どもたちが自分たちで環境整備するように呼びかけた。年末のクリスマスのころには事務室のおもちゃをおもちゃ置き場に戻すことが出来たが、引き続き子どもたちには物を大切にすることや使ったものをもとに戻すことについて声をかけていく必要がある。

②庭の植栽整備について

桜の木をはじめ枯れているものや枝が隣の敷地や電線に伸びているものがあつたので、市に働きかけて予算の範囲で剪定をお願いした。2023 年度の予算ではすべて切れなかったため、来年度の予算でもお願いし職員で切れるものは切った。

③その他

2023 年度は市によりエアコンの取り換え工事が行われた。日常の施設の点検も行い、誰でもイレの水漏れなど市を通して業者に修理を依頼したり、職員により更衣室や誰でもトイレ、事務室の扉のコマを取り換えて開けやすくしたりと子どもたちや職員が快適に過ごせるようにした。また、仕事がしやすいように事務室内の整理整頓に取り掛かった。まだ終わっていないので、次年度も取り組んでいきたいと考えている。

## 7. 子どものようす

①年度初めは、新しい職員や友だちを迎えて不安で落ち着かない様子だったが、日々過ごすうちに学童クラブの生活に慣れてきた。また、昨年から在籍している子どもたちが新入生に生活や遊びのルールを教えるだけでなく、3年生が行事や遊びでリーダーシップをとる姿を下級生が見て学ぶ姿が見られ、異年齢の子どもたちが一緒に過ごす学童クラブならではの育ち合いができていた。

②子どもたちが自分たちのやりたいことを発言し自主的に物事に取り組み、それを職員が支援することで達成感を得る様子がみられた。

例えば、秋の親子交流会の「おみせやさん」では、日頃あまり発信しない子が自分

のやりたい店を提案した。そこで、職員も一緒に話し合い、他の子どもの提案とまとめて「スーパー縁日」というひとつの店にして実現したことがあり、当日は活き活きとその店の運営をしている姿があった。

- ③前年度末の法人内4つの学童クラブ対抗ドッジボール大会において優勝したことで、年度当初は勝つことにこだわり、新しく入ってきた子どもが上手にボールを投げられないときつい言葉を投げかけるなどが見受けられた。また、自信のない子が上手な子に遠慮してボールを投げないで譲ったり、コートにさえ入らなかつたりという様子も見られた。その都度、職員がチームワークの大切さを伝えたり、上手ではないが頑張って参加したい子どもたち専用のコートを作ったりしてみんなで強くなること目指した。年度末の児童館共催のドッジボール大会では子どもたちから「みんなで揃いのユニフォームを着たい」と言うまで「チーム」という意識が生まれ、互いに協力し合う関係や励まし合ったりカバーし合ったり姿がみられるようになっていった。

## 8. 保護者との関係

- ①学校の担任の先生や学童クラブの職員交代により、相談先がなくなって不安に思う保護者の様子が見られたので、丁寧にかかわり関係作りに努めた。
- 日々の子どもの様子や状況を細やかに伝え、保護者の悩みに寄り添うことで良い関係が築けていった。
- ②父母会をはじめ、コロナ禍を経て保護者同士がかかわる機会が少なかったので、職員が間に入り保護者同士の関係作りやコミュニケーションが取れるように働きかけた。次年度は春の親子交流会を映画会から交流のはかれる内容のものにしたり、父母会の引き継ぎや活動方法についての改善に協力したりしていく。
- ③日々の様子は保護者会や連絡帳にて伝えてきたが、HPのリニューアルに施設の準備が追いつかずアルバムに写真がアップできていなかった。そのため、保護者の同意を得て、2024年度に2023年度の様子もアップすることにした。

## 9. 衛生面について

- ①毎日の消毒と飲食の際のシールドの使用は罹患者がでていたので続けてきたが、感染状況が落ち着いたところでいったん止め、その後の使用については状況で判断とした。
- ②子どもの怪我や体調については打ち合わせのノートなどを活用して職員全員で共有した。

## 10. 関係機関との関係

- ①学校とは、年度初めと夏休み終わりだけではなく、必要に応じて子どもの状況を共

有した。また、秋の行事の「おみせやさん」に先生方を招き、学童クラブでの子どもの様子を見ていただいた。

- ②法人内の他学童クラブとの交流、貝取学童クラブでできないサッカーをする機会として、貝取小学童クラブに出向きサッカー大会をおこなった。次年度も様々な遊びを通じた交流を普段からしていきたいと考えている。
- ②関係機関、特に、島田療育園の巡回相談や子ども家庭センターとの連携により子どもの育成や子どもと保護者の状況を共有し支援に活かしてきた。
- ③地域子育て支援拠点ネットワーク会議や青少年問題協議会などに出席し、情報交換を通じて地域の各機関の活動の理解と学童クラブの活動の地域への発信に努めた。
- ④児童館との連携として、今年度の取り組みの欄で記した内容に加え、卒クラブ生や在籍児童の状況をエリア会議等で共有した。

## 11. 育成計画について

- ①育成計画は年間、三期、月単位で立て、保護者には年度当初の保護者会で周知し、職員には職員会議で確認しながら要配慮児童の目標建てや育成について検討した。ただし、子どもたちには月単位の目標を明確に周知していなかった点については次年度の取り組みとして考える必要がある。
- ②子どもたちが自主的に参加できるような行事を積極的に取り入れ、企画から子どもたちの主体的な活動となるようにしていくことができ、子どもたちも充足感を得ていた。しかし、子どもたちの意見を反映していくには職員の体制や時間などの余裕が必要だった。その点については次年度の課題として検討していく。
- ③避難訓練、防犯訓練等について毎月行ってきた。総合防災訓練として、春には多摩市全学童クラブで引き渡し訓練を、秋には施設独自に避難場所に指定されている貝取交流センターに実際に避難する訓練をおこなった。また、職員の少ない一日育成の朝の時間帯や日常の夕延長の時間、降所途中での発災を設定した訓練もおこなった。訓練によっては職員体制が悪く訓練の内容を詰め切れなかったり、防犯訓練のうち不審者侵入時の避難の課題があったりした。次年度は職員で詳細を検討して実施する。

## 12. 職場環境、職員の資質向上等について

- ①先の全体での取り組みにも記したが職員間での情報の共有とグループや全体育成における協力は出来ていたと思われる。会議においても日常においてもすべての職員が意見を言いやすい環境づくりはできていた。一方で、常勤職員の方は新体制になってお互いの考えを共有した上で育成や行事を企画するには意思疎通が不十分な場面があった。その点については年度末に施設内常勤会議をおこない、次年度

の事業計画を立てる前に振り返りをおこなった。

- ②職員の有休取得について、子育て中の職員は有休や時休が不足しそうになる一方、そのほかの職員の有休がなかなかとれていなかった。

超勤については、職員体制により育児中の職員を含めて多かった。先の項目でも記したが職員にリフレッシュできるように有休取得や超勤の問題を次年度は考えなくてはならない。

- ③職員の体制の問題はあったが出来る限り職員が研修を受けるように努めた。

常勤職員 2 名が放課後児童支援員資質向上研修を受講し、有期契約職員 2 名が研修を受け放課後児童支援員の資格を取得した。

詳細は別紙参照

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
4月	初めて学童クラブに登所してきた1年生たちは“どんなところなんだろ…”“友達できるかな”と不安な様子だったが「まずは連絡帳を出すんだよ。」「名前が？ロッカーはここだよ」と優しく上級生に声をかけられ、すぐに安心した様子で過ごしていた。1年生たちが初めて遊ぶおもちゃに戸惑っている。「これはこーやるんだよ。」と一緒に遊びながら教えてあげる姿や、ドッチボールでは「1年生はまだ慣れてないからラインクロスはとらなくていいよ。」と声を掛け合い手加減してあげる姿など、4月は上級生たちの1年生を思いやる素敵な場面が多く見られた。	4月12日(水) 新入生歓迎会 3グループのそれぞれ3年生が1年生を紹介した。その後グループ対抗でドロケイを全3試合行った。1年生も「やった一捕まえた！」と上級生をタッチで喜びぶ姿も見られた。3戦とも警察が勝利し、盛り上がる会となった。  4月11日(火) 避難訓練 その場でダンゴムシのポーズをし、頸椎等を守るように話をした。また場所や状況によって避難の仕方も変わるため、緊急時に大人の話をすぐに聞けるようにする事の大切さも伝えた。  4月26日(水)誕生会 対象者11名	当月末退所者 1名
5月	気温の上昇とともに子どもたちは登所時から汗をかくことが多かったため水分補給を促すことがあった。外遊びではドッジボールで遊ぶ子どもが多く、1年生もボールを投げるのが上手になった。1年生が時折上級生を当てると「3年生を当ててた!」と嬉しそうに話していた。上級生は1年生にボールを回したり、友達のファインプレーを「ナイスボール!!」「ナイスキャッチ!」と声を掛けたりしていた。 室内では写し絵に熱中している子が多く、描いた絵をグループの壁に掲示したり子どもや、お手紙を書いてお友達にプレゼントしたりする姿が見られた。職員から子どもたちへ、6月に行う工作週間でプラバン作りをする話をすと、「じゃあ、お絵描きを練習しなきゃ!」と普段はお絵描きをしない子どもたちも工作に向けて意気込み、取り組んでいた。	5月10日(水)避難訓練・引き渡し訓練 避難訓練では「地震です!」の声と共に、4月に練習したダンゴムシのポーズで上手に身を守っていた。その後、外での整列・点呼も素早く行え、引き渡し訓練時も職員の話をしっかりと聞き、静かに迎えを待っていた。子どもたちは真剣に取り組んでおり、訓練の重要性を確認できる機会となった。  在籍児63名 訓練参加児童58名 全児童引き取り完了18:53  5月24日(水)誕生会 対象者5名	当月末退所者 2名
6月	・6月5日より『梅雨工作』としてプラバンのアクセサリー作り(キーホルダー/バッチ)を行った。子どもたちは真剣に自分の好きなキャラクターを書き写していた。中には2、3日かけて細かく絵を描いて完成させた大作もあった。出来上がるとみんな喜んで「今ランドセルにつけて良い?」「帽子に着けようかな!」「お家の人にプレゼントするの!」と完成品を思い思いに楽しんでいた。 ・貝取小学重クラブとドッジボールで交流会を行った。初めは14日に予定していたが、体調不良の児童が10名以上いたこともあり、延期した。当初は貝取学童クラブの庭で行う予定だったが、貝取小学校のグラウンドへ場所を変更した。当日はとても暑く、予定よりも少ない試合数となったが、「この子と保育園一緒なんだよ!」「クラブチームが一緒なんだ!」「すごいドッジボール上手だね。習っているの?」と貝取小学校の子たちと楽しそうに交流している姿が見られた。日程と場所の変更によりドッジボールはAチームBチームの各13名ずつの選抜26名が参加となり、試合に出られない子もいたが、みんな「次はいつかな?またやるのかな?」と子どもたちは次の交流会を楽しみにしている様子だった。	6月 5日(月)～ 個人面談(1、4年生対象) → 1、4年生対象で個人面談を行った。1年生は入所して2か月たち、この間の学童クラブでの様子を伝え、家庭からは学校での様子や自宅での様子について話をうかがった。4年生は卒クラブに向けて話をした。 5日(月)～ 梅雨工作 → 絵を描いたプラバンを焼き、レジン加工をした物をバッチやキーホルダーにした。 21日(水)誕生会 → 6月生まれの子の誕生会を行った。 28日(水)交流会 → 貝取小学重クラブとドッジボールで交流会を行った。 30日(金)避難訓練 → 地震からの火災発生を想定し訓練を行った。	
7月	先月から続き咳・鼻水・発熱などの風邪症状の児童が多く、中には一週間以上長引いている児童もいた。 また、連日気温が高かったので熱中症指数を測り外遊びが可能かどうかを判断していたが、室内で過ごすか、外遊びが出来ても虫捕りかキャッチボール程度しか出来ない日が多かった。室内で過ごす日は、おまここ、工作、ウノなどに加え、雨の日専用のおもちゃやジャングルジムで遊んだりLAQやカブラなどで友だちとじっくり様々な作品を作ったりしていた。夏休みに入るとミサソバやプラバン作りも出来るようにしたところ、夢中になって取り組んでいる様子が見られた。外遊びが出来るときには、こまめに休憩を取り水分補給をおこなった。また、経口補水液や塩分タブレットを用意して熱中症にならないよう気をつけた。 夏休みに入ってから初めの数日は職員と学童クラブでの一日の過ごし方を確認しながら子どもたちは過ごした。ほとんどの子どもが朝の会、勉強時間、遊び、おやつ、帰りの会などの流れはすぐに理解出来ていたが、切り替えの時に次の行動が遅くなってしまう、片付けがきちんとできていなかったり職員から注意を受けることがあった。	14日(金)防犯訓練 監視カメラ動画配信している「いかのおすし」を視聴し、防犯意識を高めた。動画での視聴だったため子どもたちもよく見ていた。  20日(木)昼食会 市内の業者にお弁当を発注した。おにぎり2つとからあげ、卵焼きなどが入った。残す児童もいたが、足りなくてかわりする児童もいた。  22日(土)父母会共催行事『星空映画会』 父母とカレーをかまどで作って夕食に親子で食べた。全体で親子122名の参加があった。その後の星空映画会は父母の役員が選んだ『ペンギンズ』を上映した。  26日(水)誕生会 4名を対象に行った。当日休みだった児童1名は後日行った。おやつはフルーツポンチを食べた。  27日(木)交通安全教室 交通公園の職員からDVDや紙芝居などを使って交通ルールについて話をしてもらった。久しぶりの施設外部の大人からの話を子どもたちは静かに集中して聞いていた。	当月入所者 1名
8月	・先月から引き続き、気温が高く室内で過ごす日が続いた。室内ではものづくりを楽しむ子どもが多く、プラバンづくりで思い思いの絵を描き、工夫して作っていた。ミサソバ編みに初めて挑戦する子どももあり、最初は職員から編み方を学んでいたが、上級生が家庭で新しい編み方を覚え、他の子どもに編み方を伝える先生になっている姿が見られた。 ・その他、子どもたちは映画会やポケモンカード大会などの行事に向けた準備から当日の運営まで責任感を持って行った。 ・熱中症指数を測り外遊びが行えた日は、キャッチボールやドッジボールなどで遊んでいた。熱中症危険指数により、あまり外に出られなかったこともあり、子どもたちは遊び始め、「思うように投げられない!」と言っていたが、少し遊ぶと感覚を取り戻し「楽しかったー!」と笑顔で話していた。また、熱中症対策として経口補水液や塩分チャージタブレットを用意し、外遊びをした日や、集団降所の際に夕方になっても気温が高い日など子どもたちに摂取するよう促した。	16日(水)避難訓練 ・9:00頃、朝職員の人数が少ない時間帯に地震が起きたらという想定で行った。 23日(水)誕生会 ・7月の誕生会に欠席だった1名と、8月の対象者4名をお祝した。おやつはパフェを食べた。 24日(木)ポケモンカード大会 ・2年生2人が実行委員として準備を行った。当日は14名の参加で、勝つてうれし気持ちの子や負けて涙が出る子もいたが、勝敗に関わらず励ましたり激励したりする姿があった。子どもたちは「また大会やりたい!」と言っており、その後の遊びの時間に大会に参加した子ども同士で交流する姿が見られている。 25日(金)映画会 ・3年生が映画の内容班、おやつ班、ポスター班、司会班の4つに分かれて各班で話し合い、準備を行った。当日は全体で43名の参加だった。おやつ時間には3年生全員で前に出てごちそうさまをした。他学年の子どもたちから「楽しい会ありがとう!」とお礼の言葉をもらい、お礼を言われた3年生たちの嬉しそうな表情していた。	8月一時入所者 3名
9月	・暑かった気温も少しずつ落ち着きをみせ、庭で遊べる日が増えた。ドッジボールやドロケイ、リレー等を大人数で楽しむ姿が多く見られた。梅雨頃から長く外に出られない日が続いていた為、久しぶりの外遊びに子どもたちは思うように体を使うことが出来ず戸惑う姿も見られたが、大きなけがなどはなく過ごせていた。 ・体調不良の連絡が増え、職員を含め長期の欠席者が多くいた。新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等に罹患する人が多く、学校で3年生は体調不良で7人以上の欠席者がいた日があったとのこと。 ・3年生は10月7日のおみせやさんに向け準備に取り組んでいた。昨年よりも準備期間が短い、限られた期間の中でも沢山のの人に楽しんでもらいたいと懸命に準備を進めていた。今年度はお化け屋敷(スーパージョー)・輪投げ・ヨーヨー・くじ引き屋さん/射的/ポップコーン屋さん/父母会店舗のチョコがけバナやさんの5店舗で行う予定。	9/20 9月誕生会 体調不良の児童や職員が多くいた為、急遽メニューの変更を行い、手作りをやって市販のハンバーガーの提供をした。誕生カードも対象児童と一緒に写真を撮りたい友だちが休んでしまうケースが多く、用意が出来次第、別日に各グループで渡して対応した。	

10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月は暑さが落ち着き、外で遊ぶ日が増えた。遊びの中では「缶蹴り」をする子どもが多かった。学童クラブの園庭は隠れる場所が少なく、あまりしていなかった遊びという事もあり、ルールをめぐりなんども喧嘩になった。子どもたちは「どうすればみんなが楽しく遊べるか」を話し合い、決めたルールを守りながら遊んでいた。</li> <li>・豊ヶ丘小学校では10月に運動会があり、園庭でダンスの練習やリレーをする様子が見られた。職員に「50メートル走に出るんだー！」「運動会で踊る音楽を流してほしい！」と声をかけていた。</li> <li>・地域でインフルエンザが広がっており、学級閉鎖になる学年があった。職員から子どもたちに手洗いの声掛けをしたり、育成室の消毒を行ったり、感染症拡大の予防に努めた。</li> <li>・3年生中心で行った「おみせやさん」では、普段一緒にすごさない友だちと意見を交わしたり、お店を一緒にまわったりする姿がみられた。また、おみせやさんの後、子どもたちはで次につながる反省会をおこなっていた。その中で自分のことだけでなく、仲間と力を合わせたことを振り返りお互いを認め称え合う姿があった。</li> </ul>	<p>7日(土) 父母会共催行事「おみせやさん」 おみせやさん自体は14時から始まり、保護者、来賓を含めて197名の参加があった。子どもからは、射的屋さん、ポップコーン屋さん、スーパー緑日、お化け屋敷の4店舗、父母会からはチョコがけバナナ屋さんを出店し、計5店舗でおみせやさんを行った。おみせやさんを行うにあたって、協力し合いときにぶつかる中で子どもたちの成長していく姿があった。</p> <p>31日(火) 10月誕生会 誕生会は本来、10月25日に予定していたが、感染症拡大に伴い各学校で学級閉鎖が出ていたため、10月31日に変更した。また、感染症対策のため手作りおやつをやめて市販のロールケーキを提供した。当日は誕生月の子どもをグループでお祝いし、誕生カードに関しては、対象児童と一緒に写真を撮りたい友だちが休んでいるケースが多かったため、用意が出来次第、別日に各グループで渡した。</p>	
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候に恵まれ、外遊びのできる日が多く、子どもたちは庭で元氣よく身体を動かして遊んでいた。子どもたちのブームは缶蹴りとドロケイで、缶蹴りでは庭の少ない隠れ場所を上手に工夫して遊んでいた。缶蹴りは今まであまりしてこなかった遊びだが、子ども同士で話し合い、貝取学童クラブのルールが作られている。ドロケイでは「まだ鬼をやっている人がやるよ！」と3、4年生がリーダーシップをとり、声を掛けている姿があった。また、上級生の姿を見た2年生は上級生がいない時に同じように声を掛けていた。上級生の指示のもと、1年生もびのびと遊んでいる。様々な遊びで食い違う事があっても、お互いに意見を出しながらスムーズに話し合う姿はとても頼もしく、子どもたちの成長を感じられた。</li> <li>・外遊びでは庭に落ちている木の実や落ち葉を集めてこの季節ならではの遊びをしている様子も見られた。</li> <li>・室内ではりかちゃん人形でお家ごっこをして遊んだり、工作で剣を作ってみたりと、想像力豊かな遊びが展開されている。作った剣を職員に見せて「カッコいいでしょ！」と目を輝かせながら話している様子が見られた。</li> </ul>	<p>2日(木) 3年生保護者会 18家庭の参加 ・新型コロナウイルスの流行により、近年行っていなかった3年生保護者会を今年から再開した。職員から3年生遠足、過去の卒クラブ式、放課後の留守番等による過ごし方について説明を行った。その後は保護者会に参加した保護者間で卒クラブ式の行い方や、担当を決めていた。</p> <p>22日(水) 11月誕生会 ・11月の対象者1名をお祝いし、おやつはハンバーガーを食べた。</p> <p>27日(月) 避難訓練 ・総合訓練としておこなった。「地震です」という声掛けに、子どもたちはまず身をを守る姿勢の「ダンゴシンのポーズ」をとり、その後職員の指示に従って庭に避難し点呼をとった。さらに、避難所になっている交流センター(旧北貝取小学校)に向かい、そこで再度点呼をおこなった。子どもたちは、自分の命を守る姿勢をきちんととり、大人の話をしっかりと聞き、点呼の際も手を挙げて大きい声で返事をしていた。施設に戻ってきた後に全員で振り返りを行い、緊急時の対応はどうするか子どもも職員も学ぶ機会となった。今回は、当初の計画日に実施できずこの日に変更した。残念なことに登所人数が少なかったため、また出席の多い時に同様の訓練をしたいと考えている。</p>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月に入り、寒さで身を縮める日が多くなり思うように体が動かし怪我をする子が増えた為、外遊びの前に軽い体操をするのが日課になった。おたのしみ会の影響もあり、庭ではドロケイが流行。誰かが声をかけると学年性別関係なく沢山の子どもたちが集まり自分たちで話し合いゲームを展開している。</li> <li>・インフルエンザや発熱を伴う風邪が流行り長期のお休みをする子が多かった。施設内で発熱する子どもいた為、図書室に隔離し、様子を見て保護者に連絡をするなどして対応した</li> <li>・3年生は遠足に向けて、2年生はお楽しみ会に向けて会議することが多かった。子どもたちは意欲的に参加していた。</li> <li>・自分の工作したものでしか施設のおもちゃの片付けをしっかりとるように声掛けを行った。また、年末には各自のロッカーをはじめ、施設の大掃除をみんなでを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12/9(土) 3年生遠足 新江ノ島水族館へ3年生22名で遠足に行った。</li> <li>・12/22(金) 昼食会 お弁当を用意し昼食を食べた</li> <li>・12/25(月) お楽しみ会 2年生を中心になり行事を作り上げ、「みんなで楽しむ」を目標に遊びやおやつを決めていた。当日はドロケイを学年対抗や、職員を交えて大人対子どもで行い盛り上がった。</li> <li>・12/27(水) サッカー交流会 法人の4施設でサッカー交流会を行った。試合ではなく交流におもきを起き、施設ごとでの試合や、混合グループを作り試合をした。普段庭でボールを蹴れないこともあり、子どもたちはとても楽しそうな様子だった。</li> <li>・12/28(木) 大掃除 施設内の大掃除を子どもたちとともにを行った。</li> </ul>	当月末退所者 1名
1月	<p>冬の寒さにも負けず、庭では子どもたちがドロケイやリレーをして元気に走り回る子、落ち葉や枯れ木を集めて茂みに入り秘密基地をしている子、砂場で大きな山を作っている子等、子ども達は思い思いに元気に遊んでいた。室内ではレゴやリキューを使い上手に人形を作り楽しむ子や、12月のお楽しみ会でサンタさんからもらった新しいおもちゃやカードゲームで盛り上がりつつあった様子もあった。また、進級や卒クラブまで残り数か月となり、各グループでも来年度に向けて子どもたちに話しはじめている。今まで3年生が行っていた司会が2年生になり、降所時のリーダーも段々と交代している。各学年で話す時間を設け「どんな風に1年生を迎えようか」と話し合いをしたり、班替えを計画したりと、新年度に向けて準備をしている。</p> <p>また13日(土)まで冬時間が終わりととなり、翌月曜日の15日からは全グループ17時に集団降所に戻った。</p>	<p>24日(水) 誕生会 6名の児童が対象だった。グループごとにお祝いし、その後いつもより豪華なおやつを食べた。</p> <p>31日(水) お留守番講座 今回のおるすばん講座は学年ごとに行い、1年生は『鍵を自分で持ったことはあるかな?』『友だちと約束をして放課後に遊んだことがあるかな?』等、放課後の過ごし方について話し、2年生は『自分の家のルール』と“他の人の家のルール”は違うという事について、他の人の家に遊びに行った時の過ごし方について話した。3、4年生はおるすばんノートを使って、間もなく卒クラブをしい、自分で放課後の時間を過ごすことを想像しながら各家庭の約束についてそれぞれ振り返りを行う。「もしお留守番中に電話がかかってきたらどうする?」という質問に家によっては「出る!」「出ない!」と様々でした。中には「出る」と答えた子に「おうちの人はいますかと聞かれたらどうする?」と聞くといません! って言う」と返している子もいた。あわせて地震など発災時の対応も話した。</p>	当月入所者 1名
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寒暖差のある2月だったが、園庭でも室内でも子どもたちは元気に全力で遊ぶ様子が見られた。</li> <li>・園庭ではドロケイや大縄跳びなど体を動かすことを楽しんだ。園庭から部屋の中へ「ドロケイやるひとー!」と元氣よく声を掛け「やりたい!」と返事があり友だち関係の広がる様子もみられた。</li> <li>・室内での遊びでは迷路ボールで遊ぶ子どもが多く、小さな球をゴールまで運ぶゲームを子ども達が順番を決めて遊んでいた。</li> <li>・3年生は、卒クラブ式に向けて、当日保護者に渡すメッセージで何を伝えるか、4年生になったらどのようなことを頑張りたいかという宣言の内容などを悩みながら考えたり、式のリハーサルをしたり準備を進めていた。</li> <li>・各グループでは、来年度の事を考えて職員から声をけしながら1、2年生が係や当番等の活動し始めた。</li> <li>・東京に珍しく雪が降った翌日に雪遊びを行った。あまり降らない雪ということもあり、子どもたちはとても喜んでた。雪はすでに溶け始めており、園庭でおもいっきり遊ぶことはできなかったが、すのこに出てゆきだま作りや職員と雪合戦をするなど、この季節しか出来ない遊びを満喫した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・14日 避難訓練(心と体の講座) 自分の心と体を守る講座を行った。各学年に分かれて、絵本、資料、アンケートを使い、自分の体を守ることと、同時に他の人の気持ちや考えが自分と異なりスキップをするときには相手の気持ちを尊重することも職員と共に考え学んだ。</li> <li>・21日(水) 誕生会 6名の児童が対象だった。グループごとにお祝いし、その後いつもより豪華なおやつを食べた。</li> </ul>	
3月	<p>各グループで、班のリーダーやおやつの時間や帰りの会の進行を2年生に任せると進級に向けた取り組みをはじめた。また、進級お祝い会の実行委員会を2年生が中心になってつとめ準備や当日の進行をおこない、行事の取り組みも3年生から引き継いでいけるようにした。また中には自信のない子どもがいるが少しずつ次年度に向けた取り組みに参加できるように促した。</p> <p>3年生は、卒クラブ式に関連したことに取り組んだり、練習をした。リハーサルや当日、どの子どももしっかりと行動し、それぞれが堂々と次年度の目標を保護者の前で発表していた。</p> <p>また、卒クラブ後に地域で子どもたちが過ごすことを考えて、児童館との共催行事としてドッチボール大会を企画した。この行事に3、4年生が児童館と繋がるきっかけとなった。さらにこの行事を通して、上級生が下級生を思いやりながら練習をする様子や、1、2年生が上級生との練習を通して上手になるための努力や次の大会で勝つためのチームワークを学び、心身ともに成長した姿が見られた。</p> <p>遊びの様子では、学年問わず外でドッチボールやドロケイをしたり室内では迷路ボールやカードゲームをしたり、進級お祝い会でダンスを発表する子たちがダンスの練習したりしていた。</p>	<p>2日(土) 卒クラブ式 3年生22人が参加し第一部ではそれぞれの子どもの保護者の前で次年度の目標を発表し保護者にメッセージカードを渡し卒クラブ証書を受け取った。第二部では父母会共催で軽食を食べながらこれまでの学童クラブの様子をスライドで見ながら懇談した。</p> <p>13日(月) 誕生会 3月の誕生日のこどもをお祝いし、いつもより豪華なおやつを食べた。</p> <p>19日(火) 新入所説明会 新入所の方を対象に説明会をした。5期の入所者や欠席者には後日説明をおこなった。</p> <p>22日(金) 児童館共催ドッチボール大会 豊ヶ丘児童館、貝取小学童クラブ、貝取小放課後子ども教室、貝取学童クラブの利用者で参加者を募り、ドッチボールの交流戦をおこなった。貝取学童クラブからは2チーム参加しうち1チームが優勝した。この日に向けての子どもたちの様子などは前述のとおり。</p> <p>26日(火) 進級お祝い会 ドッチボールやリレーの予定が雨天で室内で映画会となった。詳細は前述通り。</p>	



## 2023年度 貝取学童クラブ

## 参加研修一覧

正職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	研修費 アパス 該当	自主研 修対象
1	正職員	衛生推進者養成講習	公益社団法人労働管理教育センター	東京 大井町きゅりあん イベントホール	5月16日	衛生推進者に関する法令・業務等	×	×
2	正職員	たま研	法人研修委員会	永山学童クラブ	6月1日	各施設の行事・工作等	×	×
3	正職員	中堅層研修	法人研修委員会	砧保育園	6月10日	各施設から職員集団の課題を出し 合い グループごとの話し合い交流	×	×
4	正職員	学担	多摩市	多摩市役所西会議室	6月20日	防災・防犯について等	×	×
5	正職員	主任（副園長）交流会	多摩福祉会 新瑞福祉会 わたり福祉会	zoom	6月21日	三法人の主任（副園長）交流会	×	×
6	正職員	たま研	法人研修委員会	貝取学童クラブ	6月29日	各施設の工作等	×	×
7	正職員	放課後児童支援員研修	東京都	スクエア荏原	6月30日～7月5日	放課後児童クラブの指針・法令等	×	×
8	正職員	学担	多摩市	多摩市役所西会議室	7月5日	応急処置について等	×	×
9	正職員	たま研	法人研修委員会	貝取学童クラブ	7月6日	各施設の行事等	×	×
10	正職員	ヤングケアラー講演会 経験者の話聞いてみませんか	多摩市 子ども家庭支援センター	zoom	7月11日	ヤングケアラーについて等	×	○
11	有期契約職員	放課後児童支援員研修	東京都	各指定場所	8月5日／22日	放課後児童支援員資格所得	×	×
12	正職員	経営会議合宿	法人研修委員会	山梨県 より道の湯	8月25日～26日	法人経営陣研修	×	×
13	正職員 有期契約職員	島田巡回相談	島田療育センター	貝取学童クラブ	9月5日	要配慮児童の育成について	×	×
14	正職員	たま研	法人研修委員会	永山小学童クラブ	9月7日	各施設の行事等	×	×
15	正職員	島田療育センター 1,2年目研修	島田療育センター	東寺方小学童クラブ	9月8日	1,2年職員対象配慮児童の見立てと対応	×	×
16	正職員	学担	多摩市	zoom	9月21日	子ども家庭支援センターについて	×	×
17	正職員	救命講習	多摩市	豊ヶ丘児童館	9月21日	救命講習・AED講習	×	×
18	正職員	ぜん息・食物アレルギー 緊急時対応	東京都小児総合医療セン ターアレルギー科	あいおいニッセイ 同和損保 新宿ホール	10月13日	アナフィラキシーの基礎知識と緊 急時対応 エビエンのトレーナーを用いた実 技練習	×	○
19	正職員	基礎学担	多摩市の研修として 法人内学童クラブ施設長	永山小学童クラブ	10月19日	個人情報の取り扱い 一日の流れ	×	×
20	正職員	中堅層研修	法人研修委員会	向山保育園	11月4日	園長、学童施設長の話を聞く	×	×
21	正職員	全国学童保育研修集会	全国学童保育連絡協議会	zoom	11月4日・5日	全体会・このすも受け止める学童 保育を目指して 分科会：防災・災害への備えを考 える	×	○
22	正職員	島田1, 2年目研修	島田療育センター		11月10日	支援の必要な子どもの育成につい て ABC分析	×	×
23	正職員	学担	多摩市	zoom	11月17日	人権について	×	×
24	正職員	法人合研	法人研修委員会	zoom/こぐま保育園	11月18日	テーマ：次へつなぐ	×	×
25	正職員	課内研修	多摩市	永山ベルブホール	12月1日	マルトリートメント不適切保育	×	×
26	正職員	学担	多摩市	教育センター	12月1日	発達の見立て	×	×
27	正職員	基礎学担	多摩市の研修として 法人内学童クラブ施設長	永山学童クラブ	12月11日	余暇支援	×	×
28	正職員	基礎学担	多摩市の研修として 法人内学童クラブ施設長	永山学童クラブ	12月15日	保護者対応	×	×
29	正職員	防火・防災管理者講習	東京都	立川防災館	1月24日・25日	防火・防災管理者取得講習	×	×
30	正職員	課内研修	多摩市	zoom	2月2日	OTについて	×	×
31	正職員	中堅層研修	法人研修委員会	砧保育園	2月3日	研修振り返り・施設間交流	×	×
32	正職員	放課後児童支援員資質向上研修	東京都	各指定場所	2月7日／15日	支援員の資質向上のための研修	×	×
33	正職員	主任（副園長）交流会	多摩福祉会 新瑞福祉会 わたり福祉会	zoom	2月29日	三法人の主任（副園長）交流会	×	×

## 2023 年度 永山学童クラブ事業報告

### 1. 児童状況

(1) 定員：70 名

(2) 育成年齢：6 歳～12 歳（小学 1 年生～ 6 年生）

および、特別支援学級、特別支援学校に通う児童は 5、6 年生まで対象

(3) 育成時間：学校下校時～19：00、学校休業時 8：00～19：00

(4) 学年別状況：(2023 年 4 月 1 日現在) 在籍数 44 名

※3 月末 36 名在籍。年度途中の入所が 1 年生から 4 年生合計 4 名、退所が 1 年生から 4 年生合計 10 名いた。

1 年生：5 名 2 年生：19 名 3 年生：12 名 4 年生：7 5 年生：1 名

(5) 在籍児状況(2023 年 4 月 1 日現在)

\*要配慮児：5 名（個別加配 1 通常加配 2）※年度途中にて通常加配 2 名追加

\*モア利用者：月利用申請者 6 名（9 月辞退 2 名）

一時利用 月平均 4.5 名利用

\*夏一時利用：13 名（うち要配慮児 3 名）

内訳：2 年生：3 名 3 年生：1 名 4 年生：1 名 5 年生：5 名 6 年生：3 名  
計 13 名

利用の理由としては、夏休み 1 日を子どもがひとりで過ごすことへの保護者の不安から児童館や家庭で友だちと一日過ごすことが出来ない様子があった。

### 2. 職員状況

(1) 正職員(2023 年 4 月当初 3 名)

職種	施設長	正職員
人数	1 名	3 名

※正職員 1 名 5 月永山小学童クラブより異動

正職員 1 名 しろくま保育園準備のため配置

6 月～11 月 1 名病休、産休

1 月～ 1 名病休

(2) ①有期契約職員(2023 年 4 月当初 4 名)

勤務時間	5 時間× 週 5 日	4 時間× 週 5 日	5 時間× 週 4 日	8 時間× 週 1 土曜日
人数	1 名	1 名	1 名	1 名

②有期契約職員状況

※中途採用者 7月より週2×4時間 10月より週1×4時間

※夏休み対応 3名

(3) 職員研修(別紙参加研修一覧 参照)

3. 2023年度の課題についての取り組み

① グループ制における育成について

- ・ 子どもたちを2つのグループに分けて担当職員を決めて育成に取り組んだ。  
生活の中での集合時に子どもたちが自分たちで進行をできるように、当番担当の取り決めを子どもたちと相談して決めた。担当の職員がいることで子どもたちとの関係がより築きやすくなったため異動してきた職員がすぐに子どもたちと関係を作ることができた。また、行事等育成内で子どもたちと話し合う部分をグループ内から話していくことで、発信しづらい子から意見を引き出すことができるようになり、子どもたちの声を反映させやすい環境を作ることができた。  
生活の中でもグループ単位で行えるものはできるように検討を重ねた。おやつ配膳も各グループにて行うようにしたが、お代わりや食べ終わり時間に差がでてしまう関係で以前から行っているやり方のほうが全体としての流れが作りやすいということで残すようにした。全体として少しずつ子どもたちの中にグループの意識が出てきたように感じられた。本格的な取り組みを2024年度にできるように繋げることができた。

② 子ども達の主体的な活動について

- ・ 日常の遊びでは工作から発展したごっこ遊びをすることが多かった。お化け屋敷ごっこや猫ごっこなど遊びに合わせて装飾を作り身につけて楽しんでた。小集団から次第に大集団になっていき自然と学年関係なく関わり合いが生まれるきっかけになった。
- ・ 行事においても子どもたちの意見や発想を取り入れて活動に繋げていった。  
5月に行った親子交流会では子どもたちから出た遊びを中心に行った。7月には転校してしまう子の『ドッチボール大会で1回は勝ちたかった・・・』という言葉から職員永山小学童クラブと合同のドッチボール大会を行うまでに至った。  
「おみせやさん」では子どもたちの模擬店を4店舗出したが、いずれも子どもたちが相談しながら決めたお店になった。お客さんがきてからの対応や流れも子どもたちが考えて行うように促した。100人を超えるお客に対して満足してもらえる対応が各店舗で行うことができた。
- ・ 日常生活や行事の中で子どもたちの『やりたい』『やってみたい』に答えられる

育成に目標に取り組んだ。子どもたちが日ごろから音楽コンテンツに触れやすい環境のためか、ダンスをしたいという要望が多かった。音楽や動画を使って取り組むが、デバイスの操作に職員が1名かかりっきりになってしまうため子どもたち自身が操作できる物で、目的に沿った使い方ができるものを準備していきたい。また、年末のお楽しみ会の時に装飾としてぬいぐるみを作りたいと子どもたちが言ったところからぬいぐるみ作りに取り組んでみたが、日数と職員のスキルが足りず作ることができなかった。こどもたちのやりたい気持ちに職員もどこまで応えられるかが課題になった。

- ③ 「食」に関する活動やお留守番講座など卒クラブ後の生活にむけての活動について
- ・ 「食」に関わる体験として例年続いているテラスのプランターでの野菜作りを行った。子どもたちのアンケートから植える苗を決めた。近くのスーパーで買える苗に関しては代表数名で職員と買いに行った。水やり当番なども係を決めて順番で行った。野菜が実ってくると子どもたちで観察をし、成長過程も楽しんでいた。収穫した野菜は昼食会のカレーに入れたり、夏休みの昼食時におかずのとして調理して提供した。せっかく自分たちで育てた野菜だからと苦手だけどチャレンジして食べてみる子もいて食の経験の積み重ねの一つになった。
  - ・ 日常のおやつでは週に2回を目標に手作りのおやつを提供するようにした。袋詰めのを配膳やホットプレートなどで加熱するものや、切り分けたものを盛り付ける作業については希望する子どもたちにも手伝いとして入ってもらった。おやつの準備や手伝いも学童クラブの中の活動のひとつとして定着したように感じられた。
  - ・ 2022年度と同様におやつを初めて食べるものだったり気分で食べたくないと思わずに無駄にしまったりすることが多くあったので、「お試し制度」と「代替えおやつに月3回まで変えられる制度」を採り入れてなるべく色々なものを食べて食べられるものを増やすようにした。
  - ・ 「お留守番講座」を行った。  
あんしんノートを使い鍵の持ち方や放課後や休日の遊びに行っている時間や場所などのルール作りをお家で確認し子どもたち同士で話し合った。今後も「お留守番講座」でしっかりと放課後の過ごし方を保護者も交えて子ども達に考えてもらうことの大切さと卒クラブまでに少しずつ練習の機会を設けていくことが大切であると考えた。
  - ・ 2023年度も夏の一時入所の子どもたちのうち要配慮児童や他施設の待機児童を除いても利用者が多くいた。子どもが一人で一日を家で一日過ごすことへの不安が大きな利用理由だった。今後もこのような場合に定員の余裕という条件はあるが子どもの居場所として学童クラブの役割があると思われる。

④ 適切なコミュニケーションが取れるように考えることについて

- ・ 例年行っていた気持ちの伝え方講座は行わず、育成の中で子どもたちのトラブルの中で相手の気持ちを考えられるようにする対応を第一に行った。特に室内での卓球をする時に一つ一つのルールや声のかけでトラブルになることが多かった。その都度それぞれの気持ちや意見を聞き相手に伝えられるように支援をした。困ったことやトラブルなどを職員に言ってくれやすくなった半面、一方的な言いつけになることもあったので丁寧に関わり合い相手の子とも話すようにした。年度の後半になると3年生が下級生のトラブルの仲裁にはいる様子があり年間で積み重ねた成果を実感することができた。
- ・ 子どもたちのやりとりの中で、些細な言葉でも『煽り』だと訴えることが多く対応することが多かった。日頃から職員が働きかけて適切な言葉や行動を示しながら子どもができるように支援するようにしてきた。これは今後も課題となると思われる。
- ・ 例年行っていたCAP（Child Assault Prevention：子どもの権利を基盤にした暴力防止プログラム）を保護者のニーズの変化から行わずに、2023年度は助産師の先生を招いて発達や成長についての性教育の講演会を行った。講演会自体も新しいものだったので保護者の方も想定より多く参加しており充実した内容だった。子どもたちも命の大切さや人それぞれの違いを知ることができたためか、相手のことを理解しようとするようになったように感じられた。

⑤ 全職員が共通認識をもって育成にあたることについて

- ・ 以前から使っている職員用ノートを使って仕事内容の情報共有を行っていたが、異動してきた職員が2名おり定着するまでに時間がかかった。日ごろの職員会議などでも情報共有をしてきていたため大きな伝達ミスはなかったが文章で残る共有方法としてしっかり継続していきたい。
- ・ 毎月行っている職員会議の内容を見直した。配慮児や気になる子どものエピソードや対応の共有、目標設定だけでなく施設運営や育成の流れの設定や判断についても話し合うようにした。特に長期休みの前には生活の流れから確認し、職員全員の意見取り入れて生活を組み立てた。また、施設としての環境設定なども職員会議の場で話し合いより良い環境を作るように考えるようにした。

⑥ 職員の研修受講と資質向上について

（詳細は、別紙参加研修一覧を参照）

- ・ 研修計画を各自立てることは不十分であった。参加した研修が多摩市内、法人内にとどまっております外に出た研修に参加することができなかった。その分研修で紹

介された図書を購入して読んだりして学びを深めていた。また、職員で共有していききたい内容については有期職員にも共有して意見交換をし育成の質の向上に努めた。

- ・ 「たま研」(法人学童クラブ常勤職員による研修)で各施設との交流から学んだことや指摘を受けたことを自施設に活かした。

⑦ 保護者、学校、地域、専門機関と常に連携をはかり協力しながら子ども達を育ててくことについて

- ・ 課題がある子どもについて保護者の了解のもと島田療育センターの巡回相談を受けその内容を保護者や学校と共有し協力して子どもの育成を行うように努めた。
- ・ 学校とは夏休みの情報交換だけでなく、日常から副校長や担任と子どもや家庭の状況を共有する機会を持ち、問題を抱える保護者や子ども同士のトラブルの問題に協力して対応した。
- ・ 子育てに悩んでいる保護者の気持ちに寄り添い出来るだけ時間を割いて気持ちを受け止めるように努め、常に保護者のサポーター、子育ての協力者であることを理解してもらうようにした。そして、必要に応じて子ども家庭センターや発達支援室に保護者を繋いで卒クラブ後も保護者が相談できるようにした。
- ・ 青少年問題協議会やエリア全大会、子育て拠点会議などに出来る限り出席し学童クラブでの子どもたちの様子や活動を伝え理解をしてもらうように努めるとともに地域の情報を得て学童クラブとしての役割を考えるよう職員と共有した。

#### 4. 子どもたちの様子

- ・ 新入所は1年生5名、2年生1名、3年生1名(施設移動)と少なかった。そのため、継続して在籍していた子たちが複数で寄り添いやすく新しい生活にもすぐに慣れることができた。
- ・ 3年生が中心となって学童クラブ内での活動を行うことで集団としてのまとまりができた。日ごろの遊びの中で3年生が中心となって全体をまとめている姿がありそれについてく下級生。集団でのあそびが大人数で展開されていた。行事の際にも3年生は中心的にグループをまとめ、下級生がそれをサポートする形で行われていた。上手く行かないことも3年生同士で話し合い意見を出し合い解決していく様子がみられた。
- ・ 子どもたちのアイディアを行事などの活動に取り入れてきた。「親子交流会」での全体遊びや「おみせやさん」の出店するブースの商品や食べ物のトッピング、「お楽しみ会」「進級お祝い会」での出し物に関して子どもたちがやりたいといったものを取り組み行った。日ごろおとなしい子がみんなの前で漫才をやり大笑いをとったり、1年生の子が難しい歌を披露するなど日ごろ見られない姿を引き出すこ

とができた。行事を終えた子どもたちからは満足した様子と充実した笑顔が見られ成長する機会にすることができた。今後も子どもたちの意見を大切に行事の準備をしていきたい。

- ・ 法人4学童クラブサッカー交流会では日ごろからサッカーをやっている子だけでなく全く経験のない子も参加した。試合に参加する子だけでなく希望する子も応援にいき大声で応援し一丸となることができた。結果としては勝つことはできなかったが、交流会のコンセプトにある楽しむ会ということが施設全体として達成することができた。交流会の後も遊びでサッカーが流行るなど子どもたちに影響を受けた。
- ・ 外でのあそびでの転ぶ、ひねる、ぶつけるといった軽度の怪我が多かった。外遊びの前に準備体操をするだけでなく、50メートルほど走った後に遊ぶように促し、少しばかりか怪我が減った。
- ・ インフルエンザなどの流行りの感染症に罹患する子が多かった。コロナ禍のマスク生活が明けたタイミングだけでなく持続的に体調不良になる子が多くいつの時期にも休む子がいた。夏休み中に行う「縁日」や「お楽しみ会」は感染症により休む子が多かったため日程をずらしての開催だった。

## 5. 家庭との連絡について

- ・ 毎月のおたよりやホームページ内のアルバムの写真で普段の子ども達の様子を保護者に伝えたり、保護者会などでスライドを見せながら行事などの話をしたりして学童クラブの活動の理解をしてもらうようにした。
- ・ 学期に1回ごと、年に3回学童クラブでの子どもたちの様子を見てもらうことを目的に父母会共催の行事を行った。「親子交流会」では日ごろ子どもたちが遊んでいる遊びを保護者ともに楽しんでもらい、最後には保護者が作ったカレーをみんなで食べた。カレー作りには保護者のボランティアを募集したところ飲食出来る行事が久しぶりなためか、全体の半数近い保護者が協力してくれた。「おみせやさん」では初の取り組みとして土曜日に開催し保護者の方も参加してもらえる形をとった。父母会のブースも作り休憩所として活用し、良い交流の場となった。「進級お祝い会」では見てもらうだけの参加となったが総勢で100名を超える参加があった。いずれの行事も家族の誰か1人だけでなく家族揃っての参加が多く、学童クラブでの行事に関心を持ってくれた方が多くいたように感じられた。また、父母会の協力が強くありそのおかげで成功したため、今後も父母会との協力関係を保っていきたい。
- ・ ご家庭には個人面談の折や日常は必要に応じて連絡帳、または、直接お迎え時や電話でこどもの様子を伝えたり家庭の状況を聞いたりしてきた。常に保護者と一緒に子育てをしていくという姿勢を示し信頼関係を築くことに努めた。

## 6. そのほかの関係機関、法人他施設との交流について

- ・ 多摩市内の中学校職場体験を計 3 校の受け入れをした。学童クラブ内の作業を体験してもらおうと共に育成時間も子どもたちと遊ぶようにした。学童クラブに在籍したこともある子もあり学童クラブの役割についても話しをしこの職業の大切さを伝えた。今後も学童クラブの認知を広げるためにも今後も多くの体験希望者を受け入れていきたい。
- ・ 市内のボランティアセンターから夏のボランティアを 2 名受け入れた。高校生のボランティアもあり子どもと関わる仕事に就きたいとの話しだったので良い体験になったとのことだった。
- ・ 5 年ぶりとなるこぐま保育園との交流会を行った。コロナ禍前に行っていたものでどんどんさん(年長)に学童クラブの子が学童クラブの遊びを教えるというものだったが、経験のある職員が 1 名しかおらず企画準備の段階から職員内で主旨や目的を話し合いながら準備をした。こぐま保育園出身の子だけでなく、子どもたち全員で受け入れを楽しみにした。おやつのおつまみもチーズも園児と一緒に食べ良い交流会となった。
- ・ 永山小学校の校庭を利用時にこぐま保育園の子も来ており日ごろからこぐま保育園の子たちと交流することができた。サッカーやおにごっこと一緒に遊んだ。帰りの会の時などに子どもたちと園児も一緒に遊ぶためにはどうしたらよいか、職員と一緒に考えるなど自分たちより小さい子と関わり方を考える機会になった。
- ・ 法人内 4 学童サッカー交流会では日ごろサッカーに興味を示さない子も参加するなど積極的に参加する子が多かった。永山小学校以外の子たちと関われる良い機会となった。

## 7. その他 環境整備について

- ・ 子ども達が金曜日に各自のロッカーを掃除したり年末の大掃除をしたり生活環境を自分たちでも整えるようにした。2023 年同様ハサミなどのものの管理が出来るように使用の際にチェック表に記入するようにした。
- ・ 外遊びでの怪我を防止するために、隣接する永山第二公園では走り回る遊びはなしにして時間の余裕があるときには永山小学校の校庭思いっきり走って遊ぶようにした。
- ・ 工作をする子が多く折り紙の消費が多かった。物の消費を実感するために 1 週間で使える量を大人が決めて使うようにした。



	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
4月	<p>新1年生が入って来ると上級生が1年生に寄り添い遊ぶ姿が見られた。時間が経つにつれて徐々に1年生同士で遊ぶ姿が見られるようになった。上級生同士も学年が上がると共に落ち着きが出てきているように感じられた。</p> <p>3月のドッチボール大会の影響から上級生の間ではドッチボールが流行した。熱心にやるあまり言葉が強くなるので職員が様子を見守り声をかけられるようにした。</p> <p>生活の流れも一つ一つ時間をかけて丁寧に確認しながら、全体で行うようにしたところ、新入生も生活の流れに添って過ごすことができた。</p>	<p>7日 避難訓練(地震) 年度初回の避難訓練だったので新入生に分かりやすいように手書きの第2公園の地図を使って避難経路などを確認した。また、発災時直ぐに机の下に隠れる又はダンゴ虫ポーズの練習をし、5月の訓練につながるように行った。</p> <p>12日 新入生歓迎会 新入生を歓迎するため上級生が遊び1・遊び2・おやつ・プレゼントに分かれて準備をした。当日の司会進行も子ども達が行った。遊びはじゃんけん列車とドッチボールを行いどちらも新入生が楽しむことができたようだった。おやつはドーナツに生クリームを乗せたものにみんなが喜んで食べる事ができた。プレゼントの折り紙メダルも喜んで受け取っていた。</p> <p>26日 誕生会 4月生まれの子のお祝いをした。今年度は職員のメッセージと写真入りのメッセージカードを毎月対象の子に渡す。</p> <p>28日 保護者会 資料に添って学童クラブの利用について確認と地域懇談を行った。地域懇談では同じ地区の人との顔合わせを行った。</p> <p>保護者会後に父母会の総会が行われた。</p>	
5月	<p>外遊びでは第二公園や永山小学校の校庭で遊んだ。第二公園ではスズメバチが公園内の木に飛んでいる姿がみられたため、子どもたちには近づかない、刺激しないことを伝えた。室内では主に1、2年生がダンボール工作でごっこ遊びをしている姿がみられ、アニメやゲームの衣装や装飾を作って過ごしている。しかし遊びの中で、相手の意見を聞かずに自分の意見を通すことがあったり、片付けをほかの子どもに任せていることがあったため、子どもとの間に入ってやりとりをうながしている。</p> <p>今月から本格的に永山小学学童クラブとの土曜日合同育成を開始した。はじめは、普段の学童クラブと別の学童クラブに登所して過ごしていることもあるのか、落ち着かない様子であったが、回数を重ねるごとに慣れていき、楽しそうに過ごしている様子がみられた。</p> <p>6月から行う予定のグループ育成に向けて、職員間で話し合いと共有を行った。進行やおやつなど、これまでの育成の流れと変える部分もあるため、職員と子どもと話し合いながら試行錯誤している。</p>	<p>5/10(水) 引き渡し訓練 16時頃から児童館と合同で地震・火事の発災を想定した避難訓練を行った。室内では災害時向けの絵本の読み聞かせを行い、その後は勉強・本読みをして保護者の迎えを待って過ごした。</p> <p>5/17(水) 歯科指導 健康センターから歯科衛生士の方に来ていただき、1・2年生と3年生以上に分かれて話をきいた。今年度は、噛むと色が変わっていくガムを使って子どもたちの噛む力を調べた。</p> <p>5/27(土) 親子交流会 永山小学校の体育館を借り、じごく鬼ごっこ、おかししい競争、ドッチボールの3つのゲームを合計31家庭、101名が参加し、開催した。じごく鬼とドッチボールでは親子で参加し、おかししい競争は子どもたちのみの参加で行ったが、保護者はゴール付近で写真撮影を行うなど楽しそうな姿が見られた。また、4年ぶりにカレー作りを行い、お昼に食べた。120皿分を作り、ほとんど完食するなど好評だった。</p>	<p>1年生 1名 2年生 1名 退所</p>
6月	<p>グループでの活動を始めると共に子どもたちと当番の回し方や生活の流れについて話しをした。各グループそれぞれのやり方が決まり積極的に当番をやる姿が見られた。おやつの配膳のやり方なども変更することがあったが、事前に細かく説明することで混乱することなく生活することができた。</p> <p>暑い日が多かったが外遊びに出る子が多く、鬼ごっこが活発に行われていた。室内では先月に引き続き、アニメやゲームの衣装や装飾を作ったごっこ遊びが行われていた。制作した作品や道具の片付けができていないことが多く、子どもたち声をかけることが多かった。</p> <p>野菜係を発足した。育てて食べるところまでをイメージし、育てる野菜を決めた。また、近くの店舗に野菜の苗を買ってきて植えて育て始めた。毎日の水やりをやりながら苗の成長を楽しんでいる様子が見られた。</p>	<p>6月14日(水) 防犯安全教室 登降所での横断歩道のわたる時の注意や集団で降所する理由を子ども達に問いかけながら話しをした。</p> <p>6月17日(土) 親子学習会(永山小学学童クラブ・父母会共催) 助産師の方を招いて、体と心の発達の講演会を行った。子どもが生まれる過程から身体の発達の話聞いた。子どもたちも聞く時間がああり、食いつくように聞いていた。大人だけの懇談の時間もありとても有意義な会となった。</p> <p>6/17(土)～個人面談 全家庭対象で個人面談を行っている。7月中旬まで行う予定。</p> <p>6月28日(水) お誕生会 6月生まれの子のお祝いをした。おやつはアイスパフェを提供した。</p>	<p>2年生 1名入所 職員 1名病休</p>
7月	<p>暑い日が多かったので熱中症指数を確認しながら外遊びに行くようにした。事前に水分補給を促したこともあり、鬼ごっこやドッチボール等運動量の多い遊びをしても熱中症になることなく過ごすことができた。室内でも卓球やエアコンの効きにくい廊下で遊んでいる子には水分補給を促した。</p> <p>夏休みに入ると熱中症指数が高く室内で過ごすことが増えたので、ルームブレスや編み物など長時間集中してできる工作をする子が多かった。また、長い時間友だちと過ごすためか、些細な言葉のやり取りでのトラブルが多くありその対応に追われた。</p> <p>生活習慣の獲得としておやつ後に、食器や容器を子ども達自身が洗うようにした。子ども達は嫌がる様子もなく自分で使った食器は洗うことができていた。</p>	<p>7月14日(金) ドッチボール永山杯 永山小学学童クラブと合同でドッチボール大会を行った。お互いに2チームづつ参加した。結果が準優勝と3位だった。子どもたちは結果よりも、楽しめたことに満足そうだった。気温が高くなることを想定して飲み物や塩分タブレットを準備して行った。</p> <p>7月19日(水) 7月生まれの子の誕生を祝った。おやつはフルーツポンチを提供した。</p> <p>7月20日(木) 昼食会 子ども達と話し合いメニューはカレーと餃子で決定した。カレーには学童クラブで採れたナスを入れ、ピーマンは希望者は添えて提供した。60皿分の量をほぼ完食した。</p> <p>7月21日(金) 映画会 昨年度父母会から寄付があった作品を映画会として上映した。司会進行を希望した3年生が行った。</p>	<p>4年生 1名入所 4年生 2名退所</p>

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
8月	<p>熱中症指数が高い日が多く室内で過ごすことが多かった。室内での遊びを充実させるために、手芸用品を充実させ集中して長時間続けられるようにした。多くの子が取り組み多くの作品が作られた。室内の卓球も人気で、多くの子が遊んでいた。人数が多いためかルールの解釈の違いでトラブルになることが多かったが、夏一時で入所した5・6年生が仲裁に入りルールの確認を行うなど子ども達で解決をすることができていた。外に出れる時は虫捕りをする事が多く、セミやバッタを捕まえて遊んだ。グループを作ってどっちが多く捕まえられるか競っていた。</p> <p>6月に植えたナスやピーマンなどを収穫して調理してお昼に提供した。日ごろは苦手だが学童クラブで収穫したものなら食べられるという子もいた。</p> <p>月末にはインフルエンザに罹患する子が多かった。週初めに欠席者が多く広がる心配をしていたが欠席者が増えることはなかった。</p>	<p>7月31日(月)～8月4日(金) 工作週間(ハワイアンリボンレイ) 高温の日が多く室内で過ごすことが増えるため工作する機会を増やす目的で行った。職員だけでなく事前に工作の練習をした子も参加した子に教える形で行った。</p> <p>8月30日(水) 縁日 3年生でやるお店を4店舗ほど決めた。3年生だけでは人数が足りないお店は他学年の子を誘うようにした。お店で話し合い育成時間内にそれぞれお店が準備を進めた。 当日はインフルエンザが流行し欠席者が多かったため9月上旬に延期とした。</p>	<p>8月一時入所 2年生 3名 3年生 1名 4年生 1名 5年生 5名 6年生 3名</p> <p>4年生 3名退所</p>
9月	<p>気温が低くなったため外に出て遊ぶことが増えた。特に永山小学校の校庭に行った際は、大人数でおにごっこやケイドロなどをやることが増えた。走る機会が増えたためか転倒などでの擦り傷が多かった。事前の準備運動だけではなく、遊ぶ前に走って体を動かす習慣をつけるようにして怪我の防止を行った。また、運動会が近くになりダンスを室内で行うことが多かった。動画や音楽をかけてとの要望が多かったため、子ども達たちが自分で扱えるような物を準備しても良いかもしれないと感じた。</p> <p>10月のおみせやさんに向けて、子どもたちと話し合いを行った。食べ物のお店とゲーム形式のお店の計4店舗の内容や、どのお店をやりたいのかを決め、準備をすすめた。また、父母会からも1店舗出店していただくこととなったため、保護者とやりとりを行っている。</p>	<p>9月8日(金) 夏の縁日 8月30日に予定していた夏の縁日を行った。天候も心配される中ではあったが無事開催することができた。当日欠席した子どもたちには、後日振替えのミニ縁日を行った。</p> <p>9月27日(水) お留守番講座 クイズ形式で『カギも持ち方』と『カギの開け方』の正しいやり方を確認した。また、ロールプレイ形式でお留守番中に電話がかかってきたら・宅配が来たらどうするかを考えた。家庭での決まり事がある場合は実際にどうしているのかを話した。</p>	<p>2年生 1名 4年生 2名退所</p>
10月	<p>子どもたちは小学校の運動会と学童クラブの行事を平行して準備を進めていたため、少し疲れている様子が見られた。また、感染症が流行り、学年閉鎖をしたため、該当の学年には、感染症が広がらないように別室で過ごしてもらうことがあった。</p> <p>先月まで小さな怪我が多くあったが、10月に入ると運動会練習もあり、体の使い方に慣れてきたのか怪我も少なくなった。</p> <p>育成時間には行事準備で、それぞれのおみせやさんのグループに集まって会議やリハーサルを重ねて準備を進めていた。おみせごとに見つかったさまざまな課題なども自分たちで意見を出し合っている姿がみられた。</p> <p>月の後半からは冬時間降所を行う関係で生活の流れの見直しを行った。おやつの時間を変更することにしたため、事前に子ども達に告知したところ混乱なく生活をする事ができていた。</p>	<p>11日(水) 避難訓練 行事を行っている最中に発災した場合の避難ルートや注意すべき点をグループごとに話した。今回の行事想定はおみせやさんだったため、ホットプレートや薬品を使っているときに発災したら火災になる危険性が高いことなどを伝えた。</p> <p>14日(土) おみせやさん 父母会共催おみせやさんを行った。学童クラブと児童館のテラスを借用しスライム、せんぼんくじ、たこやき、マシュマロの4店舗を出店し、父母会からはマクロビクッキーとジュースを用意した父母会カフェを出店した。当日は職員含め110名の参加だった。当日は特にトラブルや怪我もなく終えることができた。</p> <p>14日(土) 3年生保護者会 保護者会では主に卒クラブや遠足の話をした。遠足では保護者と新江ノ島水族館・国立科学博物館の2候補に絞り、現在子どもたちと話し合いながら決めることになった。</p>	<p>2年生 1名入所 病休職員復帰</p>
11月	<p>先月から引き続き冬時間降所を行っているため、外遊びの時間には第二公園で遊ぶことが多かった。公園には地域の子どもたちも集まり、在籍児童と一緒に棒タッチや砂場をして遊ぶことがあった。遊びの中でトラブルになることも数回あり、都度職員が間に入り話をした。室内では音楽をかけてほしいと子どもたちに要望されることが多く、子どもが自分で操作できる端末などを購入するか検討している。</p> <p>11月の中旬から感染症が流行り、学級閉鎖になった学年があった。学童クラブでは学級閉鎖があった週に誕生会を行ったが、学級閉鎖の影響もあり登所人数が少なかったため、次の週に誕生会おやつへの振り替えを行った。</p> <p>4名の永山中学校の生徒が職場体験にきていた。育成室の掃除や冬の工作の準備や試作、壁面飾りを作ってもらったり、子どもたちと一緒に遊んで過ごしていた。最終日には子どもたちから中学生へ感謝のプレゼントを渡していた。</p> <p>3年生は12月に行う3年生遠足に向けて会議を数回行った。会議では子どもたちと一緒に遠足の目的やルール確認、グループ分けなどを話し合い、準備を進めた。</p>	<p>6日 避難訓練 降所時に発災した想定で避難訓練を行った。各降所地域や室内で発災時の避難ルートや避難場所を確認した。</p> <p>27日～ 冬の工作週間 冬の工作はステンドグラス工作を行った。在籍児童37名中36名が取り組んだ。ステンドグラスには事前に用意したイラストを写して描いたり、自分でオリジナルイラストを描いたりしていた。完成したステンドグラス工作は学童クラブの壁面に飾り、12月中に持ち帰ることを全体に話した。</p>	<p>4年生 1名退所</p>
12月	<p>月初は3年生遠足に向けての準備に入る3年生が多く、登所しても話合いで1日を終えてしまう子もいた。体調不良の為欠席が多く出た後に当日を迎え全員行けるか心配だったが無事全員そろって行くことができた。</p> <p>日常的に校庭や第2公園に行くことが多く、外でケイドロや棒タッチを楽しんでいた。室内に残る子たちで集まりごっこ遊びを行っていた。外に出る子と室内に残る子でメンバーが固定されてきたように感じる。また、子どもたちから音楽をかけて欲しいとの要望が多く、リクエストした音楽に合わせて踊る様子が多く見られた。</p> <p>月末になるとお楽しみ会に向けて出し物の準備に入る子が多くみられたが、感染症が流行し学級閉鎖のクラスが出るがあった。そのため、1月に延期することにした。</p>	<p>1日 遠足おやつ買い物 3年生遠足に持っていくおやつをグリナード永山内の二木のお菓子へ買い物にいった。駅まで集団で動く練習を含め行った。</p> <p>9日 3年生遠足(新江ノ島水族館) 3年生を対象に遠足を行った。卒クラブ後を想定し、決められたお小遣い内で昼食・お土産・イベント費を自分たちで計画して行動するようにした。</p> <p>25日 お楽しみ会 感染症流行のため1月に延期</p> <p>26日 大掃除 4箇所に分かれて掃除を行った。</p> <p>27日 4学童交流会 法人内の4学童クラブでサッカー交流を行った。</p>	

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
1月	<p>年始は登所人数が比較的少なく、落ち着いた雰囲気の中で遊んでいた。また、サンタさんからのプレゼントでもらったボードゲームやドールハウスが人気で学年問わず遊んでいる姿が見られた。</p> <p>外遊びでは永山小学校の校庭に行くと、こぐま保育園の園児が来ていることがあり追いかけてこぐまと一緒に遊んで過ごしていた。</p> <p>冬時間降所が終了し、概ね以前の育成の流れに戻ったが、外遊び後から降所の時間を職員間や子どもたちと一緒に話し合い、現状は勉強と本読みを行っている。子どもたちからはグループ内でできる遊びを時間にしたいなどの声も挙がっているため、今後も話し合いながら検討を重ねていくことを全体に伝えた。</p> <p>子どもたちは月末に行ったこぐま保育園との交流会に向け、話し合いを行ったり準備を進めた。24日(水)にはこぐま保育園に子どもたちと一緒に、招待状と遊びのポスターを渡した。中には卒園児がいたので園内を見てとても懐かしそうにしていた。</p>	<p>1月9日(火) 昼食会・お楽しみ会 昼食会は12月に子どもたちにメニューの募集をかけて決まった、ハヤシバーグを作った。チーズを入れていたりボリュームがあったが、子どもたちはおかわりをするなど好評だった。また昼食会後は12月から延期したお楽しみ会を行った。出し物ではピアノ、うた、漫才、マジック、作品発表を行い、全体あそびでは校庭に行っておドロケイを行った。子どもたちからは失敗しても暖かい声援を送るなどの様子が見られた。</p> <p>1/17(水) 永山・永山小合同避難訓練 永山小学堂クラブと合同で避難訓練を行った。室内と校庭の二手に分かれて避難訓練を行い、電話で連絡を取りながら在籍児童の所在確認をすることを共有した。また、今回の反省を生かして2月に告知なしの避難訓練を行う予定。</p> <p>1/31(水) こぐま・学童クラブ交流会 5年ぶりにこぐま保育園との学童クラブ交流会を行った。当日の子ども参加者は計62名おり、子どもたちと事前に決めた遊びを紹介したあとと一緒にあそんだり、保育園からいただいたおやつと一緒に食べて過ごした。</p>	職員1名病休
2月	<p>遊びの時間を使って進級お祝い会の準備をすることが多かった。一生懸命練習をするが、遊び時間のことを気にしている子どもも多く見られた。行事の準備と遊びのバランスが課題だと感じた。</p> <p>おやつでは手作りのものを提供することが多く、ホットケーキなどホットプレートで調理するものを子どもたちに手伝ってもらった。自分が食べる分ではなく友だちが食べる分も作り、『おいしかった』と感想をもらいうれしそうにしているのが印象的だった。</p> <p>雪が降った日には雪合戦や雪だるま作りを楽しみ、季節を感じられる遊びを堪能した。2・3年生男子がサッカーをすることが増えた。勝ち負けよりも楽しむ様子が見られ、12月に行った交流会の主旨が伝わったように感じられた。また、校庭には近隣の保育園から遊びに来ていたことが多く、保育園園児と一緒に遊ぶ姿がよくみられた。</p>	<p>各水曜日又は金曜日 学年会議 進級に向けて来年度の個人目標と学年目標を立てた。模造紙に文章を書き、それぞれの手形をとって掲示する作業をした。進級お祝い会の出し物の準備を各学年で行った。出し物の内容や練習日を話し合って決めた。</p> <p>各自由時間 進級お祝い会出し物(有志)準備 進級お祝い会の出し物で個人で行いたいものを募ったところ、空手・けん玉・歌・ダンス・ルービックキューブ・あやとりなど12名ほど集まった。学年での出し物とは違い自主的に自分たちで時間を確保しながら練習を重ねていた。自分たちのイメージを職員と共有しながらBGMや動きを確認していた。</p>	
3月	<p>集団としてのまとまりができたため、ドロケイやサッカーなどを大人数で遊ぶ様子が見られた。細かいルールで言い合いになるが、子どもたちで解決できていることが多かった。室内でも、工作で段ボールで大きな作品を作る子や装飾品を作りごっこ遊びをしたり、折り紙で細かい作品を作るなど1年間を通して遊んで来たものが成熟したように感じられた。</p> <p>生活面でもテーブル拭きやおやつの配膳なども子どもから手伝えることはないか聞いて来るようになるほど手伝いをするのが定着した。</p> <p>進級を見越して2年生を中心にとまど役を任せられるようにした。積極的に先導役をやりが多く、2年生の進級することへのモチベーションが高まったように感じられた。</p>	<p>3月2日(土) 卒クラブ・進級お祝い会 (父母会共催) 父母会と共催で卒クラブ・進級のお祝い会を行った。コロナ禍では、3年生の卒クラブ式のみなど短縮して行っていたが、今回は全学年全児童対象として行った。第1部として各学年の決意表明と出し物を披露し、加えて3年生は証書授与を式典形式で行った。第2部は有志の出し物と、保護者の会によるレクリエーションとスライド上映を行った。時間をかけて練習を積み重ねてきたこともあり、どの学年も練習より本番のほうの方が声が出ていた。保護者からも好評だった。</p> <p>3月22日(金) 昼食会 子どもたちからの要望が多かったラーメンと餃子を昼食として提供した。</p> <p>3月22日(金) 交通安全教室 交通公園から担当の職員に来ていただき交通安全教室を行った。横断歩道のわたり方などを教わった。</p>	

## 2023年度永山学童クラブ 参加研修一覧

参加者	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名
施設長	学童クラブ中級研修	多摩市	各担当市内学童クラブ	月1回程度	余暇支援について理解を深める
施設長 正職員	学童クラブ全体研修	多摩市	オンライン、多摩市役所	年6回	防災・応急処置・発達の見たて・子ども家庭センター・人権について・島田療育センター
施設長 正職員	多摩市児童青少年課課内研修	多摩市	ベルブ永山	12月1日、 3月5日	不適切保育・アンガーマネジメント
施設長 正職員	救命救急講習	多摩市	愛宕児童館、 豊ヶ丘児童館	9月21日、 9月29日	AEDの使用等救急時の対応
正職員	たま研	法人内4学童クラブ担当	各施設	分科会2回・ 全体会1回	テーマごとに各施設の見学などを行い 学びを深める
施設長	経営会議における学習会	多摩福祉会	法人本部又はオンライン	経営会議にて	各回毎に設定
正職員	法人中堅層研修	多摩福祉会	各施設	年3回	職員集団作り、中堅層の役割について
全職員	法人 保育園・学童クラブ合同研究会	多摩福祉会	各施設	11月18日	保護者対応・各分会テーマ
全職員	島田療育センター	多摩市	永山学童クラブ	11月10日	児童の対応について

## 2023 年度 貝取小学童クラブ事業報告

### 1. 児童状況

- (1) 定員：80 名
- (2) 育成年齢：6 歳～11 歳（小学 1 年生～4 年生）  
 〈8 月一時入所は 6 年生まで可〉  
 また特別支援学校、特別支援学級に通う児童は 6 年生まで通年入所可〉
- (3) 育成時間：学校下校時～19:00、学校休業時 8:00～19:00
- (4) 学年別状況（2023 年 4 月 1 日在籍児数）※途中入所 3 名、途中退所 9 名、夏入所 1 名

学年	人数
1 年生	25 名
2 年生	22 名
3 年生	21 名
4 年生	7 名
5 年生	4 名
6 年生	1 名
計	80 名

- (5) 在籍児童状況
- \* 要配慮児：26 名
  - \* アレルギー児：3 名
  - \* モアサービス利用者：13 名(途中 6 名減)

### 2. 職員状況

- (1) 正職員（2022 年 4 月 1 日現在）

職種	施設長	支援員
人数	1 名	5 名(うち 1 名育休取得中・1 名 10 月より放課後子ども教室担当)

- (2) 正職員状況
- \* 新規採用者 1 名
  - \* 異動者 1 名（永山学童クラブへ）

- (3) 有期契約職員（12 名）

契約 時間	7H× 週 5 日	6H× 週 5 日	5H× 週 4 日	4.5H× 週 4 日	4H× 週 5 日	4H× 週 4 日	5H× 週 2 日	4.5H× 週 1 日	3.5H× 週 4 日
人数	1 名	1 名	2 名	3 名	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名

### 3. 育成について

#### (1) グループ担当制の課題について

グループ制の良い点は80名一斉ではなく、少人数の単位で動けることである。全体指示が入りにくい子に対しても少人数であれば大人の目が届きやすく、その子にとって必要な働きかけをすることができる。また同じ職員が毎日関わることにより、子どもたちとの関係も親密になることができる。信頼関係も構築される。子どもの理解も深めることができる。しかし、良い点ばかりではなく、同じグループの子ども同士の関係が悪くなり頭を悩ませることもある。また有期契約職員の中から、ほかのグループの子とも関わりたいという声が出ていた。職員の前向きな気持ちを受け止めたかったが、2023年度は職員も子どももグループ制を定着させたいと考えていたので、職員の気持ちとの隔たりがあったかもしれない。有期契約職員の声をなかなか生かすことができなかった。正職員の指示を待っているだけの職員集団ではなく、有期契約職員も主体的に意見を述べてほしいと言いながら、なかなかその意見を生かすことができないことがあった。意見を出しにくい雰囲気もあったかもしれないと考え、グループ内の小さい単位で意見や情報を交換しあうことを進めていった。職員の交代などがあり、まだまだ発展途上の面がある貝取小学童クラブのグループ制だが、少なくとも子どもたちの間では「うちのグループ」が定着している。引っ越しなどにより地域が変わったため、グループを変えることを提案したことが何例かあるが、たいてい子どもから「グループは変わりたくない」と言われた。いろいろと課題はあるが、子どもたちにとってはグループが自分の居場所になっていると感じている。

#### (2) 上北沢こぐま保育園訪問について

3年生と4年生を対象に「小学生ボランティア」という位置づけで上北沢こぐま保育園を訪問した。夏休みには8月3日、23日、30日、冬休みには12月26日に行った。初めは1度行ければよいと思っていたが、「ぜひ行きたい」「もう一度行きたい」と子どもたちは非常に積極的に参加の意思を示した。朝8時半に学童クラブを出発し、保育園に到着するのは10時。往復3時間かけての訪問である。暑い中での活動は神経を使った。電車に乗ったことがない子もいた。長い道のりに保育園に着く前に疲れてしまった子たちだったが、園の建物に入った途端、目を輝かせていた。子どもたちにとっては施設そのものもとても魅力的に映ったようだった。「すごい」「きれい」「いいなあ、ここにずっと住みたい」など素直に感動していた。

1回ごとに園で感想を書かせてくれ、記録として残してあるが、どの子も小さい子たちのかわいい姿に魅了された様子を書いていて、参加した児童の中には学校へ行き渋っている子、必ず遅刻をしてしまう子、落ち着きなくすぐに怒りを表に出してしまう子、自分の気持ちを言葉で伝えることが難しい子など、さまざまな子がいたが、園では皆生き生きと小さい子に接していた。普段はなかなかお話ができない子がふと見ると小さ

い子に本を読んであげていた。並んで見ているだけでなく読んであげている姿に感動した。この子はどちらかというところまで人に何かしてあげるより助けてもらうほうが多かったかもしれない。その子が小さい子に本を読んであげている。そしてその子の周りにはどんどんほかの子が寄ってきて、気が付くと5、6人の子が周りに集まってきた。そのことをその子の母親に伝えると大変驚き、「そんなことができるんですね」と喜んでおられた。これはほんの一例で、ほかにもエピソードには事欠かない。職員も子どもたちの新たな一面を見た思いであった。小さい子に接するときにはこんなにも優しい気持ちや力が湧いてくるのだということを知った。小さい子の力を目の当たりにした思いである。夏が終わり、短い冬休みにも快く訪問を受け入れていただいた上北沢こぐま保育園のみなさんにも感謝している。

### (3) グループ活動について

パワーグループ(子どもたちが付けたグループ名)の担当者が異動したため、正職員としては1年目の職員が担当することになった。大学生の間にアルバイトとして週に2日から3日ほど入っていたとはいえ、新人1年目であり、悩みの尽きない1年だったと思う。10月に放課後子ども教室が開始するまで教室担当の職員がアドバイザーとして入り、グループ作りを一緒に手伝ってくれた。特に保護者の対応についてはアルバイト時代にはほとんど経験していないことなので、先輩に聞きながら対応していた。真摯に向き合うことの大切さを伝えてきたが、よく応えてくれたと思う。若いながらも保護者からの信頼を得ることができ、少しずつ自信を持つことができるようになってきた。1年間クレームもなく、保護者とも良好な関係を作ることができている。

他の2グループに関しては担当者がグループ開始以来変わることがなく、安定した運営をすることができたが、有期契約職員については入れ替えを行った。グループによって要配慮児の人数、全体の人数に偏りがあり、次年度に向けて子どもたちのグループも多少変更した。

### (4) 子どもたちの健康管理について

- ・ 重大事故が1件あり、都へ報告書を提出した。夕方の延長時間に有期契約職員数名が掃除をしており、正職員も側にいたのだが、室内で走った児童が転倒して足を骨折した。開所以来、児童の骨折事故が数件あり、特徴的なことは特に危険とは思われない平坦なところで転倒し骨折に至ってしまうことだった。コロナ禍で運動の機会が減ったことも影響があったのではないかと感じている。
- ・ アレルギー対応児童について一度も誤食を起こすことなく無事に3年間を過ごすことができた。
- ・ 年に1回、健康センターの歯科衛生士による歯科指導を行った。実際に歯磨き指導

をしていただくことはなく、座学ではあるが、子どもたちにわかりやすく歯の大切さを伝えていただいた。

(5) 行事について

- ・ 4月の新入生歓迎会では2年生がはりきって準備をしていた。子どもたちが自分で考え企画して行った。1年生へのプレゼントも手作りしていた。
- ・ 10月に行った「おみせやさん」は土曜日開催とし、保護者を招待し総勢200名を越える参加人数となった。子どもたちも家族が来るとくるということではりきって準備していた。3年生が中心となり、8月から会議を行っていた。ただ店舗数が多かったため、回りきれない子があり、お店の担当者も足りないということが起きた。子どもたちにはやりたいことがたくさんあり、職員はそれをできる限り叶えてあげたいという気持ちだったと思うが、現実的に取捨選択していくことも職員がしていかなければならないということも伝えた。
- ・ 3年生遠足は初めて江ノ島水族館に行った。ロマンスカーを利用した遠出となり職員も子どもたちも緊張していた。アクシデントもいくつかあり、ひやひやしたが、どうにか無事に行ってくることができた。いろんな場面を想定して職員を1名増やして実施したことが功を奏した。子どもたちは3年生だけのグループ活動を大いに満喫していた。
- ・ その他、12月にはお楽しみ会、3月には進級お祝い会と毎年3年生は後半に活躍する場面が多く、たいへんだけれどやりきることによって達成感を感じることができたのではないと思う。3年生が力を発揮できる行事を予定通りに行うことができた。特に進級お祝い会は3年生の一生懸命な姿勢が感じられる良い行事だった。職員もこれまで積み上げてきたことを反映し、計画の段階から子どもたちとよく話し合っていた。1年間の集大成となる行事になった。
- ・ 冬休みには前述の保育園ボランティアだけでなく、永山小学童クラブまで行き、法人内4学童クラブでサッカー交流会をおこなった。負けた悔しさもあったと思うが、一生懸命とりくんだ満足感もあったのではないかな。その後のサッカー練習にも熱が入っていた。悔しい気持ちを経験することは悪いことではなく、その後の活動への原動力になっていたようだ。
- ・ 春休みには豊ヶ丘児童館、貝取学童クラブ、貝取小学童クラブ、貝取小放課後子ども教室が共催で「ドッジボール大会」を行った。場所は貝取学童クラブの庭を使用した。高学年の子も参加する中、学童クラブの子は年齢的には小さいのだが、よく練習し、たいへん健闘していた。児童館や放課後子ども教室と共に行うことで、地域との関係ができ、同じ中学へ通うことになる子どもたちが知り合う機会となった。
- ・ 2023年度はこれまでにない形の行事を行ってきた。新しいことを始めることは大変なエネルギーを要するが、職員や子どもたちからは「たいへん」より「楽しかった」



という声が多く聞かれた。

#### (6) 環境について

- ・ ほぼ 80 名の在籍数となったことで物が増え、外の物置を購入した。室内をすっきりさせることで子どもたちにも落ち着きが出てきている。一部の子が騒いでも、ほとんどの子は影響を受けることなく落ち着いていた。
- ・ 全体的にグループで過ごすことが定着してきて、自分の居場所として捉えている様子が見られた。席替えをする際には子どもたちの意見も反映させることがあり、子ども同士でどのような席順にすると安心して過ごせるのかよく考えていた。
- ・ おままごとコーナーの家具を増やし、子どもたちに好評だった。おままごとで遊ぶ子が増え、男の子、女の子にかかわらずよく遊んでいた。配慮の必要な子も一緒に入って遊ぶことがあり、いろいろな子とおままごとを通じてコミュニケーションを取っていた。

#### (7) 防災・安全訓練

多摩市一斉の災害時引き渡し訓練、総合防災訓練をそれぞれ年 1 回行った。

月に 1 回、避難訓練、防犯訓練、交通安全教室（多摩市道路交通課の職員による）等のいずれかを行った。

避難訓練については防災頭巾を取り出して着用する練習や玄関ではなく校庭側の掃き出し窓から備え付けのサンダルを履いて脱出するなど様々な場面を想定して行うことができた。職員側の訓練として救命対応は今後の課題となる。AED は小学校の校舎内に設置してあるため学童クラブの施設から取りに行くには一定の時間が掛る。その間に助かる命も助からなくなるということもあり得るのではないかな。そのような想定にたち、訓練に加えていく必要があると考えている。早急に行いたい。

### 4. 地域・学校・専門機関との連携について

- ・ 多摩市より運営受託し、2023 年 10 月より放課後子ども教室の試行実施を開始した。学童クラブとの連携を欠かさず行った。
- ・ 子どもたちや家庭環境に関することなど随時学校の担任と連絡を取り合った。
- ・ 子ども家庭支援センターや児童相談所、発達支援室とは必要に応じて連絡を取り、児童や保護者と関係機関との間に入ることもあった。

### 5. 保護者との関係について

例年子どもたちだけで行ってきた行事の「おみせやさん」だが、前述のとおり 2023 年度は保護者を招いて親子交流会という位置づけで開催した。貝取学童クラブがすでに実践していたので参考にさせてもらった。当日は天気にも恵まれ、多くの保護者が参

加し大盛況となった。保護者を招待するのは初めての試みだったが、参加者にはとても好評だった。子どもたちがしっかりお店を運営している姿を見て、「子どものふだんと違う一面を見ることができた」と言っていた保護者もいた。初めての試みであり、これまでほとんど交流のなかった保護者がたくさん来てくれたことで一定の目的は達成できた。今後は保護者をお客さんとして招待するのではなく、一緒に作ってけるとよい。

## 6. 職員について

### (1) 月 1 回の職員会議について

月 1 回の全職員会議では主に要配慮児についての情報共有を中心に話し合った。部屋のレイアウトや掃除のこと、環境についてなど議題には事欠かなかった。全員で決めていけることばかりではないが、できる限り多くの人の意見を聞きながらの運営を心がけてきた。1 ヶ月に 1 回 2 時間から 2 時間半の会議の中では話しきれないことも多く、そのことで不完全燃焼のようになってしまうこともあった。事前に議題を収集し、あらかじめグループ会議で話し合っておくなど工夫をしていかなければならない。

### (2) 職員のスキルアップ

- ・ 今年度は 1 名が島田療育センターのティーチャートレーニングに受講することができた。もう数名参加できるようにしたかったのだが、夏休みの開始時期と重なるため体制的にできなかった。また東京都の資質向上研修についてはだれも受講することができなかった。研修計画をもう少し具体的に立てていく必要があった。
- ・ 島田療育センターの巡回相談を受け、有期契約職員も心理の先生の話聞くことができた。実際に子どもたちを見てもらうことはできなかったが、子どもたちの様子を伝え、対応を学ぶことができた。アドバイスを受けた後、実際に教えてもらった通りに対応すると、児童が困っていることや不適切な行為が改善された。
- ・ また WISC 検査やその他の心理テストなどについてわかりやすく数値の見方を教えていただき大変勉強になった。

### (3) 職員体制について

- ・ 正職員 1 名が育児休暇を取得したため、1 年間正職員 4 名体制での運営となった。
- ・ 2024 年度の施設長交代に向けて次期施設長を主任とした。施設長の業務についての引継ぎは十分にできなかったが、これまでも職員同士で連携を取りながら育成を行ってきたのでその点については特に心配はなかった。

### (4) 職員研修については別紙参照。

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が始まると登所児童が70名を超える日が続いた。子どもたちに職員が遊ぶ場所の誘導をし、育成室をなるべく広く利用出来るよう対応した。</li> <li>・土曜日だったということもあり、4月1日の1年生の利用は2名だけだったが、4月3日からは20名を超える1年生が登所した。初登所の日に少し戸惑う様子も見られたが、比較的落ち着いて春休みを過ごせていた。</li> <li>・昨年度3月末に開催した他施設とのドッジボール大会の影響で、ドッジボールで遊ぶ子が多かった。大会に参加しなかった子も遊ぶようになり、上手な子が投げ方やルールを教えている様子があった。</li> </ul>	2日(水) 新入生歓迎会 21日(金) 避難訓練 26日(水) 誕生会	
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の運動会があり、毎日の練習で子どもたちは疲れている様子があった。落ち着きのなさが目立ち、要配慮児同士でトラブルになることが多かった。</li> <li>・室内ではキャラクター折り紙や、一つのパーツをたくさん組み合わせでくす玉を作るユニット折り紙が人気だった。「たくさんできたら室内に飾ろうよ」と提案すると、積極的に作り始め、子ども達同士で作り方を教え合っていたり、パーツを作る子と組み立てる子で分かれて作業していたりと大人の手がなくても自分たちでたくさん作品を作っていた。</li> <li>・3年生から「美化委員会をつくりたい」「工作委員会をやりたい」などの声が上がリ、2年生からも「花壇委員になりたい」と相談があるなど、子どもたちから自発的な委員会の提案があった。自分たちの学童クラブをすてきな場所にしていこうという気持ちを汲み取りつつ、委員会についての会議や準備などを行った。</li> </ul>	10日(水) 引き渡し訓練 17日(水) 誕生会	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気温が高くなり、グラウンドではバッタや蝶々といった昆虫がたくさん出始め、1年生を中心に虫取りをして遊ぶ子が多かった。</li> <li>・4月、5月にドッジボールをしていた子たちがサッカーで遊ぶようになり、ドッジボールをする子が少ない日があった。「アメリカンドッジボールなら人数が少なくでもできるんじゃないか」と子どもたち自身で考え、工夫しながら遊ぶ様子が見られた。あまりやっていたなかった子も加わるようになり、たくさんの子がドッジボールをすることができた。28日には貝取学童クラブとドッジボール交流会を開催し、遊びを通じて他学童クラブとの交流をすることができた。</li> <li>・工作期間にはブラバンを使った「アンブレラマーカ―」作りを行った。鉛筆で塗れるブラバンだったため、ブラバン工作後に写し絵や塗り絵で遊ぶ子が増えて、新しい遊びに挑戦するきっかけになった行事だった。</li> </ul>	6月1日～ アンブレラマーカ―工作 13日(火)～28日(水) 個人面談 21日(水) お誕生会 28日(水) ドッジボール交流会	入所:1名
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年以上の猛暑になり、熱中症に気をつけながら育成する日が多かった。</li> <li>・子どもたちには水分をこまめに摂るように周知し、屋外へ行く際は塩分チャージタブレットを食べさせたり、休憩時間を長めにとるなどの対応をした。あまりにも暑い日は屋外へは行かなかったが、日陰で活動ができそうな日は遊びを虫捕りだけに制限するなどの対応をした。</li> </ul>	18日(火) 誕生会 19日(水) 交通安全教室 20日(木) 昼食会	退所:1名
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・猛暑が続き熱中症指数が危険の値を示したため、屋外で遊べないことが多かった。その分屋内遊びを充実させるため、数週間にわたり工作期間を設けて、ブラバン作りやスクイズ作りなど時間をかけてじっくり工作に取り組めるようにした。</li> <li>・夏休み前に「ポケモンカード初心者講習」を行ったことで今まであまり興味を持っていなかった1年生や女の子たちもポケモンカードで遊ぶようになった。準備したポケモンカードが全部出払うこともあり、外遊びに行けない日でも室内で楽しく過ごしているようだった。</li> <li>・夕涼み会では貝取小学校のグラウンドを使用し、屋外で映画会を行った。当日は子ども、保護者合わせて100名を超える参加で、夏の夜空の元、映画を楽しんだ。</li> </ul>	10日(木) 夕涼み会(星空映画会) 3日(木)、23日(水)、30日(水) 上北沢こぐま保育園ボランティア 30日(水) 誕生会	夏入退所:1名
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暑さが続く中、少しずつ熱中症指数が下がってきたことにより、外遊びの制限をかけなくてもよくなった。そのため、雨の日おもちのポケモンカードで遊べる日が少なくなり落胆していた子も、サッカーや鬼ごっこなどを楽しんでいた。</li> <li>・来月の行事である「おみせやさん」の準備が始まり、3年生以上ががんばっていた。9月最終週には2年生からのお手伝いも募集し、本格的に必要なものを各店舗で話し合っていた。</li> <li>・お店当番ではない1、2年生も心待ちにしている様子だった。また、今年度から家族の参加を可能にしたため、たくさんのお景品が必要になり、その景品づくりを手伝っていた。</li> </ul>	6日(水) 総合防災訓練 13日(水) 歯科指導 20日(水) 誕生会	入所:1名 退所:5名
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気温が下がり、先月と比べて大分過ごしやすかった。サッカーや鬼ごっこなどで体を動かす子が多く、気持ちよさそうにグラウンドを走りまわる姿があった。</li> <li>・放課後子ども教室が始まったことで、学童クラブの子以外もグラウンドを利用し始めたが、声をかけあって「花いちもんめ」や「サッカー」など、一緒になって遊んでいる様子があった。放課後子ども教室に参加する子と学校で約束してから学童クラブに出席する子もいて、今までの遊び方から少し変化があった。また、外遊びを行う際には放課後子ども教室の職員と情報の共有をし、それぞれの様子を見るようにした。</li> <li>・おみせやさんでは3年生を中心に準備を進め、当日は7つのお店を出店した。保護者を含め200名近い参加があり、大盛況だった。</li> </ul>	14日(土) おみせやさん 18日(水) おるすばん講座 24日(火) 冬時間降所開始 25日(水) 誕生会	退所:2名

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月に入ってから気温の高い日が数日続き、半袖で遊ぶ子が多かった。しかし、11月の後半からは急に気温が低くなり、体調不良で休みになる子も増え、体調管理が難しい一か月だった。</li> <li>・放課後子ども教室で流行している「大学生ゲーム」をして遊ぶ子が増え、遊びの幅が広がった。子ども達の間でも細かいルールの違いがあり、「今のはセーフだったよね」等とルールの確認をしながら遊ぶ様子が見られた。</li> <li>・3年生は遠足の準備で会議をすることが多くなり、遊べる時間が短い日が増えたが積極的に会議に参加していた。遠足当日は、途中で体調不良を訴える子もいたが、3年生全員で遠足に行くことができた。</li> <li>・3年生遠足ではロマンスカーを使い、「新江ノ島水族館」へ行った。当日は気温が低く、風が冷たい一日だったが屋内で過ごすことができたので、気候に左右されることなく遠足を実施できた。</li> </ul>	11日(土) 3年生遠足 14日(火)～30日(木) 個人面談 15日(水) 避難訓練 22日(水) 誕生会	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月の初めごろからインフルエンザなどの感染症でお休みする子が増え、登所する人数が比較的少ない一か月だった。</li> <li>・サッカー交流会を行うことが決まり、参加したい子たちが毎日サッカーを練習していた。冬時間降所を行っている分遊び時間が短いため、一分一秒でも早く練習するために、宿題が終わると「早く外へ出たい」と言っていた。</li> <li>・先月の3年生遠足に続き、お楽しみ会のために3年生は会議をする日が多かったが、積極的に発言したり、役割に立候補したりしていた。1,2年生の中には「いいなあ」と憧れを感じている姿が見られた。集団遊びでは『オオカミとヒツジ』という鬼ごっこをした。真剣に取り組むあまり悔し涙を流す子もいたが、鬼が変わるタイミングで「もう一度がんばる」と言って挑戦している子もいた。</li> <li>・冬の工作の絵馬づくりでは、願い事を何にしようか悩んでいる子や、絵やスタンプだけでなく折り紙を貼ってアレンジする子もいた。工作期間が終わると、玄関から育成室に向かう間の壁に展示し、友達の子作品を見て「これすごいいね」「絵じょうずだね」と言って褒めあっている様子が見られた。</li> </ul>	6日(水)～12日(火) 冬の工作 13日(水) 誕生会・防犯訓練 20日(水) お楽しみ会 22日(金) 昼食会 26日(火) 上北沢こぐま保育園ボランティア 27日(水) サッカー交流会 28日(木) 大掃除	入所:1名
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬休みの間は、長い時間遊ぶことができるため、12月にクリスマスプレゼントとして購入したおもちゃでじっくり遊ぶことができた。大きいパズルなども時間がある分、完成させたことを喜んでいる様子が見られた。</li> <li>・1月下旬には、相撲を取って遊ぶ子がいた。高学年の子は職員を誘って勝負をし、勝ったことを笑顔で報告していた。</li> <li>・3年生は、卒クラブ時に配付する「3年生アルバム」に載せるインタビューを書いたり、写真を撮ったりした。好みの服装であったり、友達と似ている服を着て、大人に声をかける様子が見られた。</li> </ul>	13日(土) 冬時間降所終了 17日(水) 誕生会 25日(木) 避難訓練	退所:1名
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で縄跳び週間があった影響により、多くの子が学童クラブでも大縄跳びで遊んでいた。また、バスケットボールやドッジボールなどボール遊びをする子も増え、室内ではトランプタワーや新しいボードゲームに挑戦する子がいて、子どもたちの遊びの幅が広がっていた。</li> <li>・2日には段ボールで作った鬼に「自分の直したいこと、がんばりたいこと」を書いた紙を丸めてぶつける疑似節分をした。お腹にネットがついていて、子どもたちはその網の中に丸めた紙を入れられるかどうかを楽しんでいた。「自分たちで鬼を動かす役をやってもいい？」と聞いて、鬼を動かしたり落ちている丸めた紙を拾ったりする子がいて、自分たちで行事を楽しんでいた。</li> </ul>	14日(水) 防犯訓練 21日(水) 誕生会	
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童館と学童クラブ、放課後子ども教室共催のドッジボール大会があり、希望者を募って参加した。参加する子を中心にドッジボールの練習をする姿があり、大会に向けて子どもたちは徐々にやる気に満ちていった。大会では勝ったり負けたりを繰り返していたが、子どもたちからは「楽しかった」という満足そうな声が返ってきた。</li> <li>・3年生は進級お祝い会の準備があり、忙しくしていたが3年生会議の呼びかけやリハーサルにも積極的に参加していた。「予定があったが練習があるから」と予定を変更し学童クラブに出席した子もいて、子どもたちのやる気を感じた。進級お祝い会後に感想を尋ねると全員が「やってよかった」と話し、子どもたちにとっても思い出に残る進級お祝い会になった様子だった。</li> </ul>	6日(水) 3年生児童館見学 11日(月) 避難訓練 13日(水) 誕生会 19日(火) 進級お祝い会 22日(金) 昼食会 児童館、学童クラブ、放課後子ども教室共催ドッジボール大会	

2023年度 貝取小学童クラブ 参加研修一覧

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア アパス 該当	自主研 修対象	備考
1	正職員	日本学童保育学会 第12回研究大会	日本学童保育学会	オンライン	6月	学童保育についての研究発表	×	○	
2	正職員	ティーチャー トレーニング	島田療育センター	島田療育 センター	7月	子どもの見立てと対応について	×	×	
3	正職員	学担中級編	多摩市	市内学童クラブ	7月～	学担基礎編について	×	×	
4	正職員	中堅層研修	多摩福祉会	法人内施設	6月～	中堅職員育成研修	×	×	
5	全職員	保育・学童支援 合同研究集会	多摩福祉会	法人内施設	11月	中堅職員として求められるものと は	×	×	
6	正職員	学童クラブ 担当者会議	多摩市	貝取小学童 クラブ	10月～2月	防災・子ども家庭支援センター・ 応急手当・島田療育センター	×	×	
7	正職員	ヤングケアラー研修	多摩市	オンライン	10月	ヤングケアラーの 問題点について	×	×	
8	正職員	たま研	学童クラブ職員	法人内 学童クラブ	6月～12月	職員による自主的な研修	×	×	
9	正職員	支援員研修	東京都	品川	6月～7月	放課後児童支援員認定資格研修	×	×	
10	正職員	島田全体研修	多摩市	オンライン	1月	子どもの支援について	×	×	
11	正職員	アレルギー研修	東京都	オンライン	2月	食物アレルギーについて	×	×	
12	正職員	東京都放課後子供 総合プラン研修	東京都	国立オリンピック 記念 青少年総合セン	11月	学校との連携による放課後活動の 充実について	×	×	
13	正職員	課内研修	多摩市	ベルブ永山	12月・3月	不適切保育	×	×	
14	正職員	救命講習	多摩市	市内児童館	9月	救急救命講習	×	×	
15	正職員	1, 2年目研修	多摩市	市内学童クラブ	9月・11月	島田療育センター	×	×	
16	正職員	基礎学担	多摩市	法人内施設	11月	多摩市学童クラブ育成支援要領に ついて	×	×	
17	正職員	新入職研修	法人	こぐま保育園	2月	入職時研修	×	×	

有期職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア アパス 該当	自主研 修対象	備考
1	有期契約職員	放課後児童支援員研修	東京都	オンライン	6月～7月	支援員の資格取得		×	

## 2023 年度 貝取小放課後子ども教室事業報告

1. 児童数 221 名（2023 年 4 月 1 日現在）
2. 対象年齢 6 歳～12 歳（小学 1 年生～6 年生）
3. 活動日 2023 年 10 月 2 日開始 給食のある平日
4. 活動時間 学校下校時～17:00
5. 登録児童数（2024 年 3 月 31 日現在）

	計
1 年生	26 名
2 年生	33 名
3 年生	30 名
4 年生	32 名
5 年生	9 名
6 年生	19 名
みどり学級	20 名
計	149 名

### 6. 職員体制

正職員 1 名 （運営コーディネーター1 名）  
 有期契約職員 3 名 （リーダー1 名 運営スタッフ 2 名）

（1） 正職員（2023 年 4 月 1 日現在）

職種	室長
人数	1 名

（2） 有期契約職員（3 名）

契約時間	5H× 週 5 日	3.5H× 週 4 日	3.5H× 週 3 日
人数	1 名	1 名	1 名

（3） 職員研修

・学童クラブ職員対象の研修に加え、放課後子ども教室担当職員対象の研修にも併せて参加

することができた。

・職員の自主的な研修の場である「たま研」にも放課後子ども教室担当として参加した。職員交流を中心に他施設での行事の様子や計画書の意義について議論を行った。

## 7. 2023 年度に取り組んだこと

### <全体について>

- ・ 従来の PTA が運営していた一か月に一度開催の事業とは異なり、週 5 日行うという点が大きく変わった。子どもたちからも毎日遊べる場所が出来てうれしいという声が上がった。学童クラブに通っていない子どもたちが放課後に職員の見守りがある中、校内で遊ぶことが出来る居場所を増やすことが出来た。
- ・ 子どもたちの求めるニーズに応えられるよう、匿名で意見を投稿出来る『おねがいボックス』を設置した。日々たくさんの意見が寄せられ、出た意見を参考にしながら遊具やルールについて子どもたちと共に決めていくことが出来た。

### <活動について>

- ・ 学童クラブの避難訓練と共に、災害時に備えて避難訓練を行った。
- ・ 日々振り返りと反省の時間を十分に取、子どもたちの様子や配慮の方法についての意見交換を行った。どの職員が見守りに入ってもわかるように詳細に記録を取り、方向性の相違が出ないように努めた。また学校とも常に連携し、気になった子どもの様子については都度意見交換を行い、子どもたちを包括的に見守ることを心掛けた。
- ・ 東京都の人材育成プログラムを利用し、ブラインドサッカーと和太鼓教室を行った。参加した子どもたちからは、初めての体験に好意的な意見が多く聞かれた。
- ・ 工作週間を設け、不要になった T シャツを再利用したエコバッグ作りを行った。SNS を通じて工作週間の周知を行ったが、保護者に伝わっておらず、持ち物としていた古 T シャツを持ってこない子がたくさんいた。行事の周知については今後も課題である。
- ・ 学童クラブ、児童館と共催でドッジボール大会を行った。参加した子どもたちは大会に向けて日々練習に励み、地域の子との交流を楽しんでいた。

### <不登校児童への対応>

- ・ 毎日学校に通うことは難しいが、放課後子ども教室で友だちと過ごすことを楽しみにくるという子もいた。そのような子も分け隔てなく受け入れた。
- ・ 学校には行き渋りをしていたが、放課後子ども教室が出来てから交友関係が広がり、学校へ行ける日が増えたという子もいた。

#### <保護者との関係>

- ・ Instagram や X を通じて放課後子ども教室での様子や行事の周知などを行った。
- ・ 保護者が子どもの所在確認や問い合わせ等を学校にすることが多かったため、学校とも相談をし、放課後子ども教室の電話番号を学校の配信システムを通じて全家庭に周知した。周知後は学校に対する問い合わせは減った。
- ・ 怪我や喧嘩について保護者と電話でやりとりを行うことが何度かあった。学童クラブの在籍児童の保護者は学童クラブと同様の対応を求めてくることが多かったため、その都度説明を行った。今後は学童クラブの保護者会等を通じて、放課後子ども教室とはどのような場所なのかということを伝えていく。

#### <環境面>

- ・ 子どもたちがくつろげるようにソファや座布団などを数多く用意した。また、一人で来ても楽しめるように漫画本を子どもたちのリクエストを参考に充実させた。
- ・ 活動部屋には 6 人掛けの座卓を 7 台用意し、受付部屋には 4 人掛けのローテーブルを 2 台用意した。子どもたちはその日のメンバーや雰囲気ですぐ部屋を決め、勉強や工作に取り組んでいた。
- ・ 利用時間のバラつきから集まって話す機会が無いため、掲示物やポスターなどを使い、1 日のスケジュールや行事のお知らせなど視覚的に情報が入りやすいようにした。

#### <関係機関>

- ・ 学童クラブとは日々密に連絡を取り合い、学童クラブ在籍の利用児童についての情報共有を行った。学校とも気になる児童についての情報を随時共有し、多角的に子どもたちの様子を見守るようにした。
- ・ 子ども家庭支援センターと利用児童について情報共有を行った。
- ・ 多摩市青少年問題協議会（青少協）に出席し、地域に向けて放課後子ども教室の活動の周知、報告を行った。
- ・ 多摩市放課後子ども教室安全サポートスタッフリーダー会議に参加し、多摩市内で活動する放課後子ども教室のスタッフと情報共有を行った。

#### <職場として>

- ・ 日々打ち合わせや振り返りの時間を十分に確保し、職員全員が意見を言い合える環境を作るようにした。立場が違う職員同士も隔たり無く意見を交わし合い、子どもたちのより良い放課後のために議論を重ね、今後の方向性を確認した。
- ・ 事前に相談を受けた上で、有給休暇を取得出来るような環境を整えた。